

科目名	☆教職概論（1機ナ建宇情生物美デ）				開講学年	1	講義コード	1810201	区分	選択	
英文表記	Introduction to the teaching Profession				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	原北 祥悟										
研究室	本館付属棟311						オフィス アワー 昼休み（本館付属棟311）				
メールアドレス	harakita@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	学校教育 専門職としての教師 教職の役割 チーム学校 倫理観 教養的知識 自己管理能力										
授業概要	教職の意味と意義、教員養成(教師教育)の歴史、教育公務員としての教員の法的位置づけ、学校の組織体制における教員の職務及び役割等について、アクティブラーニングを取り入れた学修活動を展開する。また、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育施行令、学校教育法施行規則、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、地方公務員法、教育公務員特例法等の目的と内容について学修し、教育に関連する様々な事項の法的根拠についての理解を深めることを目的とする。本科目の講義等を通して、教職の基礎的知識だけでなく人間関係形成・社会形成能力等を養う。なお、レポートのフィードバックは、提出期日後初回の講義にて行う。							関連科目			
								連携科目:教育原論、教育制度論 発展科目:教育課程論、教育方法論、道徳教育指導論、教科教育法、事前・事後指導、教育実習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修 【科目区分】・・・教育の基礎的理解に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)							学修・教育目標			
								JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標										
a, b	①	今日の学校教育や教職の社会的意義を理解することができる。									
a, b	②	今日の教員に求められる役割や資質・能力を理解することができる。									
a, d	③	教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解することができる。									
a, f, i	④	「チーム学校」として組織的に迅速に諸課題・諸問題に対応することの重要性を理解することができる。									
g	⑤	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	90	0	0	10	0	100		
教科書	教職論エッセンスー成長し続けるキャリアデザインのために 花書院 九州大学大学院教育法制研究室 978-4865610451										
参考書	最新 教育動向2023 必ず押さえておきたい時事ワード60&視点120 明治図書 教育の未来を研究する会編 418353626X										

予備知識	I.小学校、中学校、高等学校の学校制度 II.小学校、中学校、高等学校の教員の職務内容(校務分掌を含む) III.熊本県教育委員会が出している「くまもとの教職員像」をパソコンで検索し、精読しておくこと。
実務経験のある教員	
評価明細基準	I.レポート 90点 ・中間レポート課題 30点・最終課題レポート 40点・毎時のワークシート 20点 II.学修到達度レポート(ポートフォリオ) 10点

1.将来、教職を目指す学生は必ず受講し積極的に授業に参加すること。2.授業中に指示した課題レポートは期日を厳守して提出すること。3.教科書付属のワークシートを毎時使用します。必ず教科書を購入すること。4.授業内容の予習・復習をきちんと行うこと。5.特定のオフィスアワーを設定していませんので、質問等を希望する場合は、事前に希望の日時について上記記載のメールアドレスまで連絡をしてください。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	教師像をさぐる	対面	【予習】教科書の第1章を精読してくる。【復習】ノートをよく読み返しておくこと。	30 30
	内容	オリエンテーションののち、戦前・戦後の教師像を追い、今日の教師像がどのように構築されてきたのかその概要を学ぶ。それを踏まえ、自らの目指す教師像を模索する。	講義		
2回	テーマ	教員養成の歴史	対面	【予習】教科書の指定された箇所を精読してくる。【復習】ノートをよく読み返しておくこと。	各30
	内容	明治時代から戦後の教員養成改革に至るまでの流れを学ぶと同時に、免許制度の歴史（免許更新制まで）と今日の教職課程で求められることについて学ぶ。	講義		
3回	テーマ	教師の労働条件	対面	【予習】教科書の指定された箇所を精読してくる。【復習】教科書、配布資料で扱った範囲をよく復習しておくこと。	各30
	内容	労働の観点から、教育労働の特殊性とそれに基づく労働条件がどのように整備されているのか学ぶ。まとめとして、教職と教職以外の職業の労働条件を比較し、自身の考えをまとめる。	講義 演習		
4回	テーマ	教育公務員の身分、任用資格、服務	対面	【予習】教科書の指定された箇所を精読してくる。【復習】教科書、配布資料を参照しながらノートをよく読んでおくこと。	各30
	内容	公立学校の教員について、教育公務員としての教員の「身分」と「任用資格」及び「服務」等について、教育関係法規をもとに今日的論点を提示する。	講義		
5回	テーマ	教育実習の意義	対面	【予習】教科書の指定された箇所を精読してくる。【復習】ノートをよく読み返しておくこと。	各30
	内容	教育実習の概要および内容・方法例について学び、教育実習の意義について考える。	講義 演習		
6回	テーマ	教員採用の特徴と教員採用試験	対面	【予習】各県の採用試験の内容について調べる。【復習】ノート、配布資料、教科書の読み返し。	各30
	内容	教員採用の特徴、教員採用試験の近年の動向、教員採用をめぐる今日的課題や私立学校における採用など教員採用の全体像について学ぶ。	講義 演習		
7回	テーマ	教員の職務内容	対面	【予習】教科書の指定された箇所を精読してくる。【復習】ノートの読み返し。	各30
	内容	教員の職務内容について、法的な役割を学ぶ。また、教員の実際の職務内容について、映像教材を通じて理解する。	講義		
8回	テーマ	学校組織と校務分掌	対面	【予習】教科書と配布資料の指定された箇所を精読してくる。【復習】ノートの読み返し。	各30
	内容	学校組織と校務分掌の内容について、実際の事例をもとに説明する。その上で、中学校・高校での経験をもとに今日の学校組織をめぐる課題を析出する。	講義 演習		
9回	テーマ	教員の資質向上と研修	対面	【予習】教科書と配布資料の指定された箇所を精読してくる。【復習】ノートの読み返し。	各30
	内容	教師の求められる資質能力を踏まえ、職員研修の意義と研修制度の形態や種類について学ぶ。	講義 演習		
10回	テーマ	授業づくりと教材研究	対面	【予習】子どもたちになぜ／何を「教える」のか、どのように「教える」のか考えること。【復習】ノートの読み返し。	各30
	内容	年間指導計画や単元計画の概要を踏まえ、授業がどのように作られているのかその全体像を学ぶ。	講義 演習		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	生徒指導と教育相談、特別支援教育	対面	【予習】「体罰」と「懲戒」の違いについて調べる。【復習】ノートの読み返し。	各30
	内容	生徒指導、教育相談の内容とその意義・特徴を学ぶ。また、特別支援教育の全体像と特別な支援を必要とする子どもたちへの支援について考える。	講義		
12回	テーマ	学級経営	対面	【予習】良い学級とはなにか、自身の経験に基づき整理する。【復習】ノートの読み返し。	各30
	内容	学級を運営するとはどういうことであるのか学ぶ。学級集団の特徴を捉えた上で、学級担任・子ども・保護者をつなぐ学級経営について考える。	講義 演習		
13回	テーマ	チーム学校の意味と意義	対面	【予習】学校を取り巻く諸課題について整理し、どのような解決策があるか考える。【復習】ノートの読み返し。	30 30
	内容	複雑化・多様化が進む社会のなかで、学校が「チーム学校」として、保護者や地域社会と連携し、組織的に諸課題・諸問題に対応することの重要性について学ぶ。	講義 演習		
14回	テーマ	未来の教師	対面	【予習】46-47年後(自身が65歳)の社会の様子を考える。【復習】ノートの読み返し。	60 30
	内容	AI・IoT時代への突入とともに、我々の前には少子化、グローバル化、貧困の格差、環境問題など誰も経験したことがない様々な課題が待ち受けている。予測不能な未来社会を生きる子どもたちにはどのような「生きる力」が求められているのか考える。	講義 演習		
15回	テーマ	総括的評価とまとめ	対面	【予習】初回からこれまでの講義内容を復習する。	90
	内容	最終課題レポートの提示と学修内容のまとめ	講義		

科目名	☆工業教育概論（1機建字情）				開講学年	1	講義コード	1810401	区分	選択		
英文表記	Introduction to teaching industrial education				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	吉塚治生 山路隆文 小林健児 北田良二 竹田雄祐 里永憲昭 中牟田侑昌 下田孝幸 東康二 村田泰孝 秋元一秀 上野賢仁											
研究室	各担当教員より指示						オフィス アワー 各担当教員より指示					
メールアドレス	yoshi@ed.sojo-u.ac.jp											
キーワード	工業倫理 環境エネルギー問題 高度情報通信技術 エレクトロニクス化 キャリアデザイン能力 教養的知識 リテラシー 自己管理能力											
授業概要	工業教育概論は、ものづくりを担うスペシャリストを育成する目的で行われる工業教育に必要な、各専門分野(機械・材料・電気電子・制御・情報・メカトロニクス・建築・構造・計画・環境等)を総合的・包括的に学び、工業高校の教師に求められる知識・能力を身に付けるための科目である。日本では、教育職員免許法に基づいて、学校教育法の第1条に定める学校の、教諭・助教諭・養護教諭・養護助教諭・栄養教諭・講師の職に就いている者は、各種の免許状の授与を受けている者でなければならないとされている。その中で教科「工業」の教員免許は、「産業としての工業の各分野に関する知識と技術を習得させることなどを目的とする」とある。これは、自身の専門分野だけでなく、工業のすべての分野についても知識を有していることが求められている。実際の学校においても自身の専門教科の他に「工業に関する学科」における共通科目として「工業技術基礎」「課題研究」「実習」「製図」「工業数理基礎」「情報技術基礎」等の科目を担当しなければならない。このことを踏まえて、本講座ではオムニバス形態で各専門学科の基礎的・基本的な内容を講義し、工業教育に必要な基礎的な汎用能力を高め、専門性の進化を図る。1 自身の専門分野外の内容もあるが、自身が指導することを想定して、積極的に受講すること。2 オムニバス形態であるが、講義ごとに完結するものではないことを理解しておくこと。3 課題やレポートは期限を厳守すること。各課題レポートのフィードバックについては担当教員より指示をする。								関連科目		工業科教育法Ⅰ 工業科教育法Ⅱ	
									建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・必修【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(高等学校 工業)【各科目に含めることが必要な事項】・・・工業の関係科目								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
①	工業教育は生涯にわたって学び続ける意欲と態度を有する、将来のスペシャリストを育成するという役割が期待されている。その意味で工業科目の基礎的・基本的な知識・技術を理解し、工業高校の教師に求められる知識・能力について、自身の考え方をまとめレポートにして発表することができる。											
②	ものづくりに関する基礎的・基本的な基盤技術や、安全性を優先した工業製品の生産や社会基盤整備などの在り方を理解し、工業倫理及び環境やエネルギー問題について考察し、レポートを作成するなど文章で説明することができる。											
③	マルチメディアや高度情報通信技術の方向性について理解し、工業技術のエレクトロニクス化や製造技術のシステム化における工業教育の本質を理解し、自分の考えを整理してレポートにして報告することができる。											
④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。											
⑤												
⑥												
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	90	0	0	10	0	100			
教科書												
参考書	基礎から学ぶ 電気電子・情報通信工学 講談社 田口俊弘、堀内利一、鹿間信介 Short History of Circuits and Systems River Publishers Franco Maloberti, Anthony C. DaviesA 土木教程選書 土木工学概論 鹿島出版会 石井一郎											

予備知識	キャリア教育について
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.レポート（1）オムニバス 6点×15回＝90点 ・学生の到達度目標1【2-6キャリアデザイン能力】30点分で評価 ・学生の到達度目標2【1-1教養的知識】30点分で評価 ・学生の到達度目標3【2-2リテラシー】30点分で評価 2.ポートフォリオ 10点 ・学生の到達度目標4【3-2自己管理能力】10点分で評価 ・到達目標を達成できたかを評価する。各課題レポートのフィードバックについては担当教員より指示をする。

講義の要領は次の通りである。1:受講学生はWebclassから講義の流れを開き該当時間の講義の流れを確認する。2:講義用資料をダウンロードして、印刷をするか、ファイルを保存して確認できる状態にしておくこと。3:レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は不正行為とみなすので絶対にしないこと。4:各課題レポートのフィードバックについては担当教員より指示をするが、不明な点や質問がある場合は、Webclass内のメールを利用して行うか、担当教員より指示のある場合はその方法により質問をすること。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容	開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	<p>テーマ 【オリエンテーション】</p> <p>内容 工業教育の役割、教育職員免許状取得資格(工業)、教科(工業)の内容、キャリア教育に関する基礎的な事項を講義し、工業高校の教師に求められる専門性について考察する。課題レポート「私が工業科教員免許を取得する理由」(担当:吉塚治生)</p>	講義 演習	各担当教員より指示する。課題レポートについて指導についても指示をする。	30
2回	<p>テーマ 情報システムの階層構造</p> <p>内容 通信ネットワークやコンピュータなどの情報通信システムはソフトウェア、ハードウェア共に階層構造を採用している。階層構造が開発者、設計者の分業を可能とし、一人の人間では全体を把握することが困難なほどに複雑な技術発展を可能にしたことを解説する。(担当:山路隆文)</p>	講義 演習	各担当教員より指示する。課題レポートについて指導についても指示をする。	60
3回	<p>テーマ 工業を支えるソフトウェア</p> <p>内容 設計支援ソフトウェアの事例として半導体集積回路設計のソフトウェアについて紹介する。デジタル回路設計ではCMOS論理回路やブール代数も必要であるが現実的にはハードウェア記述言語による設計が行われていてソフトウェア開発に近いことを解説する。(担当:山路隆文)</p>	講義 演習	各担当教員より指示する。課題レポートについて指導についても指示をする。	60
4回	<p>テーマ 電気電子通信技術の歴史</p> <p>内容 デジババ、オーム、ギルヒホッフなど回路の基礎理論を導いた人達、マックスウェル、マルコニなど電波のパイオニア、事業家としてのエジソンの業績等を紹介する。(担当:山路隆文)</p>	講義 演習	各担当教員より指示する。課題レポートについて指導についても指示をする。	60
5回	<p>テーマ エネルギーの変換と制御</p> <p>内容 発電、配電のしくみ、共振型磁気結合による無線電力伝送、直流電源のための回路技術を概説する。(担当:山路隆文)</p>	講義 演習	各担当教員より指示する。課題レポートについて指導についても指示をする。	60
6回	<p>テーマ 輸送機械分野</p> <p>内容 航空機、ロケット、船、並びに自動車等の輸送機械について、その運動の原理について解説する(担当:小林健児)</p>	講義 演習	各担当教員より指示する。課題レポートについて指導についても指示をする。	60
7回	<p>テーマ 精密機械加工の基礎と役割</p> <p>内容 精密機械加工の種類と特徴、基本原理、市場と製品事例、今後の展望(担当:北田良二)</p>	講義 演習	各担当教員より指示する。課題レポートについて指導についても指示をする。	60
8回	<p>テーマ メカトロニクス分野</p> <p>内容 メカトロニクスに必要な要素技術、設計に関する基礎知識、メカトロニクスの応用事例(担当:竹田雄祐)</p>	講義 演習	各担当教員より指示する。課題レポートについて指導についても指示をする。	60
9回	<p>テーマ 生産技術の概念と生産方法</p> <p>内容 生産とは、生産技術システムとその分類、生産方式と生産管理(担当:里永憲昭)</p>	講義 演習	各担当教員より指示する。課題レポートについて指導についても指示をする。	60
10回	<p>テーマ 金属材料学概論</p> <p>内容 鉄鋼材料および非鉄金属材料の諸性質や用途について(担当:中牟田侑昌)</p>	講義 演習	各担当教員より指示する。課題レポートについて指導についても指示をする。	60

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	非金属材料分野	講義 演習	各担当教員より指示する。課題レポートについて指導についても指示をする。	60
	内容	セラミックスやCFRPなど非金属材料の種類や特徴について(担当:下田孝幸)			
12回	テーマ	構造分野	講義 演習	各担当教員より指示する。課題レポートについて指導についても指示をする。	60
	内容	巨大地震にも耐える建築をめざして、耐震・免震・制振について説明する。(担当:東康二)			
13回	テーマ	設備分野	講義 演習	各担当教員より指示する。課題レポートについて指導についても指示をする。	60
	内容	建築環境工学、建築設備の受け持つ内容とその役割について説明する。(担当:村田泰孝)			
14回	テーマ	計画分野	講義 演習	各担当教員より指示する。課題レポートについて指導についても指示をする。	60
	内容	建築計画の位置づけを行った後、具体的な住宅を取上げ、住み手をイメージし、その空間から規模、寸法、動線について考察する。(担当:秋元一秀)			
15回	テーマ	土木環境分野	講義 演習	各担当教員より指示する。課題レポートについて指導についても指示をする。	60
	内容	土木の歴史、都市の歴史、土木行政、土木事業、土木技術の基礎分野(構造工学、水理学、土質工学、計画学)と応用分野(地盤、材料、交通、構造物、橋梁、河川、港湾、上下水道、廃棄物、環境、防災)について概説する。(担当:上野賢仁)			

科目名	☆総合的な学習の時間の指導法（2機ナ建宇情生物美デ）				開講学年	2	講義コード	1810501	区分	選択	
英文表記	Teaching Method for Comprehensive Learning period				開講期	前期	開講形態	ブレンド授業（対面＋遠隔）	単位数	2	
担当教員	木村 勝美										
研究室	『本館3階303』						オフィス アワー 昼休みの時間（本館3階303）				
メールアドレス	kimura77@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	総合的な学習の時間の創設の趣旨－教養的知識 各学校において定める総合的な学習の時間の目標及び内容－教養的知識 探究的な学習過程－課題解決力 目的や内容に即した学習活動－自己管理能力 全体計画、年間指導計画、単元計画の相互関連－教養的知識 探究的な学習の時間の質を高める学習活動の在り方－協働性 評価の基本的な考え方及び多角的・多面的な評価方法－教養的知識 単元計画としての学習指導案作成への取組－論理性 探究的な学習活動の発表と相互評価－アカデミックスキル										
授業概要	総合的な学習の時間の改訂の趣旨や目標・内容並びに全体計画・年間指導計画・単元計画の作成方法及び総合的な学習の時間の評価方法等についての講義を行う。また、探究的な見方や考え方を培う探究的な学習活動を展開するための単元計画（学習指導案）や関連教材を作成させるとともに、学習活動内容を評価し改善させるなどの演習を行う。総合的な学習の時間の指導計画や単元計画の作成及び探究的な学習活動を通して、課題発見力、情報収集能力、計画力及び課題解決能力を養うとともに、グループ内での協働的活動や調査活動を通して人間関係形成能力や社会形成能力を培う。課題レポートのフィードバックについては、次の授業で模範解答等を示しながら解説する。							関連科目			
								・連携科目：教科教育法、教育課程論、特別活動論、発展科目：事前・事後指導、教育実習、教職実践演習 建築学科のみ 建築総合 建築計画 建築構造			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修 【科目区分】・・・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・・・総合的な探究の時間の指導法							学修・教育目標 JABEE 基準			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
d	①	総合的な学習の時間の意義及び目標・内容並びに各学校の目標・内容の設定方法等について理解することができる。									
d	②	総合的な学習の時間の全体計画、年間指導計画等の作成方法について理解し、知識や技能を身に付けることができる。									
h,i	③	探究的な学習活動の基本的な考え方や学習過程を理解し、単元計画としての学習指導案を作成することができる。									
d	④	総合的な学習の時間の評価の基本的な考え方や多角的・多面的な評価方法について理解するとともに、単元計画に係る学習指導案に評価の観点及び評価方法を位置づけることができる。									
f,i	⑤	グループで探究課題を設定（発見）し、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の探究的な課題解決学習に取り組み、プレゼンテーションを行うとともに活動内容を評価し改善することができる。									
g	⑥	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	30	60	0	10	0	100		
教科書	総合的な学習の時間の指導に関する自作教材 中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編 東山書房 文部科学省 978-4-8278-1561-0 高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編 学校図書 文部科学省 978-4-7625-0536-2										
参考書	中学校学習指導要領 東山書房 文部科学省 978-4-8278-1558-0 高等学校学習指導要領 東山書房 文部科学省 978-4-8278-1478-1 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開「中学校編」 教育図書 文部科学省 978-4-87730-278-8 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開「高等学校編」 教育出版 文部科学省 978-4-316-30081-8										

予備知識	<p>・小学校・中学校及び高等学校の総合的な学習の時間で習得した知識・技能及び問題解決力・教育原論や教育課程論で学修した総合的な学習の時間に関する知識</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>・学生の到達度目標①【1-1教養的知識】:20点 ⇒総合的な学習の時間の概要を正しく把握できる。・学生の到達度目標②【2-3論理的思考】:20点 ⇒年間指導計画等の作成方法を身に付け、自分で考え作成できる。・学生の到達度目標③【2-3論理的伝達力】:20点 ⇒探究的な学習活動を推進するための単元計画を作成できる。・学生の到達度目標④【2-3論理的判断力】:10点 ⇒評価の基本的な考え方や多角的・多面的な評価方法について理解できる。・学生の到達度目標⑤【3-3協働性】:20点 ⇒グループで探究な活動に取組み、発表することができる。・学生の到達度目標⑥【3-2自己管理能力】:10点 ⇒自己の「学生の到達度目標」を客観的に評価できる。</p>

1.将来、教職を目指す学生は必ず受講し積極的に授業に参加すること。2.授業中(対面授業)に、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3.授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4.対面授業においては、遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5.授業内容の予習・復習をきちんと行うこと。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	総合的な学習の時間の改訂の意義及び教育課程上の役割	対面授業 ----- 講義・演習	【予習】スライド教材2を読み込んでおく。【復習】総合的な学習の時間の創設の趣旨や要点について復習しておく。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	総合的な学習の時間の創設の趣旨と経緯及び改訂の意義や要点並びに教科等の枠を超えた総合的な学習の時間の教育課程上の役割を通して、総合的な学習の時間における学習指導要領の目指す資質・能力の育成の在り方について学ぶ。			
2回	テーマ	総合的な学習の時間の目標	遠隔授業 ----- 講義	【予習】スライド教材3を読み込んでおく。【復習】総合的な学習の時間の目標について復習しておく。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	総合的な学習の時間の目標及びその趣旨（総合的な学習の時間の特質に応じた学習の在り方、総合的な学習の時間で育成することを目指す資質・能力）について学ぶ。			
3回	テーマ	各学校において定める目標及び内容	遠隔授業 ----- 講義	【予習】スライド教材4を読み込んでおく。【復習】各学校において定める目標及び内容について復習しておく。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	学習指導要領の総合的な学習の時間の目標と学校で定める目標との関連、また、各学校において定める総合的な学習の時間の目標及び内容の設定の視点（基本的な考え方、探究課題の設定等）並びに目標や内容の取り扱い等について学ぶ。			
4回	テーマ	総合的な学習の時間の学習指導である探究的な学習の指導の在り方	対面授業 ----- 講義・演習	【予習】スライド教材5を読み込んでおく。【復習】指導計画の作成に当たっての配慮事項について復習しておく。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	総合的な学習の時間の学習指導である探究的な学習の学習過程：課題の設定方法、情報の収集方法、整理・分析の在り方及びまとめ・表現の在り方について具体的に学ぶ。			
5回	テーマ	内容の取扱いについての配慮事項	遠隔授業 ----- 講義	【予習】スライド教材6を読み込んでおく。【復習】内容の取り扱いについての配慮事項について復習する。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	目標や内容に即じた適切な学習活動（探究的な学習）を行うために、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動、情報の収集・整理・発信するなどの学習活動、自然体験等の体験活動、観察・実験、見学・調査等の学習活動等を積極的に取り入れていく必要性のあることについて学ぶ。			
6回	テーマ	総合的な学習の時間の学習指導の実際	遠隔授業 ----- 講義	【予習】スライド教材7を読み込んでおく。【復習】指導計画等の作成方法について復習する。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	総合的な学習の時間の学校現場の取組の動画を視聴し、総合的な学習時間の学習指導の在り方（学習活動・指導方法・学習評価・指導体制等）について学びレポートにまとめる。			
7回	テーマ	指導計画等の作成方法	遠隔授業 ----- 講義	【予習】学修教材8を読み込んでおく。【復習】指導計画等の作成方法について復習する。	30 60
	内容	全体計画、年間指導計画、単元計画との関連及び各指導計画の作成の必要性について学ぶ。また、指導計画の作成に当たって、目標・内容・学習活動・指導方法・学習評価・指導体制等の指導計画作成要素の設定の必要性について学ぶ。			
8回	テーマ	全体計画の作成方法	対面授業 ----- 講義・演習	【予習】スライド教材9を読み込んでおく。【復習】全体計画の作成方法について復習する。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	全体計画に盛り込むべき事項をグループで検討した後、具体的な全体計画の概要（各学校において定める内容等の必須要件、学習活動等の基本的な内容や方針等、生徒の実態・各教科等との関連等）について学ぶ。			
9回	テーマ	年間指導計画の作成	遠隔授業 ----- 講義	【予習】スライド教材10を読み込んでおく。【復習】年間指導計画作成について復習する。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	生徒の学習経験・活動時期・各教科等との関連・外部の教育資源の活用・異校種との連携等に配慮しながら年間指導計画を作成する必要があることを学ぶ。また、主体的・対話的で深い学びを実現する単元計画の具体的な内容を班で検討し発表する。			
10回	テーマ	探究的な学習の時間の質を高める学習活動	対面授業 ----- 講義・演習	【予習】スライド教材11を読み込んでおく。【復習】探究的な学習の質を高める方法について復習しておく。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	探究的な学習の時間の質を高めるための学習活動の在り方（協働的な学習活動・体験的な活動）、施設等の活用方法（情報機器活用・地域の施設利用）及び指導体制の在り方（校内組織・地域との連携）並びに「考えるための技法」について学ぶ。			

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	総合的な学習の時間に係る各学校の具体的取組	遠隔授業	【予習】スライド教材12を読み込んでおく。【復習】全国の各学校の具体的取組をレポートにまとめる。	30 90
	内容	文部科学省作成の「子供が探究的に学ぶ総合的な学習の時間」を通じて、総合的な学習の時間の意義や必要性を明確にするとともに、全国の各学校の具体的取組(横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題等)を把握しレポートにまとめ今後の取組に生かす。	講義		
12回	テーマ	学習評価の在り方及び体制づくり	対面授業	【予習】スライド教材13を読み込んでおく。【復習】学習評価の在り方及び体制づくりについて復習する。課題レポートを作成する。	30 90
	内容	評価の基本的な考え方や留意点及び多角的・多面的な評価方法(ポートフォリオ評価・パフォーマンス評価等)について学ぶ。また、体制整備の基本的な考え方や校内組織の整備の在り方について学ぶ。	講義・演習		
13回	テーマ	単元計画の具体的作成	遠隔授業	【予習】スライド教材14を読み込んでおく。【復習】単元計画の具体的作成、学習指導案を作成する。	30 90
	内容	探究的な学習活動の基本的な考え方や学習過程(課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の仕方)を理解するとともに、探究課題別にグループを編成し、単元計画としての学習指導案作成に取り組む。	講義		
14回	テーマ	学習指導案の作成及び内容の検討	対面授業	【予習】学習活動の発表準備をする。【復習】学習指導案を点検し、改善する。	30 90
	内容	グループごとに探究課題に基づく具体的な単元計画としての学習指導案を作成し、学習指導案の活動内容等について検討(点検・吟味)する。	講義・演習		
15回	テーマ	学習活動の発表及び相互評価	対面授業	【予習】学習活動の発表の準備をする。【復習】発表内容について反省し、改善を図る。	30 90
	内容	各グループが創意工夫した学習活動を発表するとともに、活動内容や発表方法等について相互評価する。	講義・演習		
16回	テーマ	総括的評価とまとめ	対面授業	【復習】発表の反省をまとめる。ポートフォリオ(学修到達度目標レポート)を入力する。	60
	内容	学習活動の発表、また授業全体への総評及び出席状況の確認をする。	講義・演習		

科目名	☆進路指導・生徒指導論（2機ナ建宇情生物美デ）				開講学年	2	講義コード	1810601	区分	教職「必修」	
英文表記	Theory and Practice of Student Guidance				開講期	前期	開講形態	ブレンド授業（対面＋遠隔）	単位数	2	
担当教員	山本 康詞（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 月曜日：4時限目				
メールアドレス	y a m a - s g y @ e d . s o j o - u . a c . j p										
キーワード	①生徒理解 ②教育相談 ③健全育成 ④キャリア教育 ⑤自己実現 コミュニケーション 能力 アカデミックスキル 論理力 自己管理能力										
授業概要	今日の日本社会は、社会状況の変化もあって人間関係が希薄化する傾向にある。同時に家庭・地域社会の教育力が低下し、学校は生徒たちの多様な実態に対応できていないなど様々な問題を抱えている。受講者が将来指導するであろう生徒たちに「将来の生き方への関心を深め、社会人としてのあるべき姿を描かせ、自己実現を意識させていくか。」ということが生徒指導論の授業の概要である。1. 事前に下記のテーマにかかわる課題を示す。いずれもの課題も簡単に解決できないものではあるが、図書館の教職課程に関する推薦図書等を利用して、自分なりの解決法を考えて授業に臨むこと。2. 学習指導要領や生徒指導提要等の講座に関連する箇所を事前に読んでおくこと。3. 「教員の姿が、生徒の将来像である。」という信念を持ち、講義内容から自身の生活を常に顧みて、改善に努めること。4. 試験・小テスト・レポート結果は実施日の次の授業中に学生へフィードバックする。							関連科目			
								1. 教職概論、2. 教育理論、3. 人間と心理、4. 特別活動論、5. 教育制度論、6. 道徳教育論	建築学科のみ	建築総合	建築計画
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修 【科目区分】・・・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・・・生徒指導の理論及び方法／進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
a、b	①	教育の基本的な原理及び教師の責任について理解し、自身の考え方をまとめグループ討議や発表をすることができる。									
d、h	②	今日の様々な問題を抱えた学校の現状を理解し、その課題を解決するための生徒への関わりを考え、レポートを作成するなど文章で説明することができる。									
e、g	③	自ら考え、一人一人の生徒を理解していこうとする姿勢や態度を身に付け、実践的な課題に対し指導の在り方を例示することができる。									
	④	本科目における「学生到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	50	30	10	0	0	10	0	100		
教科書	生徒指導提要 教育図書 文部科学省 978-4-87730-274-0 自作資料集										
参考書	生徒指導論ー真心と優しさー 文化書房博文社 稲垣応顕 978-4-8301-1201-0 生徒指導・進路指導論 ガイダンスとキャリア教育の理論と実践 図書文化 吉田辰雄 978-4-8100-6463-6 犯罪・非行の心理学 有斐閣 藤岡 淳子 978-4641183476										

予備知識	教職員としての心構え,中学生・高校生の現状
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>1.定期試験による評価。50点 ・学生の到達度目標2【2-4アカデミックスキル】20点分で評価 ・学生の到達度目標3【2-3論理力】30点分で評価 2.小テスト 3回実施 10点×3回=30点 ・学生の到達度目標2【2-4アカデミックスキル】15点分で評価 ・学生の到達度目標3【2-3論理力】15点分で評価 3.授業の受講前や受講後の課題として、図書館・図書室の蔵書等を学習させ、それに基づいたレポートを提出 10点 ・学生の到達度目標1【2-1コミュニケーション能力】5点分で評価 ・学生の到達度目標2【2-4アカデミックスキル】5点分で評価 4.ポートフォリオ 学修到達度レポート 10点 【学生の到達度目標】の各項目の達成度とその理由を各200～250文字で入力しプリントアウトして提出 ・学生の到達度目標4【3-2自己管理能力】10点分で評価</p>

- 1.教科書、資料集(2回目の講義で配布)、ノート(ポートフォリオ)を必ず持参すること。
- 2.小テストは必ず提出すること。
- 3.レポートは期限内に提出すること。期限を厳守すること。剽窃等の行為をしないこと。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 生徒指導・進路指導とは	中・高生の現状・実態と考察、授業計画、学校における生徒指導・進路指導の意義	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p1～p3を読んでおく。【復習】参考資料p3～p4を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
2回	テーマ 生徒指導・進路指導論の概念と課題	パーソナリティの発達的理解。教育課程上の位置付け。パーソナリティの形成、パーソナリティ理解の観点。適応と不適応、青年期の特徴。	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p4～p22を読んでおく。【復習】参考資料p4～p6を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
3回	テーマ 生徒指導の原理と方法	生徒指導の要素、生徒指導の人間観と生徒観、生徒指導における視点、生徒の自己決定の重視。	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p40～p74を読んでおく。【復習】参考資料p10～p13を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
4回	テーマ 生徒理解と生徒指導	生徒理解の基本、生徒理解の実際、生徒理解の前提。「ホドスト」(生徒理解について)	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p40～p74を読んでおく。【復習】参考資料p10～p13を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
5回	テーマ 生徒指導・進路指導における教育相談	教育相談の目的、教育相談体制の構築、カウンセリングの基礎知識及び理論、教育相談の進め方。教育相談の意義、スクールカウンセラーとの連携。スクールソーシャルワーカーとの連携。	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p92～p126を読んでおく。【復習】参考資料p14～p22を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 50
6回	テーマ 生徒指導と教科教育	楽しい授業と分かりやすい授業、生徒との信頼を構築する授業の在り方「グループ討議」「課題レポート」	講義 演習 SGD	【予習】参考資料p14～p22を読んでおく。「復習」グループ討議の内容を、他のグループの意見と比較し、レポートにまとめ提出する。	20 40
7回	テーマ 問題行動への対応(1)	反社会的問題行動について、問題行動の早期発見、暴力行為、いじめといじめ問題への対応。インターネット・携帯電話にかかわる問題。被害発生時の対応。	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p152～p175を読んでおく。【復習】参考資料p28～p47を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
8回	テーマ 問題行動への対応(2)	非社会的問題行動について、不登校と校内指導体制の在り方、性に関する課題、命の教育の意義。家出を防ぐ指導の在り方。悩みや病的疾患を抱える生徒への対応。	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p178～p191を読んでおく。【復習】参考資料p23～p27p48～p64を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
9回	テーマ 課題の整理及び意見交換(1)	上記1～8のテーマについてその課題の整理及び意見交換。「ホドスト」(問題行動への対応)	講義 演習 SGD	【予習】ノート(ポートフォリオ)を整理し、自身の意見をまとめる。【復習】意見交換会の感想や自身の考えた内容をレポートにまとめる。	30 60
10回	テーマ 心身の不適応を有する生徒への対応	学習障害について、特別支援教育について、個々の生徒の特性に応じた指導姿勢、保護者との協働、関係機関との連携。	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p152～p162を読んでおく。【復習】参考資料p76～p83を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学級活動と生徒指導・進路指導	講義 演習	【予習】生徒指導提要p75～p91を読んでおく。【復習】参考資料p48～p58を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
	内容	生徒指導と特別活動、生徒指導と学級活動、生徒会と生徒指導、学校行事と生徒指導、進路指導と生徒指導の関係、全体指導と個別指導			
12回	テーマ	進路指導とキャリア教育	講義 演習	【予習】キャリア教育についての配付資料を読んでおく。【復習】配布資料及び参考資料p58～p64を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
	内容	キャリア教育の意義、職業的発達段階と生徒保護者の考える発達課題、進路指導の現状と課題。			
13回	テーマ	生徒指導・進路指導に関する法制度及びと地域や他機関との連携	講義 演習	【予習】生徒指導提要 p192～p223を読んでおく。【復習】与えられた課題について自身の考えをノートにまとめる。	20 40
	内容	校則、懲戒と体罰、出席停止、青少年の保護育成に関する法令等、非行少年の処遇、家庭との連携、地域社会との連携、地域ぐるみで進める青少年の健全育成。			
14回	テーマ	生徒指導・進路指導の今日的課題と教師の成長 課題の整理及び意見交換(2)	講義 演習 SGD	【予習】生徒指導提要 p224～p226を読んでおく。【復習】参考資料p65～p73を読んで必要箇所をノートにまとめる。	20 40
	内容	生徒指導・進路指導の実践と課題、省察と自己評価の意義、教師の資質としての人間力、共感的な人間関係にみる教師の成長、生徒理解にみる教師の成長、教師の成長を促す良好な学校文化、生徒に働きかける技術(まなざしによる指導)上記10～14のテーマについての課題の整理及び意見交換「小テスト3」(信頼される教師)			
15回	テーマ	まとめテスト(定期考査)	講義 演習 SGD	【予習】ノート(ポートフォリオ)を整理し、自身の意見をまとめる。	50
	内容	ポートフォリオによる自己評価 総評、到達度ポートフォリオの提出			

科目名	☆特別支援教育論（2機ナ建宇情生物美デ）				開講学年	2	講義コード	1810801	区分	選択	
英文表記	Introduction to Special Needs Education				開講期	前期／集中	開講形態	ブレンド授業（対面＋遠隔）	単位数	1	
担当教員	河田 将一（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業開始前後の非常勤控室				
メールアドレス	kawata@klc.ac.jp										
キーワード	障害特性の理解と支援(教養的知識,リテラシー) 特別支援教育の教育課程(教養的知識,リテラシー) 体制整備(教養的知識,リテラシー,論理力,倫理観,協働性) 個別の指導計画と個別の教育支援計画(教養的知識,リテラシー,論理力,倫理観,協働性) 特別の教育的ニーズの理解(教養的知識,協調性)										
授業概要	発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が通常の学級にも在籍している現状を踏まえ、当該幼児、児童及び生徒が主体的に学習し、生きる力を身に付けていくために、彼らの学習上又は生活上の困難を理解した上で、個別の教育的ニーズを把握し、園・学校総体として関係機関とも連携した組織的対応をしていくために必要な知識や支援方法を理解する。これらの知識や技術をもとに、社会人として自らの苦手な部分を理解しそれを周りの環境に適合させたり、職業人として関係機関との連携の在り方を学ぶなどの基礎的汎用的能力を身につける。授業等のフィードバックは、8回目の総括講義で行う。							関連科目			
								1.文化社会関連科目:「人間と心理」2.教職関連科目:「教育制度論」「教育方法論」「教育概論」「教育心理学」「教育相談の理論と方法」			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修 【科目区分】・・・教育の基礎的理解に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・・・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
a,d,g,i	①	障害の特性、心身の発達、学習上・生活上の困難等の基礎的知識について理解し例示することができる。									
a,d,g,i	②	特別支援教育に係る教育課程や支援方法を理解し例示することができる。									
a,d,e,g,i	③	特別支援教育の体制整備、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成、他機関等との連携について、その必要性と方法を理解し説明することができる。									
a,d,g,i	④	母国語や貧困の問題等がもたらす特別の教育的ニーズに対しての組織的対応の必要性を理解し説明することができる。									
f,h	⑤	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	60	0	30	0	0	10	0	100		
教科書	なし(配布資料の蓄積を教科書とする)										
参考書	特別支援教育研究(月刊) 東洋館出版社 18807275 実践みんなの特別支援教育(月刊) 学習研究社(学研) 02850788 特別支援教育(季刊) 東洋館出版社										

予備知識	<p>事前に、特別支援教育や、発達障害児の指導・支援に関連する図書を1冊以上読んでおくことが望まれる。特別な支援を必要とする幼児児童生徒の割合は年々増加傾向にあり、特別支援学校や特別支援学級だけでなく、通常の学級に在籍する児童生徒が多く、教育実習を含めて自身が教壇に立つて指導・支援することになるという認識をした上で、予習、授業、復習に臨むこと。</p>
実務経験のある教員	<p style="text-align: center;">河田 将一</p>
評価明細基準	<p>定期試験(総括レポート課題)の成績 60点 毎時間のミニレポートの記載内容 30点 ポートフォリオ:「学習到達度評価レポート」を「SOJOポートフォリオシステム」に入力し、プリントアウトして8回目までに提出 10点</p>

1.出席の扱い方、授業の進め方等の詳細は、初回授業日に具体的に提示する。2.テキストはない。配布プリントを蓄積することで、1冊のテキストができるようにする。3.レポートなどの提出にあたって、調べた文献等がある場合に、適切な表記をせずに、剽窃(ひょうせつ)行為(自らの文面のようにコピー&ペーストする等)を行った場合は、不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	障害特性の理解と支援方法(1)	対面	予習:知的障害、発達障害などの障害について調べる。復習:代表的な障害の特性や困難について振り返る。	30 30
	内容	障害特性、学習上・生活上の困難の理解			
2回	テーマ	障害特性の理解と支援方法(2)	オンデマンド	予習:知的障害児・発達障害児の支援について調べる。復習:客観的視点の重要性と	30 30
	内容	障害特性、学習上・生活上の困難を踏まえた支援方法の理解(1) デゼンメントに基づく指導と支援を中心に			
3回	テーマ	障害特性の理解と支援方法(3)	対面	予習:知的障害児・発達障害児の支援について調べる。復習:授業のユニバーサルデザインについて振り返る。	30 30
	内容	障害特性、学習上・生活上の困難を踏まえた支援方法の理解(2) ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり・指導と支援を中心に			
4回	テーマ	特別支援教育の教育課程	オンデマンド	予習:特別支援教育の制度について調べる。復習:就学前から始まる学校総体での支援を振り返る。	30 30
	内容	インクルーシブ教育システムの構築、就学先等の決定プロセスに関する理解、特別支援学校・特別支援学級・通級による指導に関する制度・内容の理解、自立活動とその内容の理解、交流及び共同学習の理解			
5回	テーマ	特別支援教育の体制整備	対面	予習:特別支援教育の制度について調べる。復習:就学前から始まる学校総体での支援を振り返る。	30 30
	内容	特別支援教育コーディネーターの指名、園・校内委員会の位置付け、研修の充実、特別支援学校のセンター的機能の活用、データベースの活用、ケース検討会の充実			
6回	テーマ	個別の指導計画・教育支援計画の作成等	オンデマンド	予習:個別の指導計画・教育支援計画について調べる。復習:計画がどのように活用されるかを振り返る	30 30
	内容	PDCAサイクルに基づく個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成、他機関との連携の重要性、移行支援の重要性			
7回	テーマ	特別な教育的ニーズの理解と対応	オンデマンド	予習:母国語が違う問題、貧困の問題について調べる。復習:支援の対象が多岐にわたることを振り返る。ポートフォリオ(到達度レポート)の作成	30 30 60
	内容	母国語や貧困の問題等がもたらす特別な教育的ニーズの理解と組織的な対応			
8回	テーマ	試験と総括講義	対面		
	内容	定期試験とこれまでの授業の総括としての講義			
			講義、演習		

科目名	☆理科教育法Ⅰ(2ナ生物)			開講学年	2	講義コード	1810901	区分	選択		
英文表記	Teaching Method of Science I			開講期	前期	開講形態	ブレンド授業(対面+遠隔)	単位数	2		
担当教員	板橋 克美										
研究室	F801					オフィス アワー 随時					
メールアドレス	itahashi@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	理科教育 授業設計(理科) 教材作成(理科) 学習評価(理科) 学習指導案(理科) 論理力 教養的知識 アカデミックスキル										
授業概要	理科教育法では、教科等に関する専門的知識や実践的指導力等の教員として必要な資質・能力とともに、社会人としても必要な人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力などの基礎的・汎用的能力の育成を図る。中学校および高等学校における理科教育においては、実際の理科の授業を行うにあたって身に付けておくべき基本的事項について学習する。学習指導要領に基づき、理科教育の目的、内容、方法、評価などについて基礎的な理解を深め、授業実践のための効果的な指導方法について考察する。また、理科教育の現代的な課題を取り上げて、理科教育の理論との関わりについて解説する。さらに、アクティブラーニングの視点に立った授業改善並びに情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し授業設計に活用する。本講義は、その後の理科教育法Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの基礎となる内容である。なお、各回のレポートは次回授業時にフィードバックするので、次のレポート課題や中間レポート試験、指導案作成に生かすこと。							関連科目			
								基礎科目:教育原論、教育制度論、教職概論、生徒指導論、連携科目:理科教育法Ⅱ、理科教育法Ⅲ、理科教育法Ⅳ、教育方法論、教育心理学 発展科目:事前・事後指導、教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)【各科目に含めることが必要な事項】・・・各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
	学修・教育目標										
JABEE記号	学生の到達度目標										
e,d	①	学習指導要領の変遷などの理科教育の外観と新しい授業法を含めた授業設計について、論理的に考えて自分の意見を述べることができる。									
d,f	②	学習指導要領に示された理科の目標と全体構造、および理科教育の現状と課題などについて理解することができる。									
f,h	③	理科授業の方法と実験・観察の重要性を理解した上で、具体的な授業場面を想定した学習指導案(略案)を作成することができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」を自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	30	0	0	30	0	30	10	0	100		
教科書	中学校学習指導要領解説 理科編 学校図書 文部科学省 978-4-7625-0613-0 中学校理科の教科書(各学年) ※出版社はどこでも可										
参考書	授業中に適宜指示する。										

予備知識	学習指導要領(理科)の内容
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	1.中間レポート試験:30点 2.小レポート:演習①~⑩の10回分 3点×10回=30点 講義の内容に関するレポートについて、評価規準を基に評価する。3.学習指導案(略案):30点 指導案について、各評価規準を基に評価する。4.ポートフォリオ:学修到達度レポート 10点 【学生の到達度目標】の各項目の達成度とその理由を各200~250文字で入力すること。各回のレポートは次回授業時にフィードバックする。

1. 中学校理科および高等学校理科の「教員免許状」の取得を希望する者を対象とする。2. レポートは期限以内に提出すること。3. 授業を受講するための準備として必要な資料作成や終了後のレポート作成に必要な情報収集には、図書館等の蔵書等を活用すること。4. 講義に関する質問・相談等は、オフィスアワーなどを積極的に活用すること。5. レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃（ひようせつ）は不正行為とみなされます。6. 適宜、他大学が提供するオープンな教育リソース（デジタルコンテンツ等）を講義の教材として、使用します。7. 授業計画は予定で、入れ替わることがあります。詳しい予定については授業第1回で説明するので、必ず参加してください。8. オフィスアワーに対面での質問等を希望する場合はF801室にて対応します。teamsやメールでの質問も随時受け付けます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	イントロダクション	対面	【復習】配布資料から理科教員に求められる資質能力について整理しておく。	30
	内容	理科教育法に関する内容を概説し、中央教育審議会等の答申及び実践研究の動向から、理科教員に求められる資質・能力について考える。	講義		
2回	テーマ	理科教育の目的・目標	対面	【予習】学習指導要領解説(理科)を読んでおく。【復習】演習①について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	学習指導要領における理科の目標及び学習内容・内容の取扱い並びに全体構造について学び、演習①(理科の見方・考え方)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
3回	テーマ	理科教育の歴史	対面	【予習】理科教育の移り変わりについて実践研究を調べておく。【復習】演習②について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	科学教育の始まりから現在の理科教育の変遷について、主に学習指導要領の変遷及び実践研究の動向から学び、演習②(学習指導要領の変遷)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
4回	テーマ	理科教育の現状と課題	対面	【予習】理科教育の現状と課題、重要施策について調べておく。【復習】演習③について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	各種調査結果から理科教育の現状と課題及び子供の認識・思考・学力等の実態、理科教育の充実に関わる施策について学び、演習③(理科教育の現状と課題)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
5回	テーマ	理科カリキュラム	対面	【予習】理科カリキュラムとカリキュラムマネジメントについて調べておく。【復習】演習④について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	理科の学習内容や目標などから、理科カリキュラムの構成プロセス・分類について学び、演習④(カリキュラム・マネジメント)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
6回	テーマ	理科教育の学習論	対面	【予習】理科の学習論について調べておく。【復習】演習⑤について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	理科における発見学習など基礎的な学習指導理論やプロセス・スキルについて学び、演習⑤(理科における探究)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
7回	テーマ	前半の講義内容についてのまとめ	オンデマンド	【予習】1~6回の配布資料及び演習レポートを読んでおく。【復習】中間レポートを記述し、期限内に提出する。	45 3 0
	内容	課題研究として、1~7回の学習内容の振り返りと補足解説及び中間レポート試験を行う。	演習		
8回	テーマ	理科授業の方法	対面	【予習】理科授業の方法について調べておく。【復習】演習⑥について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	具体的な理科の授業場面を想定した指導の工夫や指導上の留意点について学び、演習⑥(理科授業における導入)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
9回	テーマ	観察・実験と安全指導	対面	【予習】理科教育の安全管理について調べておく。【復習】演習⑦について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	観察・実験の意義及び指導上の留意点並びに安全管理について学び、演習⑦(実験計画)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
10回	テーマ	教材研究	対面	【予習】理科教育の安全管理について調べておく。【復習】演習⑧について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	教材研究の重要性および実際の教材研究の方法等について学び、演習⑧(教材研究)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	理科における評価	対面	【予習】理科教育の評価について調べておく。【復習】演習⑨について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	理科の学習評価の考え方や目的及び評価の種類と方法について学び、演習⑨(評価計画)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
12回	テーマ	理科におけるアクティブ・ラーニング型授業	対面	【予習】アクティブ・ラーニング型授業の概要と必要性について調べておく。【復習】アクティブ・ラーニング型授業の方法について理解しておく。	30 3 0
	内容	理科におけるアクティブ・ラーニング型授業を実践をしながら、授業の方法や効果について学ぶ。	講義 演習 GD AL		
13回	テーマ	理科教育とICT	対面	【予習】ICT教育の概要と必要性について調べておく。【復習】演習⑩について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	学習過程を支えるICTを活用した授業づくりについて学び、演習⑩(ICTを用いた授業づくり)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
14回	テーマ	学習指導案(略案)	対面	【予習】学習指導案について調べておく。【復習】学習指導案の書き方を整理し、どのような授業をするか構想を練る。ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	30 3 0
	内容	理科の学習指導案(略案)の基本的な書き方について学び、学習指導案と理科授業についてグループ討議を行う。	演習 GD		
15回	テーマ	後半の講義内容についてのまとめ	オンデマンド	【予習】9~14回の配布資料及び演習レポートを読んでおく。【復習】学習指導案(略案)を記述し、期限内に提出する。	45 3 0
	内容	9~14回の学習内容の振り返りと補足解説を行い、学習指導案(略案)の作成を行う。	演習		

科目名	☆地学実験（3ナ微生）			開講学年	3	講義コード	1811301	区分	選択		
英文表記	Earth science student experiments			開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	吉朝朗（非常勤） 板橋 克美										
研究室	本館1階 非常勤講師室 F801					オフィス アワー 授業時間の前後					
メールアドレス	yoshiasa@kumamoto-u.ac.jp										
キーワード	地学 天文 気象 地質 化石 数理スキル 教養的知識 倫理観										
授業概要	<p>自然科学分野で活躍できる教育者・知識人であり、中でも教員や科学技術者を目標とする学生には「地学」は理科・自然科学分野として必要である。講義(実験・実習・演習等)を通して様々な宇宙・地球科学に関する課題に対応できる基礎能力と現象を数量的に捉えられる汎用的解析能力を養う。野外における各種観測方法、天体観望法、天気図・観天望気、地質調査、鉱物・化石鑑定方法、機器分析法、データ解析法等を実験・演習・実習形式で行う。課題設定、調査・解析、結果報告までを含めた、調査、天然試料の分析、データ解析、プレゼンテーション等の能力を身につける。宇宙・地球現象を理解する一助として各テーマの基礎的内容理解のうえで、観察・実験・実習を行う。主な内容は、1)層序・堆積・地質構造、データ処理、2)地史推定のための図学、3)岩石・鉱物の鑑定、結晶構造と相関係、4)天体の観察、5)気象観測(天気図、観天望気)、6)火山活動と災害、7)惑星・衛星の運動、太陽活動、気候の長期変動、化石にみる気候変動、8)自然災害、熊本の災害、9)持続可能な文明と観測、シミュレーションも取り扱う。なお、実験・演習後のレポートは即時返却し、野外実習後のレポートは次回授業時にフィードバックする。</p>							関連科目 関連科目:地学、理科教育法 発展科目:事前・事後指導、教育実習			
								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校 必修 高等学校 選択【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 理科)【各科目に含めることが必要な事項】・・・地学実験(コンピュータ活用を含む。)							学修・教育目標			
								JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標										
a,b,c,d	①	地学分野において求められる課題探究、フィールドにおける調査法、天然試料の分析、データ解析等を通じて調査分析力を身に付け、説明することができる。									
a,c	②	天気図等の作成や露頭観察・地層観察・化石採集・鉱物鑑定・鉱石判定および顕微鏡観察などから、及び示相化石と示準化石の判定・情報解読を行うことができる。									
a,c	③	野外調査を含め、地学実験を安全に行える態度を身に付けた上で、ジオパーク、重要観察地や災害跡地を巡検し、地学現象との関わりをレポートで報告することができる。									
	④	本科目における「学生の到達度目標」を自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	10	70	10	0	10	0	100		
教科書	授業中に指示する										
参考書	Foundation of Earth Science 貸し出し可能										

予備知識	<p>ガイダンス、安全講習を必ず受けること。野外調査等に必要な用具(実験調査用具、地図、防寒具、雨具など)は事前に連絡する。あらかじめ予習により内容を理解しておくこと、連絡した各自必要なものを準備する。各種観察では、レポートの作成・提出を求める。日程調整により野外巡検を行う。天草・三角地域、御船恐竜博物館での学習(バックヤード見学と体験を含む)など行う。なお、地質調査等詳しくは履修者に説明する。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>実験・演習後のレポート 10x5=50点、野外実習後のレポート 4x5=20点、演習・実験中に行う口頭試問・成果発表・小テスト、20点。出席が3/4に満たないものは単位を与えない。図書館の学科推薦図書等を利用した課題への対応も評価する。2回の野外調査を1回でも無断で欠席した学生については、履修しなかったものとして取り扱う。ポートフォリオ評価10点 実験・演習後のレポートは即時返却し、野外実習後のレポートは次回授業時にフィードバックする。</p>

・資料を配る。天体観測、気象観測、鑑定、実験・実習、フィールドにおける調査法、天然試料の分析、データ解析、シミュレーション等を行う。ガイダンス・安全な野外調査における心得を講義・体験する。持続可能文明の必要性、科学的判断力を身に付けるための実験・実習・プレゼンテーション。地学の基盤実験内容・地学実験を行う。観察、実習、標本観察・命名法など多様な学習をする。講義室で内容の講義説明の後実習・実験に移る。レポートとして、科学的報告書を作成・提出する。・レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は不正行為とみなされます。・授業計画は予定で、入れ替わることがあります。詳しい予定については授業第1回で説明するので、必ず参加してください。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容	開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	<p>テーマ ガイダンス・安全講習</p> <p>内容 地学学習・実験・野外活動に安全について、履修にあたっての注意事項、地学を学ぶにあたっての地学学習・実験・野外活動に安全について、観測とスケータリング</p>	実験・演習	実験の意義を理解し、安全に地学関連実験を行うための基本を復習する。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
2回	<p>テーマ 地形図と図学</p> <p>内容 地形図の読み方、地形図記号、地形断面図、地図と利用、図学、地形、地図、雲仙の地形と変化、災害 ◇地形 代表的な「日本の地形」扇状地・三角州・河岸段丘・蛇行・リアス式海岸・海岸段丘・砂州・成層火山・氷河 地形・V字谷・U字谷・砂嘴など、</p>	実験・演習	地形図や代表的な地形について予習しておくこと。野外・フィールドワークの基礎としての図学と技術について復習する。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
3回	<p>テーマ 岩石と鉱物</p> <p>内容 岩石と鉱物、造岩鉱物、鉱石と鉱床、火成岩と堆積岩・変成岩。岩石・鉱物の熱力学、岩石名、造岩鉱物の観察、粘土と岩石、堆積岩、変成岩の特徴、鉱物名</p>	実験・演習	岩石について予習をし、多様な岩石の鑑定と分類方法について復習する。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
4回	<p>テーマ 鉱物の結晶構造</p> <p>内容 鉱物の結晶構造を描く。ゴジビュニターによる結晶構造描写、空間群と結晶格子。石英とミョウバン、方解石と氷、水・氷の特異性と氷河、表層環境</p>	実験・演習	前回の岩石と鉱物について復習すること。鉱物の結晶構造とそこから得られる多様な情報について復習する。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
5回	<p>テーマ 偏光顕微鏡による鉱物鑑定</p> <p>内容 岩石を顕微鏡でみる。偏光顕微鏡による鉱物の鑑定、岩石・鉱物に残る過去の履歴・記録、年代決定、鉱物の不思議な性質</p>	実験・演習	岩石と鉱物について予習しておくこと。偏光顕微鏡を用いた、岩石・鉱物の判定方法について復習する。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
6回	<p>テーマ 天気図と観天望気</p> <p>内容 天気図と観天望気、古気候。天気図と衛星、気象通報、過去の気候、古気候、シミュレーション</p>	実験・演習	天気図を書けるようになり、実施の雲の様子を観察し、天気の変化について復習すること。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
7回	<p>テーマ 災害と地学</p> <p>内容 天災害と地球活動、巨大地震・火山噴火・台風・津波被害、隕石衝突、太陽フレア</p>	実験・演習	災害やカストロフについての実習と予防について復習する。防災について予習しておくこと。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
8回	<p>テーマ 野外学習(巡検1)</p> <p>内容 阿蘇火山堆積物、御船層群と恐竜化石、阿蘇火山堆積物、御船層群と恐竜化石、御船層群の観察。1日かけて行う堆積環境、巡検については、バス運行、天候、実習地の状況、博物館の事情などがあり、受講者へ説明する</p>	実験・演習	野外実習を実地にて行う。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
9回	<p>テーマ 野外学習(巡検1)</p> <p>内容 阿蘇火山堆積物、御船層群と恐竜化石、阿蘇火山堆積物、御船層群と恐竜化石、御船層群の観察。1日かけて行う堆積環境、巡検については、バス運行、天候、実習地の状況、博物館の事情などがあり、受講者へ説明する(対面授業)</p>	実験・演習	野外実習を実地にて行う。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
10回	<p>テーマ 野外学習(巡検2)</p> <p>内容 天草・三角(天候によりプラネタリウム)の地質。天草・三角地域の現世堆積物、中生代の地層と示準・示相化石、海底火山堆積物の観察、不整合。1日かけて行う堆積環境、巡検については、バス運行、天候、実習地の状況など、受講時に説明する。</p>	実験・演習	野外実習を実地にて行う。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	野外学習(巡検2)	実験・演習	野外実習を実地にて行う。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
	内容	天草・三角(天候によりアラネタリウム)の地質。天草・三角地域の現世堆積物、中生代の地層と示準・示相化石、海底火山堆積物の観察、不整合。1日かけて行う堆積環境、巡検については、バス運行、天候、実習地の状況など、受講時に説明する(対面授業)			
12回	テーマ	太陽の日周運動と季節	実験・演習	太陽黒点やフレアなどを望遠鏡を用いて、観測、演習問題を解く。太陽の日周運動等について予習しておくこと。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
	内容	太陽の日周運動と季節、太陽の日周運動と季節による高度変化、および惑星の動きと金星の満ち欠け、ガリレオの観察と地動説			
13回	テーマ	太陽活動と地球への影響。	実験・演習	天体活動の観測方法について復習する。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
	内容	天体望遠鏡、太陽観察、黒点の記録、巨大フレア、太陽活動と地球への影響、季節変化と天体			
14回	テーマ	地球の形状、重力、地磁気	実験・演習	重力や地震等の観測データから、様々な情報の獲得について演習する。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
	内容	地球の形状、重力、地磁気。重力と高度、地球の形状、ジオイド、重力、地磁気、観測と変動、オーロラとバンアレン帯、地球地場が消える			
15回	テーマ	大気・海流、深海流	実験・演習	津波・大気の循環・高層大気等の観測データから、様々な情報の獲得について演習する。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出 ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	180
	内容	大気・海流、深海流の大循環、気候変動と未来、持続可能な文明。大気の構造、大気・海流、深海流の大循環、地球温暖化、			
16回	テーマ	気候変動と未来	実験・演習	気候変動や異常気象の観測データを用いた演習を通じて、未来予測を試みる。時間内に終了しなかったものは、10日以内にレポート等を提出	180
	内容	気候変動と未来、持続可能な文明、未来予測			

科目名	☆教育心理学（3機ナ建宇情微生美デ）				開講学年	3	講義コード	1811401	区分	選択	
英文表記	Educational Psychology				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	中尾 千智										
研究室	本館附属棟317						オフィス アワー 火曜と金曜2限目				
メールアドレス	nakao12@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	発達 学習と記憶 動機づけ 学習集団 教師の態度										
授業概要	<p>教育活動においては、幼児、児童及び生徒の心身の発達過程における基礎的な知識を身に付け、それに沿った学習活動を行わせる必要がある。本講義は教育活動に必要な心身の発達と学習、さらにそれらに適合した教育活動を行うための基礎的な知識を習得するものである。また、本講義は教育活動以外においても、職場における人間関係、リーダーシップなどの汎用的能力を学習できるものでもある。1.授業に出てくる用語の意味をよく理解し、さらにそれを教育活動に活かせるように自ら考え、調べたり質問をしたりして理解を深める。2.授業中に提示した課題(質問)には、友達との会話を深めながら積極的に発表する。3.授業のテーマや課題をよく理解しているか、授業の最後にワークシートを記入し、グループで発表しその日の授業内容を習得する。4.幼児、児童及び生徒の発達や学習、それを踏まえた教育関連の図書を読んでおく。なお、レポートや試験等のフィードバックについては、15回目のまとめで行う。</p>							関連科目			
								<p>1.文化社会関連科目:「人間と心理」「人間と哲学」2.教職関連科目:「教育相談の理論及び方法」「教職実践演習」「道徳教育指導論」「教職 概論」「教育方法論」</p>			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修 【科目区分】・・・教育の基礎的理解に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・・・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
a, d	①	幼児、児童及び生徒の心身の発達過程とその特徴を学ぶことができる。									
d, h	②	幼児、児童及び生徒に関する学習の理論を身につけ、その発達に適合した学習の基礎的な過程を理解し、生徒とのコミュニケーション能力を培うことができる。									
g, h	③	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	35	35	0	20	0	0	10	0	100		
教科書	改訂版実践につながる教育心理学 北樹出版 櫻井茂男 978-4-7793-0654-9										
参考書	<p>キーワード教育心理学 北大路書房 永江誠司 978-4-7628-2793-8 図でわかる発達心理学 福村出版 新井邦二郎 978-4-571-23034-9 コンパクト教育心理学 北大路書房 北尾倫彦 978-4762825224</p>										

予備知識	<p>1.子どもの発達に関する知識をもとに、自身のこれまでの学校生活をもう一度振り返っておく。 2.子どもの学習がどのようにして形成されるかなどを身近な子どもを観察して、知識を深めておく。 3.スポーツ選手がモチベーションを上げるためにどのような工夫をしているか、テレビ等で学習しておく。 4.「人間と心理」で学んだ発達心理学、学習心理学、認知心理学、社会心理学等を復習しておく。 5.幼児、児童及び生徒の発達や学習、それを踏まえた教育活動関連の新聞や雑誌の記事をよく読み、それらについて考えておく。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>1.定期試験(15回目) 35点 2.中間試験(8回目) 35点 3.レポート:いくつかのテーマから選択したものについて、調査し報告する。 A4の1枚、PC使用 1頁40行、1行40文字、MS明朝、10.5p、1200文字以上 10回目にレポートの指示説明を行う。作成後は15回目までに提出する。20点 4.15回目までにポートフォリオ:「学習到達度評価レポート」をSOJOポートフォリオシステムに入力しておくこと。10点</p>

1.試験は中間試験と定期試験のみを行い、追試・再試は実施しない。2.重要な部分のノートをとることを怠らないこと。3.授業後半の振り返り課題を記入し、学んだ事を再学習すること。4.振り返り課題に基づいたグループ発表は積極的に行うこと。5.グループ討論や当てられることが苦手な人は事前に申し出ること。6.レポートは期限以内に提出すること。7.正規出席は15分まで、遅刻出席は30分まで、それ以降は欠席扱いとする。8.レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は、不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	教育心理学とは	対面	予習:シラバスを読んでおく。復習:その日に書いた重要な部分のノートを読み返すこと。	30 30
	内容	ガイダンス。教育心理学とは。発達と学習、子どもを指導する視点について学ぶ。授業後にワークシートを記入しグループで発表する。	講義 SGD		
2回	テーマ	発達(1) 発達のしくみと道筋	対面	予習:第2回目の授業資料(教科書)を読んでおくこと。復習:その日に書いた重要な部分のノートを読み返すこと。	30 30
	内容	発達曲線と発達段階、発達課題、発達を規定する要因等について学ぶ。授業後にワークシートを記入しグループで発表する。	講義 SGD		
3回	テーマ	発達(2) 認知の発達	対面	予習:第3回目の授業資料(教科書)を読んでおくこと。復習:その日に書いた重要な部分のノートを読み返すこと。	30 30
	内容	乳児期、幼児期、児童期、青年期の認知的特徴について学ぶ。授業後にワークシートを記入しグループで発表する。	講義 SGD		
4回	テーマ	発達(3) 人間関係と社会性の発達	対面	予習:第4回目の授業資料(教科書)を読んでおくこと。復習:その日に書いた重要な部分のノートを読み返すこと。	30 30
	内容	人間関係のはじまりや関係の広がり、社会性の発達等について学ぶ。授業後にワークシートを記入しグループで発表する。	講義 SGD		
5回	テーマ	学習(1) 学習理論	対面	予習:第5回目の授業資料(教科書)を読んでおくこと。復習:その日に書いた重要な部分のノートを読み返すこと。	30 30
	内容	学習とは何か、古典的條件づけやオペラント条件づけなどの学習理論について学ぶ。授業後にワークシートを記入しグループで発表する。	講義 SGD		
6回	テーマ	学習(2) 記憶	対面	予習:第6回目の授業資料(教科書)を読んでおくこと。復習:その日に書いた重要な部分のノートを読み返すこと。	30 30
	内容	記憶、忘却、問題解決、メタ認知等について学ぶ。授業後にワークシートを記入しグループで発表する。	講義 SGD		
7回	テーマ	学習(3) 考えること	対面	予習:第7回目の授業資料(教科書)を読んでおくこと。復習:その日に書いた重要な部分のノートを読み返すこと。	30 30
	内容	考えること、アルゴリズム、問題解決の阻害要因推論、メタ認知、知識を身につける教育について学ぶ。授業後にワークシートを記入しグループで発表する。	講義 SGD		
8回	テーマ	動機づけ(1) 意欲	対面	予習:第8回目の授業資料(教科書)を読んでおくこと。復習:その日に書いた重要な部分のノートを読み返すこと。	30 30
	内容	動機づけの定義と種類、発達過程における動機づけ、学習意欲の源について学ぶ。中間試験	講義		
9回	テーマ	動機づけ(2) 無気力原因と対策	対面	予習:第9回目の授業資料(教科書)を読んでおくこと。復習:その日に書いた重要な部分のノートを読み返すこと。	30 30
	内容	無気力になる理由、無気力を防ぐには、発達に即した学習意欲を高める方法について学ぶ。授業後にワークシートを記入しグループで発表する。	講義 SGD		
10回	テーマ	学習指導 生徒の学び方	対面	予習:第10回目の授業資料(教科書)を読んでおくこと。復習:その日に書いた重要な部分のノートを読み返すこと。	30 30
	内容	学習指導の考え方、様々な学習指導の方法、発達や個人に合わせた効果的な学習指導について学ぶ。授業後にワークシートを記入しグループで発表する。	講義 SGD		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	教育評価	対面	予習:第11回目の授業資料(教科書)を読んでおくこと。復習:その日に書いた重要な部分のノートを読み返すこと。	30 30
	内容	教育評価とは何か、教育評価の目的と種類について学ぶ。授業後にワークシートを記入しグループで発表する。	講義 SGD		
12回	テーマ	学級集団 生徒と教師の関係	対面	予習:第12回目の授業資料(教科書)を読んでおくこと。復習:その日に書いた重要な部分のノートを読み返すこと。	30 30
	内容	学級集団の特徴、教師のリーディング、友人関係の発達等について学ぶ。授業後にワークシートを記入しグループで発表する。	講義 SGD		
13回	テーマ	自己とパーソナリティ	対面	予習:第13回目の授業資料(教科書)を読んでおくこと。復習:その日に書いた重要な部分のノートを読み返すこと。	30 30
	内容	自己概念、自己評価と自尊感情、パーソナリティ等について学ぶ。授業後にワークシートを記入しグループで発表する。	講義 SGD		
14回	テーマ	学校不適応	対面	予習:第14回目の授業資料(教科書)を読んでおくこと。復習:その日に書いた重要な部分のノートを読み返すこと。	30 30
	内容	適応、ストレス、学校不適応等について学ぶ。授業後にワークシートを記入しグループで発表する。	講義 SGD		
15回	テーマ	まとめ	対面	予習:これまでの授業資料(教科書)等を読んでおくこと。復習:その日に書いた重要な部分のノートを読み返すこと。学習到達度評価レポート記入	30 30 60
	内容	これまでの講義の振り返りを行う。定期試験	講義		

科目名	☆教育課程論（3機ナ建宇情微生美デ）				開講学年	3	講義コード	1811501	区分	選択	
英文表記	Theory of Curriculum				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	1	
担当教員	原北 祥悟										
研究室	本館付属棟311						オフィス アワー 昼休み（本館付属棟311）				
メールアドレス	harakita@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	学習指導要領 教育課程の編成 カリキュラム・マネジメント										
授業概要	<p>学習指導要領改訂の基本方針や改訂の要点及び変遷についての理解を深める科目である。教育課程の意義や教育関連法令、教育課程編成の原則（法令や学校・生徒・地域の実態等）及び教育課程編成方法（学校教育目標の設定・特色ある教育活動の計画等）並びにカリキュラム・マネジメントの意義や目的・内容、評価等についての講義を行う。本科目の講義や演習等を通して、教育課程（カリキュラム）の基礎的知識だけでなく人間関係形成・社会形成能力等を養う。なお、レポートのフィードバックは、提出期日後初回の講義にて行う。</p>							関連科目			
								<p>・基礎科目：教職概論、教育制度論、教育原論 ・連携科目：教科教育法、道徳教育指導論、総合的な学習の時間の指導法 ・発展科目：事前・事後指導、教育実習、教職実践演習</p>			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修 【科目区分】・・・教育の基礎的理解に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・・・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）</p>							学修・教育目標			
								JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標										
d	①	学習指導要領改訂の基本方針や改訂の変遷等について文章で説明することができる。									
d	②	教育課程編成の意義及び編成方法や内容等について説明することができる。									
h,i	③	年間指導計画に基づき、指導過程や教材等を工夫し、学習指導案を作成するための基本的な知識を身につけることができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	90	0	0	10	0	100		
教科書	<p>教育課程エッセンス—新学習指導要領を読み解くために 花書院 九州大学大学院教育法制研究室 978-4865611717 中学校学習指導要領解説総則編 ぎょうせい 文部科学省 高等学校学習指導要領解説総則編 東山書房 文部科学省</p>										
参考書											

予備知識	・中学校・高等学校の教科(科目)・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の在り方 ・教職概論、教育制度論、教育原論で学修した知識・技能
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	1.レポート ・中間レポート 30点 ・最終課題レポート 40点 ・毎時のミニッツペーパー 20点 2.学修到達度レポート(ポートフォリオ) 10点

1.将来、教職を目指す学生は必ず受講し積極的に授業に参加すること。2.授業中に指示した課題レポートは期日を厳守して提出すること。3.教科書に基づいたレポート課題を準備しています。必ず教科書を購入すること。4.授業内容の予習・復習をきちんと行うこと。5.特定のオフィスアワーを設定していませんので、質問等を希望する場合は、事前に希望の日時について上記記載のメールアドレスまで連絡をしてください。7.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション・教育課程の概要	対面	【予習】教科書の「はじめに」を読んでおくこと。【復習】教育課程の概要について復習しておく。	30
	内容	教育課程論のシラバス及び履修上の注意について説明する。「教育課程」と「カリキュラム」といった用語とその内容について学び、隠れたカリキュラムについて論点を提示する。	講義		
2回	テーマ	教育課程編成の基本原則と方法	対面	【予習】教科書の指定された箇所を精読しておくこと。【復習】教科書、配布資料で扱った範囲をよく復習しておくこと。	30 30
	内容	教育課程の編成原理は「教育の目的・目標」と「教育内容」の関係性に規定されることや、日本における教育課程編成の規定要因について学ぶ。また、教育課程編成を実際に行う上で、具体的な学校目標の設定が重要であることを理解する。	講義		
3回	テーマ	学習指導要領の意義と改訂の変遷(1)	対面	【予習】教科書の指定された箇所を精読しておくこと。【復習】教科書、配布資料で扱った範囲をよく復習しておくこと。	30 30
	内容	学習指導要領の法的性格と基準性をめぐる現状、戦後からの学習指導要領の改訂の経緯や主な改正点(戦後から昭和52年改訂まで)について学ぶ。	講義		
4回	テーマ	学習指導要領の意義と改訂の変遷(2)	対面	【予習】学習指導要領の意義について調べる。【復習】これまでの学習指導要領の変遷に関するレポートを作成する。	60 90
	内容	学習指導要領平成元年改訂から平成20年改訂までの経緯と主な改正点について学んだうえで、学習指導要領の意義について自身の考えをまとめる。	講義		
5回	テーマ	新学習指導要領の基本構造	対面	【予習】新学習指導要領の特徴を調べる。【復習】教科書、配布資料で扱った範囲をよく復習しておくこと。	60 30
	内容	今次改訂の背景や全体構成とともに、育成を目指す資質・能力の3つの柱や主体的・対話的で深い学びなど新しく登場した諸概念を学ぶ。	講義		
6回	テーマ	社会に開かれた教育課程の背景と意義	対面	【予習】開かれた学校づくりについて調べる。【復習】教科書、配布資料で扱った範囲をよく復習しておくこと。	60 30
	内容	社会に開かれた教育課程という政策スローガンは「開かれた学校づくり」政策の展開と深く関連している。その政策的背景や意義を学び、教育課程における地域とは自身の考えをまとめる。	講義		
7回	テーマ	カリキュラム・マネジメント	対面	【予習】教科書の指定された箇所を精読しておくこと。【復習】カリキュラム・マネジメントの特徴を復習しておくこと。	30 30
	内容	カリキュラム・マネジメントの目的や三つの側面である教科等横断的なカリキュラムの作成、P・D・C・Aの手順、地域の人的・物的体制等について学ぶ。	講義		
8回	テーマ	各教科・領域の資質・能力と見方・考え方	対面	【予習】取得予定の教科(免許)に関する新学習指導要領の特徴を調べる。【復習】教科書、配布資料で扱った範囲をよく復習しておくこと。	60 30
	内容	各教科ごとに資質・能力と見方・考え方がどのように変化したのが学ぶ。	講義		
9回	テーマ	総括的評価とまとめ	対面	【予習】第1回～8回までの講義内容を復習する。	90
	内容	最終課題レポートの提示と学修内容のまとめ	講義		

科目名	☆特別活動論（3機ナ建字情微生美デ）				開講学年	3	講義コード	1811601	区分	選択	
英文表記	Special Activities				開講期	前期	開講形態	ブレンド授業（対面＋遠隔）	単位数	1	
担当教員	木村 勝美										
研究室	『本館3階303』						オフィス アワー 昼休みの時間（本館3階303）				
メールアドレス	kimura77@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	特別活動の意義と概要－教養的知識 学級活動・ホームルーム活動の指導方法－課題解決力 生徒会活動・学校行事の指導の在り方－課題解決力 問題解決のための合意形成－協働性 特別活動における評価の観点・評価方法－教養的知識 学級や学校の諸問題の解決－課題解決力 学級（ホームルーム）活動に係る模擬授業と授業研究－アカデミックスキル										
授業概要	特別活動論においては、特別活動の教育的意義や目標・内容、特別活動の歴史並びに学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の目標・内容及び評価の在り方等についての講義や演習を通して、特別活動の目標に述べられている人間関係形成能力、社会参画能力及び自己実現を図ろうとする態度を養う。また、学級活動年間指導計画及び学級（HR）活動学習指導案の作成とともに模擬授業の実施を通して、課題発見能力、企画力、課題解決力及び実践的指導力を育成する。課題レポートのフィードバックについては、次の回の授業で模範解答等を示しながら解説する。							関連科目			
								・基礎科目：教職概論、教育制度論、教育原論 ・連携科目：教育課程論、道徳教育指導論、総合的な学習の時間の指導法 ・発展科目：事前・事後指導、教育実習、教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修 【科目区分】・・・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・・・特別活動の指導法							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
d	①	学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事の目標や活動内容並びにその特質を理解することができる。									
f,j	②	学校生活の充実と向上を図るため、話し合いを通して、合意形成を図ったり、意思決定をするなどしたりして、集団生活上の諸問題の解決を図る工夫した学習過程を具体的に明示することができる。									
d	③	学級や学校の集団生活上の諸問題に係る事例の解決に向けて、集団としてどう取組むかを模擬授業、ロールプレイ等により具体的に発表することができる。									
f,h	④	集団の所属感や連帯感を深めながらよりよい学校生活を築くための学校行事の在り方はどうあるべきか協議検討し、学校行事における理想的な学習過程を具体的に示すことができる。									
g	⑤	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	30	60	0	10	0	100		
教科書	特別活動に関する自作教材 中学校学習指導要領解説特別活動編 東山書房 文部科学省 978-4-8278-1562-7 高等学校学習指導要領解説特別活動編 東京書籍 文部科学省 978-4-487-28635-5										
参考書	特別活動エッセンス 花書院 元兼正浩他 978-4-905324-68-3 新しい特別活動指導論 ミネルヴァ書房 高旗正人・倉田侃司 978-4-623-05996-6										

予備知識	<p>・中学校・高等学校の特別活動(学級・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事)で習得した知識及び技能 ・教職概論、教育課程論、教育制度論で修得した知識・技能</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>・学生の到達度目標①【1-1教養的知識】:30点 ⇒特別活動の意義、目標、内容について適切に理解できる。・学生の到達度目標②【2-3論理的思考力・判断力・伝達力】20点 ⇒生徒会活動に係る諸問題を解決する学習過程を多角的・多面的に工夫することができる。・学生の到達度目標③【2-4アカデミックスキル】:20点 ⇒集団生活上の諸問題の解決策を模擬授業、ロールプレイ等により発表することができる。・学生の到達度目標④【3-3協働性】20点 ⇒グループで協議検討し、学校行事における理想的な学習過程を具体的に示すことができる。・学生の到達度目標⑤【3-2自己管理能力】10点 ⇒学修到達度目標を達成できたかどうか自己評価できる。</p>

1.将来教職を目指す学生は必ず受講し積極的に授業に参加すること。2.対面授業の場合にディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので積極的に参加すること。3.授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4.対面授業の場合は、遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5.授業内容の予習・復習をきちんと行うこと。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃（ひょうせつ）は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション、特別活動の概要及び改訂の趣旨と要点	対面授業	【予習】スライド教材2を読み込んでおく。【復習】特別活動の概要等について復習しておく。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	学習指導要領改訂に伴う特別活動の改善の基本方針及び特別活動改訂の三つの視点(人間関係形成・社会参画・自己実現)に基づく学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の目標及び内容の改善等について学ぶ。	講義・演習		
2回	テーマ	特別活動の教育的意義と各教科等との関連及び家庭・地域等との連携	遠隔授業	【予習】スライド教材3を読み込んでおく。【復習】特別活動の意義等について復習しておく。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	特別活動の教育課程における位置づけ及び教育的意義並びに各教科・道徳、総合的な学習の時間との関連性、また、特別活動実施に当たっての家庭や地域住民、関連諸機関との連携・協働の具体的な在り方について学ぶ。	講義		
3回	テーマ	学級活動・ホームルーム活動の目標と内容及び特質	遠隔授業	【予習】スライド教材4を読み込んでおく。【復習】学級活動の目標と内容等について復習しておく。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	学級・ホームルーム活動の目標や授業時数、具体的活動内容及びその特質並びに指導方法(問題の発見-解決方法の話し合い-決定-実践-振り返り)について学ぶ。	講義		
4回	テーマ	生徒会活動及び学校行事の目標と内容等	遠隔授業	【予習】スライド教材5を読み込んでおく。【復習】生徒会活動及び学校行事の目標等について復習しておく。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	生徒会活動の目標や授業時数、具体的な内容及びその特質並びに生徒会活動の指導の在り方等について学ぶ。また、学校行事の目標と具体的な内容及びその特質並びに学校行事の指導の在り方等について学ぶ。	講義		
5回	テーマ	問題解決のための合意形成に向けた学級活動・生徒会活動の在り方	対面授業	【予習】スライド教材6を読み込んでおく。【復習】学級等の諸問題解決の方法についてまとめておく。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	話し合い活動の在り方を学ぶとともに、学級や学校の諸問題(いじめ問題等)に関する事例について学級や生徒会でどう取り組むべきかについて学ぶ。	講義・演習		
6回	テーマ	全体計画と年間指導計画の作成及び評価の在り方	遠隔授業	【予習】スライド教材7を読み込んでおく。【復習】学級(HR)活動の学習指導案を作成する。	30 90
	内容	特別活動全体計画、各活動及び学校行事年間指導計画と学級(ホームルーム)活動学習指導案の作成方法について学ぶ。また、特別活動における評価の観点・評価方法などの評価の在り方及び改善活動について学ぶ。	講義		
7回	テーマ	特別活動(学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動)の指導の在り方	対面授業	【予習】スライド教材8を読み込んでおく。【復習】模擬授業等の発表の準備をしておく。	30 90
	内容	学級や学校の諸問題(いじめ問題等)の解決に向けての取組を協議し、模擬授業、ロールプレイ、視聴覚機器活用等により具体的な発表の在り方を検討・準備する。	講義・演習		
8回	テーマ	学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動の取組の実際	対面授業	【予習】スライド教材9を読み込んでおく。【復習】模擬授業等の発表の準備をしておく。	30 90
	内容	学級や学校の諸問題の解決に向けての取組をグループで協働しながら模擬授業やロールプレイ、プレゼンテーション等の形で発表し相互評価を行う。	講義・演習		
9回	テーマ	発表及び総括的評価とまとめ	対面授業	【復習】模擬授業等の発表の反省をまとめる。ポートフォリオ(学修到達度目標レポート)を入力する。	60
	内容	模擬授業等による学級や学校の諸問題の解決へ向けての取組と評価を行う。また、特別活動論の授業全体への総評及び出席状況の確認をする。	講義・演習		

科目名	☆工業科教育法Ⅰ（3機建宇情）			開講学年	3	講義コード	1811901	区分	教職「選択」		
英文表記	Method of Teaching Industrial Subjects I			開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	吉塚治生										
研究室	本館付属棟 319						オフィス アワー 金曜日：1時限目				
メールアドレス	yoshi @ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	実践教育 インターンシップ キャリア教育 学習指導案 アクティブラーニング 教養的知識 論理力 倫理観 自己管理能力										
授業概要	戦後の日本の復興の原動力であった団塊の世代と言われる高度技術者の大量退職、中国を始めとする新興国の急速な発展、東日本大震災、円高、資源不足と日本は極めて先行き不透明な状況に立たされている。しかしながら、工業技術創造立国の礎づくりにとって、優れた中堅技術者の育成は急務であり、そのための良き指導者の養成は不可欠である。このことを踏まえて、本講座では、我が国の技術教育の歴史やものづくりの原点に返り、工業教育の将来像について考察する。併せて、技術者としての倫理や、工業教育に携わる者に求められる資質(人間尊重を基盤とした豊かな人間性、教育への意欲・情熱・使命感、高い専門性と旺盛な研究心、広い識見、アクティブラーニングの視点など)の重要性について示唆する。その際、できるだけ学校や企業の現場を重視した資料を準備し、実践的・実地的な工業教育の在り方を示す。1 自作テキストを使って授業を展開する。なお、できるだけ実際の現場に近いテーマを扱うこと(実学)を念頭に置き、関係資料や動画などを活用して理解度を高める。動画やパワーポイントでは、実際の工業教育から企業現場(工業技術)まで取り扱う。2 ものづくりプロフェッショナル関連も幅広く紹介する。3 必要に応じて、教育観や仕事へのビジョン構築にむけた論文演習も取り入れる。各課題レポートのフィードバックは次の時間に行う。							関連科目			
								基礎科目:教育原論、教育制度論、教職概論、生徒指導論 連携科目:工業科教育法Ⅱ、教育方法論 発展科目:事前・事後指導、教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…必修【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 工業)【各科目に含めることが必要な事項】…各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)							学修・教育目標			
								JABEE基準			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
a, i	①	日本及び各国の中等工業教育を念頭に置いた上で我が国の工業教育の現状と課題を認識し、21世紀の工業教育の在り方について、自身の考え方をまとめ、レポートを作成することができる。									
d, g	②	工業科に係る学習指導要領の意義・目標等を理解し、工業科の教育課程編成の在り方と授業実践上の留意点等を研究し、レポートを作成するなど文章で説明することができる。									
d	③	工業教育の本質を理解し、工業科教員に必要な教育観や品格について、自分の考えを整理して文章にまとめ発表することができる。									
f	④	学習指導要領(工業)に即した指導の在り方を考え、学習指導案を作成することができる。									
	⑤	本科目における「学生到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	80	0	10	10	0	100		
教科書	自作テキスト										
参考書	高等学校学習指導要領解説工業編 実教出版 文部科学省 978-4-407-34864-4 工業科教育法の研究 改訂版～新しい観点と実践に基づく 実教出版 中村豊久他3名 978-4-407-34771-5 技術科・工業科教育法(教職必修) 実教出版 教職課程研究会 978-4-407-94773-9										

予備知識	学習指導要領の内容、工業の教授・学習論、教育評価
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	1. 模擬授業実施計画を作品として10点 2. レポート 授業の受講前や受講後の課題として、図書館・図書室の蔵書等を学習させ、それに基づいたレポートを提出 8点×10=80点 3. ポートフォリオ 10点 「学生の到達度目標」の各項目の達成度とその理由を200～250文字で提出 4. 各課題レポートのフィードバックは次の時間に行う。

1. 授業への参加姿勢を知るためレポートを作成して提出する。授業での指示に従い、ポイントを押さえてレポートすること。
2. 報告書として、講義によるノートをまとめさせて、15回目講義後報告させるので、復習は特に怠らないようにすること。
3. 全員専門科目が異なるため、専門科目の高校生用教科書を準備すること。4. レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は不正行為とみなすので絶対にしないこと。5. 講義は対面授業で行う。6. 受講学生はWebclassから講義の流れを開き該当時間の講義の流れを確認する。7. 各課題レポートのフィードバックは次の時間に行うが、不明な点や質問がある場合は、Webclass内のメールを利用して行うか、表記のメールアドレスへ問い合わせること。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	「オリエンテーション・工業教育の役割」 工業教育を取り巻く現状、工業教育の使命、今後の工業教育の基本的な考え方、高校生ものづくり教育の目的。レポート課題1「工業科教員免許を取得する目的」	講義 演習	【予習】テキストp1～p3を読んでおく。【復習】工業教育の意義について自身の考えをノートにまとめる。レポート課題1を作成する。	10 50
2回	テーマ 内容	工業教育の意義・役割・目標・内容 工業教育の役割、技術教育と適正年齢の意義、工業教育目標、教科(工業)の内容。レポート課題2「技術教育の適正年齢」	講義 演習	【予習】テキストp4～p8を読んでおく。【復習】レポート課題2を作成する。	15 45
3回	テーマ 内容	教育関係法令(1) 主な法律、日本国憲法、教育基本法。課題:演習問題「日本国憲法・教育基本法」	講義 演習	【予習】テキストp9～p14を読んでおく。【復習】日本国憲法及び教育基本法についてノートにまとめる。演習問題を解く「日本国憲法・教育基本法」。	15 45
4回	テーマ 内容	教育関係法令(2) 学校教育法、学校教育法施行令、学校教育法施行規則、産業教育振興法関係、学習指導要領、地方行政の組織と運営に関する法律、その他の法令等:教育実践と法令 課題:演習問題「学校教育法、教職員の法規」	講義 演習	【予習】テキストp15～p22を読んでおく。【復習】学校教育法、教職員の法規についてノートにまとめる。演習問題を解く「学校教育法、教職員の法規」。	15 45
5回	テーマ 内容	工業高校発展の歴史と現状 日本の工業と工業教育の概観、工業教育の歴史、工業高校への課題、参考資料:工業高校への課題 レポート課題3「日本の工業教育の基礎を築いたとされる指導者」	講義 演習	【予習】テキストp23～p29を読んでおく。【復習】工業高校発展の歴史と現状をノートにまとめる。レポート課題3を作成する。	15 45
6回	テーマ 内容	教科【工業】の共通科目 工業の科目と原則履修科目、工業の科目、工業技術基礎、課題研究、レポート課題4「課題研究のねらいについて」	講義 演習	【予習】テキストp30～p36を読んでおく。【復習】工業の科目と原則履修科目、課題研究について内容をノートにまとめる。レポート課題4を作成する。	15 45
7回	テーマ 内容	工業科の主な学科の実験・実習の内容紹介(1) 教科(工業)の科目、主な学科の実験・実習テーマ、実験実習の役割(機械科) 体験発表「機械系学科実習について」	講義 演習	【予習】テキストp37～p39を読んでおく。【復習】自身の専門教科の実験実習のテーマを確認し、内容について、ノートにまとめる。	15 45
8回	テーマ 内容	工業科の主な学科の実験・実習の内容紹介(2) 教科(工業)の科目、主な学科の実験・実習テーマ、実験実習の役割(電気科・建築科) 体験発表「電気系・建築系学科実習について」 レポート課題5「担当できる実習内容について」	講義 演習	【予習】テキストp39～p45を読んでおく。【復習】自身の専門教科の実験実習のテーマを確認し、内容について、ノートにまとめる。レポート課題5を作成する。	15 60
9回	テーマ 内容	実践的工業教育(1) 就業体験(インターンシップ)、資格取得、参考資料、レポート課題6「就業体験のねらい」	講義 演習	【予習】テキストp46～p49を読んでおく。【復習】就業体験の成果と課題について、内容をノートにまとめる。レポート課題6を作成する。	15 45
10回	テーマ 内容	実践的工業教育(2) 就業体験(インターンシップ)の実例、現場実習の現状、レポート課題7「経験した就業体験について」	講義 演習	【予習】テキストp49～p52を読んでおく。【復習】就業体験の成果と課題について、内容をノートにまとめる。レポート課題7を作成する。	15 45

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	教育課程の編成から単元計画まで	講義 演習	【予習】テキストp53～p61を読んでおく。【復習】教育課程の意義について、内容をノートにまとめる。レポート課題8を作成する。	50 50
	内容	教育課程の意義・目標・役割・構成要素、工業教育の特徴、単元計画までの手順の概略、配慮事項、年次計画、シラバス、単元計画。レポート課題8「教育課程の意義について」			
12回	テーマ	授業設計、学習指導案、授業改善及び教育実習	講義 演習	【予習】テキストp62～p68を読んでおく。【復習】学習指導案、授業改善と教育実習について、内容をノートにまとめる。レポート課題9を作成する。	50 50
	内容	系統的学習における授業構造、学習指導案、授業改善、教育実習 レポート課題9「系統的学習における授業構造について」			
13回	テーマ	教育評価	講義 演習	【予習】テキスト p69～p72を読んでおく。【復習】学習評価、評価の観点、評価と評定について、ノートにまとめる。レポート課題10を作成する。	15 45
	内容	学習評価の意味、新しい評価の3つの観点、形成的評価、診断的評価、総括的評価、ルーブリック評価、評価・評定の実際、工業高校の教育と評価方法、評価と評定 レポート課題10「相対評価と絶対評価」			
14回	テーマ	学習と授業理論	講義 演習	【予習】テキストp73～p78を読んでおく。【復習】教育論の歴史的展開、アクティブラーニングについてノートにまとめる。課題「模擬授業の実施計画」を作成する。	15 45
	内容	教育の究極の目的、教育論の歴史的展開、授業の方法、授業形態、主体的・対話的で深い学び 課題「模擬授業実施計画」			
15回	テーマ	まとめ(総括)	講義 演習	【予習】自己を省察し、到達度ポートフォリオを入力する。	75
	内容	総評、到達度ポートフォリオの提出 講義ノートの提出			

科目名	☆理科教育法Ⅲ（3ナ微生）			開講学年	3	講義コード	1812201	区分	選択		
英文表記	Teaching Method of Science III			開講期	前期	開講形態	ブレンド授業（対面＋遠隔）	単位数	2		
担当教員	板橋 克美										
研究室	F801					オフィス アワー 随時					
メールアドレス	itahashi@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	理科教育(中学校) 中学校学習指導要領(理科) 授業設計(中学校理科) 教材作成(中学校理科) 学習評価(中学校理科) リテラシー 論理力 アカデミックスキル										
授業概要	理科教育法では、教科等に関する専門的知識や実践的指導力等の教員として必要な資質・能力とともに、社会人としても必要な人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力などの基礎的・汎用的能力の育成を図る。中学校における理科教育においては、授業実践のための教材の選択と配列の方法について学習する。学習指導要領に示された第1分野「エネルギー・粒子」、第2分野「生命・地球」について、自然科学の学問領域と関連させて、学習内容、学習評価、指導上の留意点などの理解を深め、教材研究と授業設計の向上を図ることを目的としている。具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付け、アクティブラーニングの視点に立った授業改善並びに情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し授業設計に活用する。なお、各回のレポートは次回授業時にフィードバックするので、次のレポート課題や指導案作成に生かすこと。							関連科目			
								基礎科目：理科教育法Ⅰ、教育原論、教育制度論、教職概論、生徒指導論 連携科目：理科教育法Ⅱ、理科教育法Ⅳ、教育方法論、教育心理学 発展科目：事前・事後指導、教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校 必修【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校理科)【各科目に含めることが必要な事項】・・・各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
d	①	中学校理科の各分野の背景となる学問領域との関係および授業内容の配列を理解し、適切な情報を収集して、系統観を作成することができる。									
c,d	②	子どもの実態や効果的な学習方法を把握し、具体的な授業場면을想定した学習指導案(正案)を作成することができる。									
f	③	授業設計の方法を理解した上で、学習指導案(正案)を正しい書き方で作成することができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」を自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	36	0	54	10	0	100		
教科書	中学校学習指導要領解説 理科編 学校図書 文部科学省 978-4-7625-0613-0 中学校理科の教科書 ※出版社はどこでも可										
参考書	授業中に適宜指示する。										

予備知識	学習指導要領(中学校理科)の内容
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	<p>1.学習指導案(正案) 前半(1分野)・後半(2分野)の2回分 27点×2回=54点 学習指導案(正案)の各項目について評価規準を基に評価する。2.レポート:演習①~②の12回分 3点×12回=36点 講義の内容に関するレポートについて、評価規準を基に評価する。3.ポートフォリオ:学修到達度レポート 10点 【学生の到達度目標】の各項目の達成度とその理由を各200~250文字で入力すること。指導案およびレポートは次回授業時にフィードバックする。</p>

1. 中学校理科の「教員免許状」の取得を希望する者を対象とする。高等学校理科の「教員免許状」のみ取得を希望する者も履修することを強く薦める。2. レポートは期限以内に提出すること。3. 授業を受講するための準備として必要な資料作成や終了後のレポート作成に必要な情報収集には、図書館等の蔵書等を活用すること。4. 講義に関する質問・相談等は、オフィスアワーなどを積極的に活用すること。5. レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃（ひょうせつ）は不正行為とみなされます。6. 適宜、他大学が提供するオープンな教育リソース（デジタルコンテンツ等）を講義の教材として、使用します。7. 授業計画は予定で、入れ替わることがあります。詳しい予定については授業第1回で説明するので、必ず参加してください。8. オフィスアワーに直面での質問等を希望する場合はF801室にて対応します。teamsやメールでの質問も随時受け付けます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)		授業内容	開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	中学校理科における教材研究と指導案	対面	【復習】配布資料から中学校理科の各分野の学習内容について整理しておく。	30
	内容	学習指導要領における中学校理科の教材研究の目的と方法、および指導案(正案)の書き方について学ぶ。	講義		
2回	テーマ	第1分野「エネルギー」物理の教材研究(1)	対面	【予習】「身近な物理現象」の学習内容について調べておく。 【復習】演習①について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	「身近な物理現象」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習①(系統観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
3回	テーマ	第1分野「エネルギー」物理の教材研究(2)	対面	【予習】「電流とその利用」の学習内容について調べておく。 【復習】演習②について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	「電流とその利用」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習②(系統観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
4回	テーマ	第1分野「エネルギー」物理の教材研究(3)	対面	【予習】「運動とエネルギー」の学習内容について調べておく。 【復習】演習③について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	「運動とエネルギー」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習③(系統観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
5回	テーマ	第1分野「粒子」化学の教材研究(1)	対面	【予習】「身の回りの物質」の学習内容について調べておく。 【復習】演習④について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	「身の回りの物質」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習④(系統観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
6回	テーマ	第1分野「粒子」化学の教材研究(2)	対面	【予習】「化学変化と原子・分子」の学習内容について調べておく。 【復習】演習⑤について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	「化学変化と原子・分子」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習⑤(系統観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
7回	テーマ	第1分野「粒子」化学の教材研究(3)	対面	【予習】「化学変化とイオン」の学習内容について調べておく。 【復習】演習⑥について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	「化学変化とイオン」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習⑥(系統観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
8回	テーマ	前半の講義についてのまとめ	オンデマンド	【予習】1～7回の配布資料及び演習レポートを読んでおく。【復習】第1分野の学習指導案(正案)を記述し、期限内に提出する。	45 3 0
	内容	第1分野(エネルギー、粒子領域)に関して、1～7回の学習内容の振り返りと補足解説を行い、第1分野の学習指導案(正案)の作成を行う。	講義 演習		
9回	テーマ	第2分野「生命」生物の教材研究(1)	対面	【予習】「いろいろな生物とその共通点」の学習内容について調べておく。【復習】演習⑦について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	「いろいろな生物とその共通点」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習⑦(系統観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
10回	テーマ	第2分野「生命」生物の教材研究(2)	対面	【予習】「生物の体のつくりと働き」の学習内容について調べておく。【復習】演習⑧について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	「生物の体のつくりと働き」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習⑧(系統観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	第2分野「生命」生物の教材研究(3)	対面	【予習】「生命の連続性」の学習内容について調べておく。【復習】演習⑨について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	「生命の連続性」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習⑨(系統観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
12回	テーマ	第2分野「地球」地学の教材研究(1)	対面	【予習】「大地の成り立ちと変化」の学習内容について調べておく。【復習】演習⑩について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	「大地の成り立ちと変化」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習⑩(系統観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
13回	テーマ	第2分野「地球」地学の教材研究(2)	対面	【予習】「気象とその変化」の学習内容について調べておく。【復習】演習⑪について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	「気象とその変化」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習⑪(系統観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
14回	テーマ	第2分野「地球」地学の教材研究(3)	対面	【予習】「地球と宇宙」の学習内容について調べておく。【復習】演習⑫について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	「地球と宇宙」の目標及び学習内容並びに観察・実験について学び、演習⑫(系統観)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
15回	テーマ	後半の講義内容についてのまとめ	オンデマンド	【予習】9～14回の配布資料及び演習レポートを読んでおく。【復習】第2分野の学習指導案(正案)を記述し、期限内に提出する。ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	45 3 0
	内容	第2分野(生命、地球領域)に関して、9～14回の学習内容の振り返りと補足解説を行い、第2分野の学習指導案(正案)を行う。	講義 演習		

科目名	☆情報科教育法Ⅰ（3情）				開講学年	3	講義コード	1812401	区分	選択	
英文表記	Education of Information Science I				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	元田暁輝（非常勤）										
研究室	教務課前 非常勤講師室						オフィス アワー 授業時間後の非常勤講師室				
メールアドレス	motoda2008@gmail.com										
キーワード	情報 教育 授業 学習指導案 教員 授業計画 教養的知識 アカデミックスキル 倫理 観 自己管理能力										
授業概要	この授業の目標は、学校現場で活躍できる情報科教員の育成である。そのため情報を担当する教員には情報科教育法Ⅰは不可欠である。この講義をととして情報教育の目的と意義を学ぶとともに授業を行う実践的なスキルを身につける。また、教科「情報」の目的や背景を知り、指導方法、評価の方法、指導案の作成など授業を遂行する上で必要なスキルを身に付けるための講義を行う。さらに、模擬授業を実践し、学校現場の課題に対応できる生徒や保護者をマネジメントする力やコミュニケーション能力などの基礎的能力を涵養する。課題レポートは、授業ごとに指示する。模擬授業のフィードバックは終了後ただちに行い、課題レポートのフィードバックは、次の授業時に行う。							関連科目			
								連携科目：教育方法論、事前・事後指導			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・高等学校 必修【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(高等学校 情報)【各科目に含めることが必要な事項】・・・各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
d	①	教科「情報」教員免許取得のための教科教育方法理論を学び高度な模擬授業をすることができる。									
d	②	教科「情報」の学習指導案を作成することができる。									
g	③	教科「情報」の年間指導計画を作成することができる。									
d,h	④	学校の中で情報モラルやセキュリティを推進する役割を果たすことができる。									
g	⑤	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	30	60	0	10	0	100		
教科書	情報Next 数研出版 坂村健										
参考書											

教科「情報」を指導する上での情報リテラシーやプログラミング能力

予備知識

実務経験
のある
教員

評価明細
基準

1 レポート 30点 2 成果発表 60点 成果発表は主に模擬授業を行い、授業の遂行能力や授業のデザイン力、コミュニケーション力などを総合的に評価する。 3 学修到達度レポート 10点

・正規出席は授業開始15分まで、遅刻出席は授業開始30分まで、30分を超えた場合は欠席扱いとする。・レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	情報教育の意義	対面	教科「情報」を学ぶことに意義について	30
	内容	情報教育とは何か、なぜそれを学ぶ必要があるのか、教科「情報」の背景となる成立過程について学ぶ	講義		
2回	テーマ	学習指導要領における教科「情報」の位置付け	対面	教科「情報」の教育課程の中での位置付けについて予習	30
	内容	情報化に対応するための教育について、文部科学省の方針と他教科や教育課程全体の構造的な位置付けについて学ぶ	講義		
3回	テーマ	教科「情報」の授業設計	対面	学校における情報担当教師の資質について予習	30
	内容	情報について何をどう伝えるのか、そのために必要な知識や技能はどのようなものがあるかについて学ぶ。	講義・演習		
4回	テーマ	情報教育の流れ	対面	模擬授業の準備	60
	内容	情報教育のはじまりから今日にいたるまでの歴史的な流れを学び、情報教育の未来を予測する。	講義		
5回	テーマ	デジタル情報の特徴とデジタル表現	対面	模擬授業の準備 N進数について	60
	内容	デジタル信号とアナログ信号、AD変換の基礎、サンプリング、量子化、符号化についての指導法を学ぶ	講義		
6回	テーマ	模擬授業	対面	模擬授業の準備 授業の評価と反省	60
	内容	模擬授業の実施とフィードバック	演習		
7回	テーマ	情報デザインとその指導法	対面	レポートの提出	30
	内容	情報を表現する方法や効率的な情報デザインの作成を学ぶ	講義		
8回	テーマ	コンピュータとプログラミング①	対面	レポートの提出	30
	内容	プログラミングの基礎やアルゴリズムの基礎についての指導法を学ぶ	講義		
9回	テーマ	コンピュータとプログラミング②	対面	レポートの提出	30
	内容	発展的なプログラミングについて、プログラム言語を用いた方法を学ぶ	講義		
10回	テーマ	情報通信ネットワークとデータの活用	対面	模擬授業の準備	60
	内容	情報の価値が大きくなっている状況を踏まえ、リスクの現状とセキュリティの大切さについて学ぶ	講義		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	模擬授業	対面	模擬授業の準備 模擬授業の評価・反省	60
	内容	模擬授業の実施とフィードバック	演習		
12回	テーマ	情報通信ネットワークとデータの活用	対面	レポートの提出	30
	内容	ネットワークの基本的なしくみとデータの活用における指導法	講義		
13回	テーマ	情報モラルとメディアリテラシー	対面	模擬授業の準備	60
	内容	メディアが流す情報の特徴を理解し、その内容を分析する能力、メディアを活用する場合におけるマナーやモラル・ルールを学ぶ	講義		
14回	テーマ	学習指導案の作成	対面	模擬授業の準備 ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	60
	内容	教科「情報」の単元を選定し、授業設計を行い学習指導案を作成する。	講義		
15回	テーマ	模擬授業・まとめ	対面	模擬授業の準備 模擬授業の評価・反省	90
	内容	学習指導案に基づく模擬授業の実施と授業の総括を行う	演習		

科目名	☆美術科教育法Ⅲ（3美デ）				開講学年	3	講義コード	1812601	区分	選択		
英文表記	Art Education Method Ⅲ				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	坂本健（非常勤）											
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業時間後の非常勤講師室					
メールアドレス	skmt@shokei-gakuen.ac.jp											
キーワード	学習指導案 学習評価 評価規準・基準 副教材 教養的知識 論理力 自己管理能力											
授業概要	<p>授業をするにあたっては、学習指導案を作成することで目標やねらいを明確にし、より良い学習指導を目指すことが必要となる。美術科教育法Ⅱでは学習指導案(略案)を作成し、実際の授業の流れをイメージすることを目指したが、この授業においては、学習指導案を作成することにより、その題材自体に対する概念を明確にし、指導方法を考察していくことを目的とし、さらには学習評価の方法や副教材の活用法を理解することでより良い学習指導を目指す。そして、その過程においては形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解することや形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること等、[共通事項]にかかわる内容についても考察を行う。また、学修をする上では、毎回の授業でテーマに沿ってのまとめを記入するので、自分の考えを明確に書き、提出をすること。その後はフィードバックを行うので、返却後はもう一度、その学修内容を振り返るようにすること。その他、各種提出物は期日までに必ず提出をすること。そして、教育者を目指す学生においては本科目における講義・演習を通して、学校教育、及び美術科教育に関する課題に対応できる基礎能力と人間関係形成・社会形成能力を養う。</p>								関連科目			
									基礎科目:美術科教育法Ⅰ・美術科教育法Ⅱ 連携科目:美術科教育法Ⅳ 発展科目:教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ・教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校 必修 [科目区分]・・・教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】・・・各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
a,b,e,f,g,h	①	学習指導案作成の概念と方法を理解することができる。										
a,b,e,f,g,h	②	学習評価の在り方と観点を理解することができる。										
g	③	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。										
	④											
	⑤											
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	15	50	0	10	25	100			
教科書	美術科教育法に関する自作教材											
参考書	中学校学習指導要領解説 美術編 高等学校学習指導要領解説 美術編											

これまで自身が受けてきた中学校・高等学校での美術の授業、及び美術科教育法Ⅰ・Ⅱの内容について整理しておく

予備知識

実務経験
のある
教員

評価明細
基準

レポート：授業最終回に行うまとめレポートで15点 成果発表：演習(学習指導計画・学習指導案)での課題で50点。ポートフォリオ：ポートフォリオで10点 その他：講義内容に関するテーマのまとめで25点

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。オフィスアワーにTeamsのチャットやテレビ電話等での質問も受け付けます。※その他メール等での質問も受け付けます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	学習指導案の作成Ⅰ	対面	【予習】美術科教育法Ⅰ・Ⅱで書いた指導案略案と学習指導案の意義について確認【復習】授業の内容を確認	90
	内容	【学習指導案の作成について(概念と形式)】…学習指導案(本案)を作成するにあたっての概念や形式についての講義	講義		
2回	テーマ	学習指導案の作成Ⅱ	対面	【予習】美術科教育法Ⅰ・Ⅱで書いた指導案略案と前時の内容を確認【復習】講義の内容と学習指導案の整合性を確認	90
	内容	【学習指導案の作成①】…学習指導案における題材についての考察(題材観と系統観)	演習		
3回	テーマ	学習指導案の作成Ⅲ	対面	【予習】前時の内容を確認【復習】講義の内容と学習指導案の整合性を確認	90
	内容	【学習指導案の作成②】…学習指導案における題材についての考察(生徒の実態と指導観)	演習		
4回	テーマ	学習評価についてⅠ	対面	【予習】美術科教育法Ⅰ・Ⅱでの学習評価の内容を確認【復習】授業の内容を確認	90
	内容	【学習評価の在り方と評価規準・基準】…学習評価はどのようにあるべきか、評価規準・基準の別についての解説を踏まえた講義	講義		
5回	テーマ	学習評価についてⅡ	対面	【予習】前時の内容を確認【復習】授業の内容を確認	90
	内容	【評価基準の設定と工夫】…評価基準をどのように設定し、工夫していくかの具体的方策についての講義	講義		
6回	テーマ	学習評価についてⅢ	対面	【予習】前時の内容を確認【復習】授業の内容を確認	90
	内容	【教科目標と評価の観点及びその趣旨】…教科目標と評価の観点をどのように反映させていくのかについての講義	講義		
7回	テーマ	学習評価についてⅣ	対面	【予習】前時の内容を確認【復習】授業の内容を確認	90
	内容	【評価規準と評価基準の作成について】…評価規準を基にした評価基準の設定を体験的に考察する演習	講義		
8回	テーマ	学習指導案の作成Ⅳ	対面	【予習】美術科教育法Ⅰ・Ⅱで書いた指導案略案と前時の内容を確認【復習】講義の内容と学習指導案の整合性を確認しておく	90
	内容	【学習指導案の作成③】…パソコンを用いて…学習指導案における指導計画についての考察(題材の目標)	演習		
9回	テーマ	学習指導案の作成Ⅴ	対面	【予習】前時の内容を確認【復習】講義の内容と学習指導案の整合性を確認	90
	内容	【学習指導案の作成④】…パソコンを用いて…学習指導案における指導計画についての考察(指導計画)	演習		
10回	テーマ	学習指導案の作成Ⅴ	対面	【予習】前時の内容を確認【復習】講義の内容と学習指導案の整合性を確認	90
	内容	【学習指導案の作成⑤】…パソコンを用いて…学習指導案における指導計画についての考察(評価計画)	演習		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学習指導案の作成Ⅵ	対面	【予習】前時の内容を確認【復習】講義の内容と学習指導案の整合性を確認しておく	90
	内容	【学習指導案の作成⑥】…パソコンを用いて…学習指導案における指導計画についての考察(本時の授業)	演習		
12回	テーマ	副教材についてⅠ	対面	【予習】美術科教育法Ⅰ・Ⅱの副教材についての内容を確認【復習】授業の内容を確認	90
	内容	【副教材の重要性と具体例】…授業実践に伴う副教材活用の重要性と最近の具体例についての講義	講義		
13回	テーマ	副教材についてⅡ	対面	【予習】美術科教育法Ⅰ・Ⅱの副教材についての内容を確認【復習】授業の内容を確認	90
	内容	【副教材の作成について①】…それぞれの学習指導案に応じた副教材についての考察	演習		
14回	テーマ	副教材についてⅢ	対面	【予習】美術科教育法Ⅰ・Ⅱの副教材についての内容を確認【復習】授業の内容を確認 ポートフォリオ(達成度レポート)の作成。	90
	内容	【副教材の作成について②】…それぞれの学習指導案に応じた副教材の作成と研究	演習		
15回	テーマ	まとめ	対面	【予習】美術科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの内容を確認【復習】授業の内容を反芻し、指導案を完成させ提出をする	90
	内容	【学習指導案についての考察・まとめレポート】…それぞれが作成した学習指導案の見直しと検討、そして美術科教育法Ⅲのまとめ	講義		

科目名	☆美術科教育法Ⅳ（3美デ）				開講学年	3	講義コード	1812701	区分	選択	
英文表記	Art Education Method IV				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	大村充弘（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業時間後（非常勤講師室）				
メールアドレス	m.oomura@kcr.ac.jp										
キーワード	学習指導案 学習評価 指導計画 学習指導要領 模擬授業 論理力 アカデミックスキル 自己管理能力										
授業概要	美術科教育法Ⅰ～Ⅲの流れを汲みつつ、より現場に即した実際の授業の展開を目指す。作成した指導案に沿った教材研究及び授業展開とその評価方法などの一連の流れを体験的に学習していく。中学校・高校で行われている授業時間50分を目安に模擬授業を行い、模擬授業後の授業研究会においては授業者側の視点・生徒側の視点を交え、双方向的な意見を交換し、議論することによってより良い学習指導のための概念や方法論について考察する。模擬授業ごとに考察を記入するので、自分の考えを明確に書き提出すること。また、各種提出物は期日までに必ず提出をすること。提出物に関しては翌週の授業においてフィードバックを行う。教育者を目指す学生においては本科目における講義・演習を通して、学校教育、及び美術科教育に関する課題に対応できる基礎能力と人間関係形成・社会形成能力を養う。							関連科目			
								基礎科目:美術科教育法Ⅰ 関連科目:美術科教育法Ⅱ・美術科教育法Ⅲ 発展科目:教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ・教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校 必修【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】・・・各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
	学修・教育目標							JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標										
a,d,e,f,g,h,i	①	模擬授業を通して実際の授業の流れを理解することができる。									
a,d,e,g	②	模擬授業において指導方法を考察するための観察の視点を持つことができる。									
a,d,g,h	③	より良い学習指導のための概念と方法論を理解し、それを実践することができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	20	0	10	20	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	中学校学習指導要領解説 美術編 日本文教出版 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 美術編 教育出版 文部科学省										

これまで自身が受けてきた中学校・高等学校での美術の授業、及び美術科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの内容について整理しておく。

予備知識

実務経験
のある
教員

評価明細
基準

レポート：前時授業内容（模擬授業）の考察 5点×10回＝50点 模擬授業：授業者：教材準備等10点+授業内容10点＝20点 ポートフォリオ：ポートフォリオで10点 その他：授業研究会における発言・意欲等20点

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽竊は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション 模擬授業の準備①	講義	予習:美術科教育法Ⅰ～Ⅲで作成した指導案を振り返り、指導案の意義について確認 復習:授業の内容を確認	90
	内容	模擬授業の意義と授業研究会の在り方について、題材決定、用具・材料の選定、資料・板書計画の作成			
2回	テーマ	模擬授業の準備②	講義	予習:前時の内容を確認 復習:授業の内容を確認	90
	内容	授業の流れと発問 模擬授業のシナリオを作成して提出(途中の段階で提出)			
3回	テーマ	模擬授業の準備③	講義	予習:前時の内容を確認 復習:授業の内容を確認	90
	内容	授業の流れと発問 模擬授業のシナリオを作成して提出(完成させて提出)			
4回	テーマ	模擬授業の準備④	講義	予習:前時の内容を確認 復習:授業の内容を確認	90
	内容	模擬授業に向けた整理と準備 各自で模擬授業のりハーサルを行う これまでの提出物を確認・修正して再提出			
5回	テーマ	演習:模擬授業・授業研究会①	演習	予習:授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習:模擬授業を考察し、レポート作成	90
	内容	以降、毎回1名が50分の模擬授業を行い、他の学生は生徒役として参加する 模擬授業終了後、授業研究会を行う			
6回	テーマ	演習:模擬授業・授業研究会②	演習	予習:授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習:模擬授業を考察し、レポート作成	90
	内容	1名が50分の模擬授業、他の学生は生徒役として参加 模擬授業終了後、授業研究会			
7回	テーマ	演習:模擬授業・授業研究会③	演習	予習:授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習:模擬授業を考察し、レポート作成	90
	内容	1名が50分の模擬授業、他の学生は生徒役として参加 模擬授業終了後、授業研究会			
8回	テーマ	演習:模擬授業・授業研究会④	演習	予習:授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習:模擬授業を考察し、レポート作成	90
	内容	1名が50分の模擬授業、他の学生は生徒役として参加 模擬授業終了後、授業研究会			
9回	テーマ	演習:模擬授業・授業研究会⑤	演習	予習:授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習:模擬授業を考察し、レポート作成	90
	内容	1名が50分の模擬授業、他の学生は生徒役として参加 模擬授業終了後、授業研究会			
10回	テーマ	演習:模擬授業・授業研究会⑥	演習	予習:授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習:模擬授業を考察し、レポート作成	90
	内容	1名が50分の模擬授業、他の学生は生徒役として参加 模擬授業終了後、授業研究会			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	演習：模擬授業・授業研究会⑦	演習	予習：授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習：模擬授業を考察し、レポート作成	90
	内容	1名が50分の模擬授業、他の学生は生徒役として参加。模擬授業終了後、授業研究会			
12回	テーマ	演習：模擬授業・授業研究会⑧	演習	予習：授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習：模擬授業を考察し、レポート作成	90
	内容	1名が50分の模擬授業、他の学生は生徒役として参加。模擬授業終了後、授業研究会			
13回	テーマ	演習：模擬授業・授業研究会⑨	演習	予習：授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習：模擬授業を考察し、レポート作成	90
	内容	1名が50分の模擬授業、他の学生は生徒役として参加。模擬授業終了後、授業研究会			
14回	テーマ	演習：模擬授業・授業研究会⑩	演習	予習：授業者は模擬授業の準備、同班の者はそのサポート 復習：模擬授業を考察し、レポート作成	90
	内容	1名が50分の模擬授業、他の学生は生徒役として参加。模擬授業終了後、授業研究会			
15回	テーマ	まとめ	対面	予習：美術科教育法Ⅰ～Ⅳの内容を確認しておく。復習：授業の内容を反芻し、教育実習に備える。	90
	内容	模擬授業、及び授業省察を踏まえての学習指導案（略案）の見直しとまとめ			

科目名	☆職業指導Ⅰ（3機建宇情）				開講学年	3	講義コード	1812901	区分	選択（教職必修）	
英文表記	Vocational Guidance I				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	吉塚 治生										
研究室	本館附属棟 3階 319室						オフィス アワー 金曜日 2時限目				
メールアドレス	yoshi @ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	キャリア教育 進路指導 職業観 社会人基礎力 教養的知識 キャリアデザイン能力 論理力 自己管理能力										
授業概要	1. 職業やキャリア教育に関する知識や意義を学び、職業人に求められる基礎的汎用的能力を理解し、教員として高校生の職業選択を支援する方法を理解する。 2. 進路指導、キャリア教育についての基礎知識、考え方を理解し、職業指導の実践力を養う。 3. 職業についての知識や職業観、勤労観を重んじる態度を育む指導法を習得する。 4. キャリア教育が求められるようになった背景を知り、その目的や意義を理解する。 5. 若者の社会的・職業的自立に向けた能力や態度の育成を図るため、職業指導のあり方について考える。 6. 課題レポートについては、実施日の次の授業中にできる限り、学生へフィードバックする。							関連科目			
								・連携科目：職業指導Ⅱ			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・必修【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(高等学校 工業)【各科目に含めることが必要な事項】・・・職業指導							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
gh	①	キャリア教育とは、何かについて理解し、文章で説明することができる。									
gh	②	キャリア教育の意義、必要性について考え、何故キャリア教育が求められるか文章で説明することができる。									
gh	③	わが国の労働環境や雇用環境の変化について理解し、文章で説明することができる。									
gh	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	65	0	25	10	0	100		
教科書	自作テキスト										
参考書	進路指導・キャリア教育の理論と実践 日本文化科学社 吉田辰雄・篠翰 ISBN978-4-8210-6085-6 C3037 進路指導・キャリア教育論 中川書店 坂本 昭 ISBN978-4-931363-53-3										

予備知識	1.就職や雇用に関する情報に関心を持ち、日頃から新聞やテレビ等のニュースを見るよう心掛ける。2.毎回、講義内容をワークシートに記入してよく読み返しておくこと。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.講義用ノートの提出 25点 ・学生の到達度目標1【1-1教養的知識】25点分で評価 2.レポート 5点×13回 65点 ・学生の到達度目標2【2-6キャリアデザイン能力】39点分で評価 ・学生の到達度目標3【2-3論理力】26点分で評価 3.ポートフォリオ 「到達度ポートフォリオ」 10点 ・学生の到達度目標4【3-2自己管理能力】10点分で評価 到達目標の達成度を自己評価し、到達度とその理由を評価表に記入して提出する。

1.レポートは、必ず期限内に提出すること。2.レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は不正行為とみなすので絶対にしないこと。3.毎回講義用ノートに記入し、15回目講義後に提出する。4.配布資料はバインダーに綴じておくこと。5.講義は対面授業で行う。6.不明な点や質問がある場合は、Webclass内のメールを利用して担当教員の指示をうけること。(別に指示する場合はその方法により質問をすること。)7.受講学生はWebclassから講義の流れを開き該当時間の講義の流れを確認する。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション、教師としての基本的な資質	講義 演習	【復習】教師の資質について理解しておく。課題01のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	教師に求められる資質とは何か。課題01(私の教師像)についてレポートを作成する。			
2回	テーマ	職業指導から進路指導・キャリア教育へ	講義 演習	【予習】キャリア教育と何か調べておく。【復習】課題02のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	キャリア教育が求められる背景について学習する。課題02(キャリア教育とは何か)についてレポートを作成する。			
3回	テーマ	キャリア教育・職業教育の充実	講義 演習	【予習】キャリア教育が求められる理由について調べておく。【復習】課題03のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	高等学校におけるキャリア教育の重要性について学習する。課題03(今、何故キャリア教育が求められるのか)についてレポートを作成する。			
4回	テーマ	高校卒業者の進路状況	講義	【予習】高等学校卒業者の進路状況について調べておく。【復習】ワークシート、資料等を読み返しておく。課題04のレポートを作成し、提出する。	10 30
	内容	産業構造の変化と若者の状況について学習する。課題04(産業構造どのように変化したか)についてレポートを作成する。			
5回	テーマ	キャリア教育の推進のための条件整備	講義 演習	【予習】キャリア教育の推進について調べておく。【復習】課題05のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	教員の資質の向上と専門的能力を有する教員の養成について学習する。課題05(キャリア教育の推進のための条件整備について)レポートを作成する。			
6回	テーマ	望ましい勤労観・職業観	講義 演習	【予習】職業観・勤労観と何か調べておく。【復習】課題06のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	職業人の生きがい、職業観・勤労観とは何かについて学習する。課題06(望ましい職業観・勤労観)についてレポートを作成する。			
7回	テーマ	雇用環境の変化	講義 演習	【予習】現在の日本の雇用環境について調べておく。【復習】課題07のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	雇用環境の変化、現在の日本の労働環境について学習する。課題07(雇用環境の変化)についてレポートを作成する。			
8回	テーマ	雇用環境の変化「復習問題」	講義 演習	【予習】雇用環境の変化について見直しておく。【復習】課題レポート08を作成し、提出する。	30 30
	内容	雇用環境の変化、労働問題と雇用の変化について問題演習とまとめを学習する。課題08(正社員と非正規社員)についてレポートを作成する。			
9回	テーマ	職業と資格	講義 演習	【予習】免許や資格の種類について調べておく。【復習】課題09のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	資格が必要な職業、資格や免許の取り方、資格の分類について学習する。課題09(資格や免許が必要な職業)についてレポートを作成する。			
10回	テーマ	職業に関する法規	講義	【予習】労働関係法規にはどのような法律があるか調べておく。【復習】ワークシート、資料等を読み返しておく。課題10のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	憲法と労働法等について学習する。課題10(労働関係法規の種類内容)についてレポートを作成する。			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	職業環境の変化		【予習】労働環境の変化について調べておく。【復習】課題11のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	働く環境と労働観の変化について学習する。課題11(働く環境の変化)についてレポート作成する。			
12回	テーマ	若者の社会的自立・職業的自立(1)		【予習】若者に求められる能力と何かについて調べておく。【復習】課題12のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	若者の社会的自立・職業的自立に向けての取組について学習する。課題12(若者の自立に向けての必要な能力)についてレポートを作成する。			
13回	テーマ	若者の社会的自立・職業的自立(2)		【予習】労働環境の変化について調べておく。【復習】ワークシート、資料を読み返しておく。	20 20
	内容	学校におけるキャリア教育で育成を目指している能力について学習する。			
14回	テーマ	若者の社会的・職業的自立(3)		【予習】自身の将来について調べておく。【復習】課題13についてレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	若者の社会的・職業的自立に向けて取組について学習する。課題13(自身の将来設計)についてレポートを作成する。			
15回	テーマ	能力の定着の確認とまとめ		【予習】ワークシート、配布資料等をよく読んでおくこと。【復習】講義内容を再確認する。ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	40
	内容	講義内容についてノートにまとめと提出する。総評、出席確認、「到達度ポートフォリオ」の作成。			

科目名	☆教育実習Ⅰ（4機建宇情美デ）				開講学年	4	講義コード	1813201	区分	選択	
英文表記	Practice Teaching I				開講期	通年	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	原北祥悟										
研究室	本館附属棟311						オフィス アワー 随時				
メールアドレス	harakita@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	観察実習 参加実習 教壇実習										
授業概要	中・高等学校にて2週間以上の実習を行う。大学で学んだ教育学系や心理学系、各専門分野の理論や知識を基礎として、実際の教育現場に触れながら教育の実践的な知識、技能等の基礎を修得する。							関連科目			
								連携科目:事前・事後指導 発展 科目:教職実践演習			
教職関連 区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教育実践に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・教育実習							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
	①	教師の仕事について認識を深め、教育現場の実態や問題点を把握できている。									
	②	教科指導、生徒指導、学級経営の基本的考え方やスキルを身につけている。									
	③	より良い教育者を目指す態度を身に付けている。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	0	0	100	100		
教科書	教育実習日誌										
参考書											

予備知識	1～3年まで学修した教職科目（教職概論、教育制度論、教育課程・特別活動論、教科教育法、道徳教育指導論、生徒指導論、事前・事後指導等）及び専門科目に係る知識・技能
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	原則として、実習校からの以下10項目（各5点×10項目）の評価を2倍する。1.教職員、実習生との協力、2.検討会、反省会への参加と自己評価 3.教材研究及び授業準備、4.学習指導案の作成 5.授業展開における指導、6.生徒理解 7.学級活動、8.学級経営 9.勤務状況、10.報告書、諸届けの提出 その他、必要に応じて実習簿、指導案等により総合的に判断する。

実習校の校長はじめ教職員の指導や監督等のもと校規に従って責任ある行動をとること。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	実習校の指示等に従うこと。			
	内容		対面授業		

科目名	☆教育実習Ⅰ（4ナ微生）				開講学年	4	講義コード	1813202	区分	選択	
英文表記	Practice Teaching I				開講期	通年	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	原北祥悟										
研究室	本館附属棟311						オフィス アワー 随時				
メールアドレス	harakita@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	観察実習 参加実習 教壇実習										
授業概要	中・高等学校にて2週間以上の実習を行う。大学で学んだ教育学系や心理学系、各専門分野の理論や知識を基礎として、実際の教育現場に触れながら教育の実践的な知識、技能等の基礎を修得する。							関連科目			
								連携科目:事前・事後指導 発展 科目:教職実践演習			
教職関連 区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教育実践に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・教育実習							建築学科 のみ	建築 総合	建築 計画	建築 構造
								学修・教育 目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
	①	教師の仕事について認識を深め、教育現場の実態や問題点を把握できている。									
	②	教科指導、生徒指導、学級経営の基本的考え方やスキルを身につけている。									
	③	より良い教育者を目指す態度を身に付けている。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	0	0	100	100		
教科書	教育実習日誌										
参考書											

予備知識	1～3年まで学修した教職科目（教職概論、教育制度論、教育課程・特別活動論、教科教育法、道徳教育指導論、生徒指導論、事前・事後指導等）及び専門科目に係る知識・技能
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	原則として、実習校からの以下10項目（各5点×10項目）の評価を2倍する。1.教職員、実習生との協力、2.検討会、反省会への参加と自己評価 3.教材研究及び授業準備、4.学習指導案の作成 5.授業展開における指導、6.生徒理解 7.学級活動、8.学級経営 9.勤務状況、10.報告書、諸届けの提出 その他、必要に応じて実習簿、指導案等により総合的に判断する。

実習校の校長はじめ教職員の指導や監督等のもと校規に従って責任ある行動をとること。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	実習校の指示等に従うこと。 対面授業		

科目名	☆教育実習Ⅱ（4美デ）				開講学年	4	講義コード	1813303	区分	選択	
英文表記	Practice Teaching Ⅱ				開講期	通年	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	原北祥悟										
研究室	本館附属棟311						オフィス アワー 随時				
メールアドレス	harakita@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	観察実習 参加実習 教壇実習										
授業概要	中・高等学校にて3週間以上の実習を行う。大学で学んだ教育学系や心理学系、各専門分野の理論や知識を基礎として、実際の教育現場に触れながら教育の実践的な知識、技能等の基礎を修得する。							関連科目			
								連携科目:事前・事後指導 発展 科目:教職実践演習			
教職関連 区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校 必修【科目区分】・・・教育実践に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・教育実習							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
	①	教師の仕事について認識を深め、教育現場の実態や問題点を把握できている。									
	②	教科指導、生徒指導、学級経営の基本的考え方やスキルを身につけている。									
	③	より良い教育者を目指す態度を身に付けている。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	0	0	100	100		
教科書	教育実習日誌										
参考書											

予備知識	1～3年まで学修した教職科目（教職概論、教育制度論、教育課程・特別活動論、教科教育法、道徳教育指導論、生徒指導論、事前・事後指導等）及び専門科目に係る知識・技能
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	原則として、実習校からの以下10項目（各5点×10項目）の評価を2倍する。1.教職員、実習生との協力、2.検討会、反省会への参加と自己評価 3.教材研究及び授業準備、4.学習指導案の作成 5.授業展開における指導、6.生徒理解 7.学級活動、8.学級経営 9.勤務状況、10.報告書、諸届けの提出 その他、必要に応じて実習簿、指導案等により総合的に判断する。

実習校の校長はじめ教職員の指導や監督等のもと校規に従って責任ある行動をとること。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	実習校の指示等に従うこと。			
	内容		対面授業		

科目名	☆教育実習Ⅱ（4ナ微生）				開講学年	4	講義コード	1813304	区分	選択	
英文表記	Practice Teaching Ⅱ				開講期	通年	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	原北祥悟										
研究室	本館附属棟311						オフィス アワー 随時				
メールアドレス	harakita@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	観察実習 参加実習 教壇実習										
授業概要	中・高等学校にて3週間以上の実習を行う。大学で学んだ教育学系や心理学系、各専門分野の理論や知識を基礎として、実際の教育現場に触れながら教育の実践的な知識、技能等の基礎を修得する。							関連科目			
								連携科目:事前・事後指導 発展 科目:教職実践演習			
教職関連 区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…中学校 必修【科目区分】…教育実践に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】…教育実習							建築学科 のみ	建築 総合	建築 計画	建築 構造
								学修・教育 目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
	①	教師の仕事について認識を深め、教育現場の実態や問題点を把握できている。									
	②	教科指導、生徒指導、学級経営の基本的考え方やスキルを身につけている。									
	③	より良い教育者を目指す態度を身に付けている。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	0	0	100	100		
教科書	教育実習日誌										
参考書											

予備知識	1～3年まで学修した教職科目（教職概論、教育制度論、教育課程・特別活動論、教科教育法、道徳教育指導論、生徒指導論、事前・事後指導等）及び専門科目に係る知識・技能
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	原則として、実習校からの以下10項目（各5点×10項目）の評価を2倍する。1.教職員、実習生との協力、2.検討会、反省会への参加と自己評価 3.教材研究及び授業準備、4.学習指導案の作成 5.授業展開における指導、6.生徒理解 7.学級活動、8.学級経営 9.勤務状況、10.報告書、諸届けの提出 その他、必要に応じて実習簿、指導案等により総合的に判断する。

実習校の校長はじめ教職員の指導や監督等のもと校規に従って責任ある行動をとること。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	実習校の指示等に従うこと。	対面授業		

科目名	☆教育原論（1機ナ建宇情生物美デ）				開講学年	1	講義コード	2810101	区分	選択	
英文表記	Principle of Education				開講期	後期・集中	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	森 邦昭（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業の前後				
メールアドレス	morik@fwu.ac.jp										
キーワード	教育思想 教育史 教育現実 教養的知識 倫理観 協働性 論理力										
授業概要	この授業は、LTD話し合い学習法(Learning through Discussion)の方式を用いて実施します。授業内容としては、次の3つを扱います。まず、総論として、教育の思想を読むこと／学ぶことの意味(第1章)、教育の定義(第2章)、教育のモデル論(第3章)について考えます。次に、思想編として、コメニウスの苦難と希望(第4章)、ルソーからカントへ(第5章)、ペスタロッチ・フレーベルの教育思想(第6章)、デューイ教育哲学(第7章)、近代教育批判としての脱学校論(第8章)、監獄としての学校(第9章)について学びます。最後に、教育現実編として、いじめ・不登校問題(第10章)、現代社会を生きる子どもたちの学力と人間関係(第11章)、異文化間コミュニケーションと市民性育成教育(第12章)、グローバルな時代において教師・大人であるということ(第13章)、教育学・教員養成の新たな動向(第14章)についてよりよい解決策を探っていきます。課題レポートのフィードバックについては、授業のステップごとに模範解答等を示しながら解説します。							関連科目			
								連携科目:教職概論、教育制度論、教育心理学 発展科目:教育課程論、事前・事後指導、教育実習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修 【科目区分】・・・教育の基礎的理解に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・・・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
	学修・教育目標										
JABEE記号	学生の到達度目標										
a,b	①	教育に対する基本的な考え方、特質を理解することができる。									
a,b	②	近代教育の誕生と展開を理解することができる。									
a,d	③	近代教育に対する批判とその克服の方向性を理解することができる。									
a,d	④	教育現実における諸問題の起源と構造を理解することができる。									
d	⑤	今後の教育の重要課題について考察することができる。									
g	⑥	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	90	0	0	10	0	100		
教科書	教育原論 ミネルヴァ書房 原清治他監修 978-4623081844										
参考書	学ぶ心に火がともるアクティブラーニングとディープラーニング—LTD話し合い学習法の効果 大学教育出版 森邦昭・鈴木有美 978-4-86692-112-9										

高等学校までの日本史・世界史等の知識、新聞やニュース等で報じられている現代の教育課題についての知識

予備知識

実務経験
のある
教員

評価明細
基準

1レポート(90) LTD話し合い学習法の予習レポートの内容を評価します。2 ポートフォリオ(10) 学修到達度レポートを評価します。

・レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひようせつ)は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション LTD話し合い学習法のやり方	対面授業	予習:シラバスを読む。復習:LTD話し合い学習法ができるようになる。	60 60
	内容	講義の目的・概要と進め方について、予習の仕方、復習の仕方			
2回	テーマ	教育の思想を読むこと／学ぶことの意味	対面授業	予習:レポートをもとに討議できるようにする。復習:講義と討議をもとにレポートを改善する。	60 60
	内容	教師の任事と教育の思想、教育の現実と物語、実践のただ中で生成する理念、公共的な語り直しの契機としての思想			
3回	テーマ	教育の定義	対面授業	予習:レポートをもとに討議できるようにする。復習:講義と討議をもとにレポートを改善する。	60 60
	内容	「教育」とは何か、「教育」という言葉、無意図的教育、教育の分節化			
4回	テーマ	教育のモデル論	対面授業	予習:レポートをもとに討議できるようにする。復習:講義と討議をもとにレポートを改善する。	60 60
	内容	モデル論を使った子ども観、教育観の自己省察、教育思想を学ぶ意味とモデル論、モデル論を使って教育思想家の言説を読んでみる、教育の意味の再発見は可能か			
5回	テーマ	コメニウスの苦難と希望	対面授業	予習:レポートをもとに討議できるようにする。復習:講義と討議をもとにレポートを改善する。	60 60
	内容	新しいスタイルの「学校」、コメニウスの登場、教育印刷術(ディダクグラフィア)、コメニウスの希望としての「学校」とその成れの果て			
6回	テーマ	ルソーからカントへ	対面授業	予習:レポートをもとに討議できるようにする。復習:講義と討議をもとにレポートを改善する。	60 60
	内容	社会からの問いかけ、子どもの発見、子どもへの関心をめぐる時代背景、世界市民的子どもの形成			
7回	テーマ	ペスタロッチ・フレーベルの教育思想	対面授業	予習:レポートをもとに討議できるようにする。復習:講義と討議をもとにレポートを改善する。	60 60
	内容	人間の本質に基づく教育に向けて、「モード」の完成、ペスタロッチ思想、その後の展開			
8回	テーマ	デューイ教育哲学	対面授業	予習:レポートをもとに討議できるようにする。復習:講義と討議をもとにレポートを改善する。	60 60
	内容	デューイを読むと何がわかるか、『民主主義と教育』の体系性、『学校と社会』、デューイの日本教育への影響			
9回	テーマ	近代教育批判としての脱学校論	対面授業	予習:レポートをもとに討議できるようにする。復習:講義と討議をもとにレポートを改善する。	60 60
	内容	教育と学校、「学校化」された教育、「脱学校」という思想、教師の専門性を問い直すために			
10回	テーマ	監獄としての学校	対面授業	予習:レポートをもとに討議できるようにする。復習:講義と討議をもとにレポートを改善する。	60 60
	内容	学校は監獄に似ている、規律・訓練による管理・監視・制裁、試験・規律・訓練型の権力、監獄と学校の類似性、規律・訓練型の権力の弊害、規律・訓練による支配からの脱却			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	いじめ・不登校問題	対面授業 講義 討議	予習:レポートをもとに討議できるようにする。復習:講義と討議をもとにレポートを改善する。	60 60
	内容	いじめ問題のいま、いじめ問題の捉え方と実践的課題、不登校問題のいま、不登校問題の捉え方と実践的課題			
12回	テーマ	現代社会を生きる子どもたちの学力と人間関係	対面授業 講義 討議	予習:レポートをもとに討議できるようにする。復習:講義と討議をもとにレポートを改善する。	60 60
	内容	現代社会を生きる子どもたちの実態(学力の三要素)、子どもたちの三極化をめぐる言説、学力差が人間関係の分断を伴う問題、塾調査、これからの子どもたちに求められる「つながり」の力			
13回	テーマ	異文化間コミュニケーションと市民性育成教育	対面授業 講義 討議	予習:レポートをもとに討議できるようにする。復習:講義と討議をもとにレポートを改善する。	60 60
	内容	いま、なぜ「市民性教育」なのか、グローバル化をめぐる日本の状況、民主主義と学校教育、市民性教育、市民性育成のために			
14回	テーマ	グローバルな時代において教師・大人であるということ	対面授業 講義 討議	予習:レポートをもとに討議できるようにする。復習:講義と討議をもとにレポートを改善する。	60 60
	内容	難しい現代社会・グローバルな時代、現代において教師・大人であること、大人としてのあり方、大人として子どもに保障すべきこと			
15回	テーマ	教育学・教員養成の新たな動向	対面授業 講義 討議	予習:レポートをもとに討議できるようにする。復習:講義と討議をもとにレポートを改善する。	60 60
	内容	知識社会の中の教員、学びと知識(「知っている」とはどのようなことか)、学びを超えていく教員の学びへ向けて			

科目名	☆教育制度論（1機ナ建字情生物1美デ）				開講学年	1	講義コード	2810301	区分	選択	
英文表記	Introduction to Educational System				開講期	後期	開講形態	遠隔授業	単位数	2	
担当教員	岩本晃代										
研究室	本館3階304						オフィス アワー 月曜、5限				
メールアドレス	iwamoto@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	教育に関する社会的事項 教育に関する制度的事項 学校と地域との連携 学校安全への対応 諸外国の教育制度										
授業概要	<p>本科目は教育の基礎的理解に関する科目で、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)について学修する。教育の今日的課題と教育政策の動向については「中央教育審議会答申」等の文書資料を用いて読解による考察を行い、「日本国憲法」と主要な教育法規については図解資料等を用いて体系的に理解させる。学校と地域との連携及び学校安全への対応については、関連法規のほか具体的な事例をあげて講義を行う。また、諸外国の教育制度をテーマにした調査研究及び研究レポート作成等、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。ワークシート等の課題については、次の授業回にて解説等のフィードバックを行う。以上の講義や演習をとおして、課題対応能力や人間関係形成・社会形成能力を培う。</p>							関連科目			
								「教職概論」「教育原論」等			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教育の基礎的理解に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
a	①	近年の日本の教育的課題と教育政策の動向について「中央教育審議会答申」等をもとに理解し、教育に関する社会的事項についての基礎的な知識を身につけることができる。									
a	②	現代の公教育制度の原理について基礎的な知識を身につけるとともに、「日本国憲法」「教育基本法」「学校教育法」「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」等の主要法規と教育制度との関係について理解することができる。									
a	③	学校と地域との連携及び学校安全への対応について、「学校保健安全法」等の関係法規をもとに理解し、具体的な事例をあげることができる。									
a	④	日本の教育制度と諸外国の教育制度について調査研究を行い、教育に関する制度的事項と社会との関係及び教育的課題について考察を深め、文章にまとめることができる。									
f,g	⑤	課題研究においては、自主的・計画的にレポート作成を行うことができる。									
g	⑥	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	25	0	65	10	0	100		
教科書	最新版 教育法規エッセンス 花書院										
参考書	教育六法 三省堂 新版 世界の学校 学事出版										

予備知識	新聞や文部科学省のホームページ等で、教育の時事的な問題について学習しておくこと。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.13回目までの授業において毎回提出するワークシート:5点×13回=65点【作品】 2.課題研究レポート:25点【レポート】 3.本授業における「学修到達度レポート」(本学所定の様式):10点【ポートフォリオ】 「学生の到達度目標」①②③④⑤の達成度とその理由を各200字～250文字で入力しプリントアウトして提出すること。※⑥は記入しなくてもよい

1.ワークシート及びレポートは期限までに提出すること。期限以後は受け付けない。(ただし、公欠等の場合は別途対応するので直ちに届け出ること) 2.課題研究レポート作成においては、図書館(可能な範囲で)、インターネット、電子辞書等を利用して調べること。 ※1)レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は、不正行為とみなされます。 ※2)オフィスアワーに対面での質問等を希望する場合は研究室にて対応します。オフィスアワーにTeamsのチャットやテレビ電話等での質問も受け付けます。その他メール等での質問も受け付けます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション・教育に関する社会的事項(1)	遠隔	【復習】教育の今日的課題について、関心を持った新聞記事を切り取る。ワークシート①を完成させる。	30
	内容	シラバスの説明、学校と子どもを巡る状況の変化について学び、教育の今日的課題について考察する。	講義・演習		
2回	テーマ	教育に関する社会的事項(2)	遠隔	【予習】配布資料を読む。【復習】ワークシート②を完成させる。	30 60
	内容	学校と子どもを巡る状況の変化とそれらに関する課題について再考する。近年の日本における教育政策の動向について、「中央教育議会答申」等とおして学ぶ。	講義・演習		
3回	テーマ	教育に関する制度的事項(1)	遠隔	【予習】テキスト第I章1節を読んでおく。【復習】ワークシート③を完成させる。	30 60
	内容	現代の公教育制度の原理について基礎的な知識を身につけるとともに、「日本国憲法」と日本の教育制度との関係について学ぶ。	講義・演習		
4回	テーマ	教育に関する制度的事項(2)	遠隔	【予習】テキスト第I章2,3節を読んでおく。【復習】ワークシート④を完成させる。	30 60
	内容	「教育基本法」の改正前後の違いについて学ぶとともに、現行の「教育基本法」の前文及び重要条文について学ぶ。	講義・演習		
5回	テーマ	教育に関する制度的事項(3)	遠隔	【予習】テキスト第I章5節を読んでおく。【復習】ワークシート⑤を完成させる。	30 60
	内容	「学校教育法」及び「学校教育法施行規則」の重要条文について学ぶとともに、「教育基本法」との関係について理解を深める。	講義・演習		
6回	テーマ	教育に関する制度的事項(4)	遠隔	【予習】テキスト第II章1節を読んでおく。【復習】ワークシート⑥を完成させる。	30 60
	内容	中央の教育行政機関である文部科学省の組織と機能について学ぶ。	講義・演習		
7回	テーマ	教育に関する制度的事項(5)	遠隔	【予習】テキスト第II章3節を読んでおく。【復習】ワークシート⑦を完成させる。	30 60
	内容	地方の教育行政である教育委員会の組織と機能について学ぶとともに、関係法規「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の重要条文について学ぶ。	講義・演習		
8回	テーマ	学校と地域との連携	遠隔	【予習】テキスト第IV章を読んでおく。【復習】ワークシート⑧を完成させる。	30 60
	内容	地域との連携・協働による意義と「開かれた学校づくり」の取組の経緯について学ぶ。学校評議員制度とコミュニティ・スクールの制度と機能、及び違いについて学ぶとともに、それぞれの関係法規について理解を深める。	講義・演習		
9回	テーマ	学校安全への対応(1)	遠隔	【予習】テキスト第七章を読んでおく。【復習】ワークシート⑨を完成させる。	30 60
	内容	学校の危機管理・事故対応を含む学校安全の重要性について学ぶとともに、関係法規「学校保健安全法」の重要条文について理解を深める。	講義・演習		
10回	テーマ	学校安全への対応(2)	遠隔	【予習】テキスト第七章を読んでおく。【復習】ワークシート⑩を完成させる。	30 60
	内容	学校における安全教育の各領域と学校をとりまく安全上の課題について学ぶとともに、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組について理解を深める。	講義・演習		

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	日本の教育制度のまとめ	遠隔	【予習】これまでの講義の復習と課題研究のための調査。【復習】課題研究のための調査。ワークシート①を完成させる。	30 60
	内容	日本の公教育制度と教育の今日的課題について理解を深める。日本の教育制度と課題研究を行った国の教育制度について比較検討し、レポートとしてまとめるための準備を行う。課題研究の内容や調査方法について理解する。	講義・演習		
12回	テーマ	諸外国の教育制度について(1)	遠隔	【予習】課題研究のための調査。【復習】ワークシート②を完成させる。	30 60
	内容	課題研究の内容や調査方法について理解する。	講義・演習		
13回	テーマ	諸外国の教育制度について(2)	遠隔	【予習】課題研究のための調査。【復習】課題研究のための調査。ワークシート③を完成させる。	30 60
	内容	課題研究の内容や調査方法について理解する。	講義・演習		
14回	テーマ	課題研究(1)	遠隔	【予習】【復習】課題研究	90
	内容	日本の教育制度及び諸外国の教育制度について、「課題研究レポート」を作成する。	演習		
15回	テーマ	課題研究(2)	遠隔	【予習】【復習】課題研究 学修到達度レポート作成	90
	内容	日本の教育制度及び諸外国の教育制度について、「課題研究レポート」を作成する。学修到達度レポート作成	演習		

科目名	☆教育制度論（2美デ）				開講学年	1	講義コード	2810302	区分	選択	
英文表記	Introduction to Educational System				開講期	後期	開講形態	遠隔授業	単位数	2	
担当教員	岩本晃代										
研究室	本館3階304						オフィス アワー 月曜、5限				
メールアドレス	iwamoto @ ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	教育に関する社会的事項 教育に関する制度的事項 学校と地域との連携 学校安全への対応 諸外国の教育制度										
授業概要	<p>本科目は教育の基礎的理解に関する科目で、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)について学修する。教育の今日的課題と教育政策の動向については「中央教育審議会答申」等の文書資料を用いて読解による考察を行い、「日本国憲法」と主要な教育法規については図解資料等を用いて体系的に理解させる。学校と地域との連携及び学校安全への対応については、関連法規のほか具体的な事例をあげて講義を行う。また、諸外国の教育制度をテーマにした調査研究及び研究レポート作成等、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。ワークシート等の課題については、次の授業回にて解説等のフィードバックを行う。以上の講義や演習をとおして、課題対応能力や人間関係形成・社会形成能力を培う。</p>							関連科目			
								「教職概論」「教育原論」等			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教育の基礎的理解に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
a	①	近年の日本の教育的課題と教育政策の動向について「中央教育審議会答申」等をもとに理解し、教育に関する社会的事項についての基礎的な知識を身につけることができる。									
a	②	現代の公教育制度の原理について基礎的な知識を身につけるとともに、「日本国憲法」「教育基本法」「学校教育法」「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」等の主要法規と教育制度との関係について理解することができる。									
a	③	学校と地域との連携及び学校安全への対応について、「学校保健安全法」等の関係法規をもとに理解し、具体的な事例をあげることができる。									
a	④	日本の教育制度と諸外国の教育制度について調査研究を行い、教育に関する制度的事項と社会との関係及び教育的課題について考察を深め、文章にまとめることができる。									
f,g	⑤	課題研究においては、自主的・計画的にレポート作成を行うことができる。									
g	⑥	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	25	0	65	10	0	100		
教科書	最新版 教育法規エッセンス 花書院										
参考書	教育六法 三省堂 新版 世界の学校 学事出版										

新聞や文部科学省のホームページ等で、教育の時事的な問題について学習しておくこと。

予備知識

実務経験
のある
教員

評価明細
基準

1.13回目までの授業において毎回提出するワークシート:5点×13回=65点【作品】 2.課題研究レポート:25点【レポート】
3.本授業における「学修到達度レポート」(本学所定の様式):10点【ポートフォリオ】 「学生の到達度目標」①②③④⑤
の達成度とその理由を各200字~250文字で入力しプリントアウトして提出すること。※⑥は記入しなくてもよい

1.ワークシート及びレポートは期限までに提出すること。期限以後は受け付けない。(ただし、公欠等の場合は別途対応するので直ちに届け出ること) 2.課題研究レポート作成においては、図書館(可能な範囲で)、インターネット、電子辞書等を利用して調べること。 ※1)レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は、不正行為とみなされます。 ※2)オフィスアワーに対面での質問等を希望する場合は研究室にて対応します。オフィスアワーにTeamsのチャットやテレビ電話等での質問も受け付けます。その他メール等での質問も受け付けます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	オリエンテーション・教育に関する社会的事項(1) シラバスの説明、学校と子どもを巡る状況の変化について学び、教育の今日的課題について考察する。	遠隔 講義・演習	【復習】教育の今日的課題について、関心を持った新聞記事を切り取る。ワークシート①を完成させる。	30
2回	テーマ 内容	教育に関する社会的事項(2) 学校と子どもを巡る状況の変化とそれらに関する課題について再考する。近年の日本における教育政策の動向について、「中央教育議会答申」等とおして学ぶ。	遠隔 講義・演習	【予習】配布資料を読む。【復習】ワークシート②を完成させる。	30 60
3回	テーマ 内容	教育に関する制度的事項(1) 現代の公教育制度の原理について基礎的な知識を身につけるとともに、「日本国憲法」と日本の教育制度との関係について学ぶ。	遠隔 講義・演習	【予習】テキスト第I章1節を読んでおく。【復習】ワークシート③を完成させる。	30 60
4回	テーマ 内容	教育に関する制度的事項(2) 「教育基本法」の改正前後の違いについて学ぶとともに、現行の「教育基本法」の前文及び重要条文について学ぶ。	遠隔 講義・演習	【予習】テキスト第I章2,3節を読んでおく。【復習】ワークシート④を完成させる。	30 60
5回	テーマ 内容	教育に関する制度的事項(3) 「学校教育法」及び「学校教育法施行規則」の重要条文について学ぶとともに、「教育基本法」との関係について理解を深める。	遠隔 講義・演習	【予習】テキスト第I章5節を読んでおく。【復習】ワークシート⑤を完成させる。	30 60
6回	テーマ 内容	教育に関する制度的事項(4) 中央の教育行政機関である文部科学省の組織と機能について学ぶ。	遠隔 講義・演習	【予習】テキスト第II章1節を読んでおく。【復習】ワークシート⑥を完成させる。	30 60
7回	テーマ 内容	教育に関する制度的事項(5) 地方の教育行政である教育委員会の組織と機能について学ぶとともに、関係法規「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の重要条文について学ぶ。	遠隔 講義・演習	【予習】テキスト第II章3節を読んでおく。【復習】ワークシート⑦を完成させる。	30 60
8回	テーマ 内容	学校と地域との連携 地域との連携・協働による意義と「開かれた学校づくり」の取組の経緯について学ぶ。学校評議員制度とコミュニティ・スクールの制度と機能、及び違いについて学ぶとともに、それぞれの関係法規について理解を深める。	遠隔 講義・演習	【予習】テキスト第IV章を読んでおく。【復習】ワークシート⑧を完成させる。	30 60
9回	テーマ 内容	学校安全への対応(1) 学校の危機管理・事故対応を含む学校安全の重要性について学ぶとともに、関係法規「学校保健安全法」の重要条文について理解を深める。	遠隔 講義・演習	【予習】テキスト第七章を読んでおく。【復習】ワークシート⑨を完成させる。	30 60
10回	テーマ 内容	学校安全への対応(2) 学校における安全教育の各領域と学校をとりまく安全上の課題について学ぶとともに、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組について理解を深める。	遠隔 講義・演習	【予習】テキスト第七章を読んでおく。【復習】ワークシート⑩を完成させる。	30 60

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	日本の教育制度のまとめ	遠隔	【予習】これまでの講義の復習と課題研究のための調査。【復習】課題研究のための調査。ワークシート①を完成させる。	30 60
	内容	日本の公教育制度と教育の今日的課題について理解を深める。日本の教育制度と課題研究を行った国の教育制度について比較検討し、レポートとしてまとめるための準備を行う。課題研究の内容や調査方法について理解する。	講義・演習		
12回	テーマ	諸外国の教育制度について(1)	遠隔	【予習】課題研究のための調査。【復習】ワークシート②を完成させる。	30 60
	内容	課題研究の内容や調査方法について理解する。	講義・演習		
13回	テーマ	諸外国の教育制度について(2)	遠隔	【予習】課題研究のための調査。【復習】課題研究のための調査。ワークシート③を完成させる。	30 60
	内容	課題研究の内容や調査方法について理解する。	講義・演習		
14回	テーマ	課題研究(1)	遠隔	【予習】【復習】課題研究	90
	内容	日本の教育制度及び諸外国の教育制度について、「課題研究レポート」を作成する。	演習		
15回	テーマ	課題研究(2)	遠隔	【予習】【復習】課題研究 学修到達度レポート作成	90
	内容	日本の教育制度及び諸外国の教育制度について、「課題研究レポート」を作成する。学修到達度レポート作成	演習		

科目名	☆教育相談の理論と方法（2機ナ建宇情生物美デ）				開講学年	2	講義コード	2810701	区分	選択		
英文表記	Theory and Methods of Educational Counseling				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	中尾 千智											
研究室	本館附属棟317						オフィス アワー 火曜、金曜日の2限目					
メールアドレス	nakao12@ed.sojo-u.ac.jp											
キーワード	教育相談の理論と実践 アセスメント カウンセリングマインド 組織的取り組み 他職種連携											
授業概要	<p>学校カウンセリングにおいては、学校における教育相談の意義と理論、教育相談を進める際に必要なアセスメントやカウンセリングに関する基礎的知識、いじめや不登校といった課題に応じた教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性について講義を行う。また、カウンセリングの基礎的演習や具体的事例に基づいた実践的演習を行う。これらを身につけることによって、実社会においても人の話を聞くことができるようになるので、人間関係や仕事上の取引がよりスムーズに行えるようになるという汎用的な効果が期待できる。なお、テストやレポート等のフィードバックについては、15回目のまとめで行う。</p>								関連科目			
									文化社会関連科目:「人間と心理」教職関連科目:「生徒指導論」「教育心理学」「特別支援教育」			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修 【科目区分】・・・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
	学修・教育目標											
JABEE記号	学生の到達度目標											
a,d,i	①	生徒の不適応や問題行動に対して、アセスメント、カウンセリング理論を用いた教育相談の進め方や組織的な取り組みを学ぶことができる。										
g,h	②	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。										
	③											
	④											
	⑤											
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	30	30	30	0	0	10	0	100			
教科書	これからの教育相談 北樹出版 高岸幸弘、井出智博、蔵岡智子 978-4-7793-0562-7											
参考書	生徒指導提要 教育図書 文部科学省 978-4877302740 教育相談 春日・渡邊編 ミネルヴァ書房 978-4623081950											

予備知識	<p>1.生徒指導論の授業をしっかり身につけておくこと。 2.保健室や教育相談に関する書物を読んでおくこと。また、その意義について考えておくこと。 3.人に相談に乗ってもらった時の体験を振り返っておくこと。 4.中学生や高校生など思春期の子どもが登場する本や漫画を読んでおくこと。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>1.定期試験(16回目) 30点 2.小テスト10点×3回=30点 3.レポート 30点 3.ポートフォリオ:「学習到達度評価レポート」を「SOJOポートフォリオシステム」に入力 10点</p>

1. 資料以外の重要な部分の板書のノートをとることを怠らないこと。2. 小テストは3回行うので、レポート形式の場合は必ず提出すること。3. ロールプレイやグループワークは真剣に行うこと。4. 自己理解テストなどもあるので、楽しみながら授業を受けるよう心がけること。5. 予習は関連図書の「生徒指導提要」等を講義に合わせて読んでくるとよい。6. レポートなどの剽窃（コピーアンドペースト等）は、不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	教育相談とは	対面	予習:教科書P12からP26まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30
	内容	生徒指導と教育相談の相違点や教育相談の意義と課題、教育相談における校内体制の整備や組織的な取組みについて学ぶ。	講義、演習		
2回	テーマ	子どもの発達と問題(児童期の心の発達)	対面	予習:教科書P27からP38まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30
	内容	心理学の基礎的事項、ピアジェやエリクソンの理論及び児童期の心の発達について学ぶ。また小学生の学習面・心理社会面・進路面に関わる教育上の課題について学ぶ。	講義、演習		
3回	テーマ	子どもの発達と問題(青年期の心の発達)	対面	予習:教科書P38からP44まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30
	内容	心理学の基礎的事項、青年期にあたる中高生の認知能力・社会性について学ぶ。また中高生の学習面・心理社会面・進路面に関わる教育上の課題について学ぶ。	講義、演習		
4回	テーマ	学校教育におけるカウンセリングマインド	対面	予習:教科書P45からP56まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30
	内容	教育相談におけるカウンセリグマインドの必要性を理解し、精神分析、認知行動療法、PCAなどのカウンセリングの基礎的理論と人間観、カウンセリングにおける枠組みや技法について学ぶ。小テスト	講義、演習		
5回	テーマ	カウンセリングの基礎(演習)	対面	予習:教科書P56からP61まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30
	内容	受容・傾聴・共感的理解、自己一致等のカウンセリグの基礎的な姿勢や技法について演習を通して学ぶ。	講義、演習		
6回	テーマ	子どものシグナル	対面	予習:教科書P62からP66まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30
	内容	生徒一人ひとりのシグナルに行動観察、学業成績、言動・態度、表現物等を通して気づき、情報を集め教育相談に役立てる方策を学ぶ。	講義、演習		
7回	テーマ	子どものアセスメント	対面	予習:教科書P66からP81まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30
	内容	アセスメントを活用し不適応の意味や生徒の発するシグナルを把握する方法を学ぶ。教師が行うアセスメント(個人・学級)、スクールカウンセラー等の専門家が行うアセスメントや専門機関等で実施される知能検査や心理検査等について学ぶ。	講義、演習		
8回	テーマ	不登校の課題に対する教育相談の進め方	対面	予習:教科書P82からP93まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30
	内容	不登校の実態や歴史、不登校に至る背景、タイプ分け、発達段階ごとの課題について学び、不登校の支援の実際・回復過程における教育相談の進め方について学ぶ。小テスト	講義、演習		
9回	テーマ	不登校の課題に対する教育相談の進め方(演習)	対面	予習:教科書P93からP100まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30
	内容	不登校の事例を挙げ、支援の実際について検討するとともに、カウンセリグ技法を用いたロールプレイを行い教育相談の進め方について実践的に学ぶ。	講義、演習、RP		
10回	テーマ	いじめの課題に対する教育相談の進め方	対面	予習:教科書P101からP112まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30
	内容	いじめとは何か人間関係の特徴や発生しやすい条件やその構造などを概観し、いじめの現状についてデータを通して学ぶ。いじめに対する教育相談の進め方や予防教育について学ぶ。	講義、演習		

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	いじめの課題に対する教育相談の進め方(演習)	対面	予習:教科書P112からP117まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30
	内容	いじめの事例を挙げ、支援の実際について検討するとともに、カウンセリング技法を用いたロールプレイを行い教育相談の進め方について実践的な学ぶ。	講義、演習、RP		
12回	テーマ	教育相談と福祉、専門機関との連携	対面	予習:教科書P138からP154まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30
	内容	福祉とは何か概観し、虐待の発見とその後、虐待への教師の関わり、貧困に対する教育相談のあり方、そして専門機関や専門職との連携の必要性について学ぶ。小テスト	講義、演習		
13回	テーマ	教育相談と性の多様性	対面	予習:教科書P155からP170まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30
	内容	性の多様性をめぐる基礎的知識を学び、性的少数者と教育相談上の課題について学ぶ。教師や学校が取り組むべき課題について学ぶ。	講義、演習		
14回	テーマ	教育相談における緊急支援	対面	予習:教科書P171からP187まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。	30
	内容	事件、事故、災害といった緊急支援における教育相談の役割とストレス反応に対する実際の支援、地域の専門機関との連携の必要性について学ぶ。	講義、演習		
15回	テーマ	教師のメンタルヘルス及びまとめ	対面	予習:教科書P188からP203まで読んでおく。復習:講義スライド、配布資料を読んでおく。ポートフォリオ(到達度レポート)の作成	30 30 60
	内容	教育相談を進める上で重要な課題である教師のメンタルヘルスについて、その現状と対処について学ぶ。	講義、演習		

科目名	☆美術科教育法Ⅰ（2美デ）			開講学年	2	講義コード	2811001	区分	選択		
英文表記	Art Education Method I			開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	坂本健(非常勤)										
研究室	本館1階非常勤講師室					オフィス アワー 授業時間の前後（非常勤講師室）					
メールアドレス	skmt@shokei-gakuen.ac.jp										
キーワード	美術教育 学校教育 美術科教育 教養的知識 論理力 自己管理能力										
授業概要	美術教育の研究や実践は多岐にわたっており、学校教育をはじめ社会教育、生涯教育、教養教育など、学校や地域社会のあらゆる場面で幅広い対象に受け入れられている。その中で自然、そして生活や社会と美術の関わりについて考察し、美術科教育が果たす役割を踏まえながら、美術の基礎的な理論、美術教育の基礎的な内容を講義と演習をまじえながら進めていく。その内容は学校教育と教員養成を主軸としたものであり、美術教育の目的・分野・方法・教育理論や歴史についての概要及び教材の研究を含めた中・高等学校での美術科教育の領域と内容について考える。また、学修をする上では、毎回の授業でテーマに沿ってのまとめを記入するので、自分の考えを明確に書き、提出をすること。その後にはフィードバックを行うので、返却後はもう一度、その学修内容を振り返るようにすること。その他、各種提出物は期日までに必ず提出をすること。そして、教育者を旨とする学生においては本科目における講義・演習を通して、学校教育、及び美術科教育に関する課題に対応できる基礎能力と人間関係形成・社会形成能力を養う。							関連科目			
								発展科目：美術科教育法Ⅱ・美術科教育法Ⅲ・美術科教育法Ⅳ・教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ・教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】・・・各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
a,f,g	①	美術教育の概要(目的・性格・歴史等)と意義を理解し、文章で報告することができる。									
a,f,g	②	学校教育における美術科教育の意義と概要(表現と鑑賞)及び教材研究の在り方を理解し、文章で報告することができる。									
g	③	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	15	0	20	10	55	100		
教科書	授業の中で指示する(美術科教育法に関する自作教材)										
参考書	中学校学習指導要領 東山書房 文部科学省 高等学校学習指導要領 東山書房 文部科学省 中学校学習指導要領解説 美術編 日本文教出版 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 美術編 教育図書 文部科学省										

予備知識	これまで自身が受けてきた中学校・高等学校での美術の授業について整理しておく。
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	レポート：授業最終回に行うまとめレポートで15点 作品：演習(教材研究)での課題で20点 ポートフォリオ：ポートフォリオで10点 その他：講義内容に関するテーマのまとめで55点

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。オフィスアワーにTeamsのチャットやテレビ電話等での質問も受け付けます。※その他メール等での質問も受け付けます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	美術教育とはⅠ	対面	【予習】自身が受けてきた美術の授業について整理しておく 【復習】授業の内容を確認しておく。【予習】前時の授業内容を確認しておく。【復習】授業の内容を確認しておく。【予習】前時の授業内容を確認しておく。【復習】授業の内容を確認しておく	90
	内容	【美術教育の目的と性格】美術教育とはどういったものであるのか、その目的と性格についての講義とまとめ	講義		
2回	テーマ	美術教育とはⅡ	対面	【予習】前時の授業内容を確認しておく。【復習】授業の内容を確認しておく	90
	内容	【美術教育の意義】学校教育において、美術教育ほどのような意義があるのかについての講義とまとめ	講義		
3回	テーマ	美術教育とはⅢ	対面	【予習】前時の授業内容を確認しておく。【復習】授業の内容を確認しておく	90
	内容	【美術教育理論の歴史】明治期以降における美術教育理論を歴史的観点から考察する講義とまとめ	講義		
4回	テーマ	美術教育とはⅣ	対面	【予習】前時の授業内容を確認しておく。【復習】授業の内容を確認しておく	90
	内容	【子どもの発達段階と表現活動】子どもの作品を実際に見ながら、発達段階的観点から理解するための講義とまとめ	講義		
5回	テーマ	美術科教育の領域と内容Ⅰ	対面	【予習】自身が受けてきた美術の授業について整理しておく 【復習】授業の内容を確認しておく	90
	内容	【美術科教育における領域と内容：絵画・彫刻】美術科における領域と内容（絵画・彫刻）を理解するための講義とまとめ	講義		
6回	テーマ	美術科教育の領域と内容Ⅱ	対面	【予習】自身が受けてきた美術の授業について整理しておく 【復習】授業の内容を確認しておく	90
	内容	【美術科教育における領域と内容：デザイン・工芸】美術科における領域と内容（デザイン・工芸）を理解するための講義とまとめ	講義		
7回	テーマ	美術科教育の領域と内容Ⅲ	対面	【予習】自身が受けてきた美術の授業について整理しておく	90
	内容	【美術科教育における領域と内容：鑑賞】美術科における領域と内容（鑑賞）を理解するための講義とまとめ。鑑賞の授業におけるICT活用や知的財産権・肖像権について	講義		
8回	テーマ	美術科教育の領域と内容Ⅳ	対面	【予習】前時の授業内容を確認しておく。【復習】授業の内容を確認しておく	90
	内容	【美術館について】鑑賞の活動における美術館との関係性や最近的な美術館の動向についての講義とまとめ	講義		
9回	テーマ	美術科教育の領域と内容Ⅴ	対面	【予習】自身が受けてきた美術の授業について整理しておく 【復習】授業の内容を確認しておく	90
	内容	【美術科教育における材料・用具と安全指導】美術科教育研究における材料・用具（ICT機器を含む）の視点と安全指導法についての講義とまとめ	講義		
10回	テーマ	教材の研究Ⅰ	対面	【予習】演習のアイデアを練っておく。【復習】作品を完成させ、次時に提出をする	90
	内容	【教材研究①】演習を伴う、教材の開発を含めた実地的な教材研究	演習		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	教材の研究Ⅱ	対面	【予習】演習のアイデアを練っておく【復習】作品を完成させ、次時に提出をする ポートフォリオ(到達度レポート)の作成	90
	内容	【教材研究②】演習を伴う、教材の開発を含めた実地的な教材研究	演習		
12回	テーマ	教材の研究Ⅲ	対面	【予習】演習のアイデアを練っておく【復習】作品を完成させ、次時に提出をする ポートフォリオ(到達度レポート)の作成	90
	内容	【教材研究③】演習を伴う、教材の開発を含めた実地的な教材研究	演習		
13回	テーマ	学習指導要領についてⅠ	対面	【予習】学習指導要領を読んでおく【復習】授業の内容を確認	90
	内容	【学習指導要領とは】学習指導要領がどのような目的と意義があるのかについての講義とまとめ	講義		
14回	テーマ	学習指導要領についてⅡ	対面	【予習】前時の内容を確認し、学習指導要領を読んでおく【復習】授業の内容を確認	90
	内容	【学習指導要領(美術)の解説】学習指導要領第2章第6節における美術科教育のねらいについての解説とまとめ	講義		
15回	テーマ	まとめ	対面	【予習】美術科教育法Ⅰでの内容を確認しておく【復習】授業内容を反芻し、各授業でのまとめを整理する	90
	内容	【幼・保からの連携について・まとめレポート】就学前から小・中・高への連携についての講義と美術科教育法Ⅰの学修内容のまとめ	講義		

科目名	☆美術科教育法Ⅱ（2美デ）				開講学年	2	講義コード	2811101	区分	選択		
英文表記	Art Education Method II				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	坂本健（非常勤）											
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業前後（非常勤講師室）					
メールアドレス	skmt@shokei-gakuen.ac.jp											
キーワード	学習指導要領 教育課程 指導計画 学習指導案 学習評価 教養的知識 論理力 自己管理能力											
授業概要	美術科の学習は表現活動と鑑賞活動を通して行われる。そして、その学習指導は教育目標、教材、教育方法、評価などの研究を通じ、生徒の活動を促すものである。このことを踏まえて、美術科教育の学習指導の基礎的な内容を講義と演習をまじえながら進めていく。その内容は学習指導要領の概説、教育課程と指導計画、学習指導・評価・運営の方法等について考察をし、演習として実際に指導案(略案)を作成することにより授業の流れをイメージする。また、学修をする上では、毎回の授業でテーマに沿ってのまとめを記入するので、自分の考えを明確に書き、提出をするようにすること。その後にはフィードバックを行うので、返却後はもう一度、その学修内容を振り返るようにすること。その他、各種提出物は期日までに必ず提出をするようにすること。そして、教育者を目指す学生においては本科目における講義・演習を通して、学校教育、及び美術科教育に関する課題に対応できる基礎能力と人間関係形成・社会形成能力を養う。								関連科目			
									基礎科目:美術科教育法Ⅰ 発展科目:美術科教育法Ⅲ・美術科教育法Ⅳ・教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ・教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修 【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術) 【各科目に含めることが必要な事項】・・・各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標											
a,d,g,h	①	学習指導要領及び教育課程と指導計画について理解することができる。										
a,d,f,g,h	②	学習指導・評価・運営の方法について理解することができる。										
a,d,e,f,g,h	③	授業の流れについて理解し、指導案(略案)を作成することができる。										
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。										
	⑤											
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	15	25	0	10	50	100			
教科書	授業の中で指示する(美術科教育法に関する自作教材)											
参考書	中学校学習指導要領 東山書房 文部科学省 高等学校学習指導要領 東山書房 文部科学省 中学校学習指導要領解説 美術編 日本文教出版 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 美術編 教育図書 文部科学省											

これまで自身が受けてきた中学校・高等学校での美術の授業、及び美術科教育法Ⅰの内容について整理しておく

予備知識

実務経験
のある
教員

評価明細
基準

レポート：授業最終回に行うまとめレポートで15点 成果発表：演習（年間指導計画・学習指導案略案）での課題で25点。
ポートフォリオ：ポートフォリオで10点 その他：講義内容に関するテーマのまとめで50点

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。オフィスアワーにTeamsのチャットやテレビ電話等での質問も受け付けます。※その他メール等での質問も受け付けます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	指導計画についてⅠ	対面	【予習】前時の内容を確認【復習】授業で取り扱いたい教材を調べておく	90
	内容	【指導計画について】教育課程における指導計画の位置づけとその意義についての講義とまとめ	講義		
2回	テーマ	指導計画についてⅡ	対面	【予習】取り扱いたい教材について調べておく【復習】指導計画の制作を進めておく	90
	内容	【指導計画の作成①】領域と内容のバランスを重視しながら3年間を見通した授業内容の構成 情報機器を活用した教材の開発	演習		
3回	テーマ	指導計画についてⅢ	対面	【予習】取り扱いたい教材について調べておく【復習】指導計画の制作を進めておく	90
	内容	【指導計画の作成②】系統性を考慮しながら授業内容の構成を決定 情報機器を活用した教材の段階的、且つ系統的な配置を検討	演習		
4回	テーマ	指導計画についてⅣ	対面	【予習】取り扱いたい教材について調べておく【復習】指導計画の制作を進めておく	90
	内容	【指導計画の作成③】系統性を考慮しながら授業内容の構成を決定 情報機器を活用した教材の段階的、且つ系統的な配置を検討	演習		
5回	テーマ	指導計画についてⅤ	対面	【予習】取り扱いたい教材について調べておく【復習】指導計画の制作を進めておく	90
	内容	【指導計画の作成④】系統性を考慮しながら授業内容の構成を決定 情報機器を活用した教材の段階的、且つ系統的な配置を検討	演習		
6回	テーマ	指導計画についてⅥ	対面	【予習】取り扱いたい教材について調べておく【復習】指導計画の制作を進めておく	90
	内容	【指導計画の作成⑤】授業に必要な準備や配慮すべき事項を検証	演習		
7回	テーマ	指導計画についてⅦ	対面	【予習】取り扱いたい教材について調べておく【復習】指導計画を完成させ、次時に提出をする	90
	内容	【指導計画の作成⑥】授業に必要な準備や配慮すべき事項を検証	演習		
8回	テーマ	学習指導案についてⅠ	対面	【予習】学習指導要領の「学習指導案の作成について」を読んでおく【復習】授業の内容を確認	90
	内容	【学習指導案について】教育課程における学習指導案の位置づけとその意義についての講義とまとめ 本テーマに沿ったまとめ	講義		
9回	テーマ	学習指導案についてⅡ	対面	【予習】前時の内容を確認し、学習指導要領の「学習指導案の作成について」を読んでおく【復習】授業の内容を確認	90
	内容	【学習指導案の形式】学習指導案の形式について、各項目の記載方法の解説と意義についての講義とまとめ	講義		
10回	テーマ	学習指導案についてⅢ	対面	【予習】前時の内容を確認し、取扱い教材を選んでおく【復習】学習指導案略案の作成を進めておく	90
	内容	【美術科における評価とは】学習指導案における評価（基準・規準）についての概説	講義		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学習指導案についてⅣ	対面	【予習】前時の内容を確認し、取扱いたい教材を選んでおく【復習】学習指導案略案の作成を進めておく	90
	内容	【学習指導案(略案)の作成①】…パソコンを用いて指導計画の中から該当する授業内容を選択し、ねらいを設定	演習		
12回	テーマ	学習指導案についてⅤ	対面	【予習】学習指導案略案の作成を進めておく【復習】学習指導案略案の作成を進めておく	90
	内容	【学習指導案(略案)の作成②】…パソコンを用いてねらいに即した授業の流れと評価の視点を考察。授業における課題や参考作品の提示に際しての情報機器の活用を検討	演習		
13回	テーマ	学習指導案についてⅥ	対面	【予習】学習指導案略案の作成を進めておく【復習】学習指導案略案の作成を進めておく	90
	内容	【学習指導案(略案)の作成③】…パソコンを用いて授業の流れについて、予想される生徒の反応に応じた配慮すべき事項の考察	演習		
14回	テーマ	学習指導案についてⅦ	対面	【予習】学習指導案略案の作成を進めておく【復習】学習指導案略案を完成させて、次時に提出をする	90
	内容	【学習指導案(略案)の作成④】…パソコンを用いて授業の流れについて、予想される生徒の反応に応じた配慮すべき事項の考察	演習		
15回	テーマ	指導計画の実践と検証	対面	【予習】研究したい教材を調べておく【復習】取り扱った教材について、授業での活用を検討する	90
	内容	【模擬授業及び授業研究会】略案を用いた模擬授業の実践。模擬授業で実際的に情報機器の活用することで、工夫を検討	演習		

科目名	☆地学（2ナ生物）				開講学年	2	講義コード	2811201	区分	選択	
英文表記	Basic Earth Science				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	吉朝朗（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業時間前後				
メールアドレス	yoshiasa@kumamoto-u.ac.jp										
キーワード	地学 天文 気象 地質 化石 教養的知識 論理力										
授業概要	自然科学分野で活躍できる教育者・知識人であり、中でも教員や科学技術者を目標とする学生には「地学」は理科・自然科学分野として必要である。1)宇宙の138億年や、惑星と固体地球の46億年にわたって繰り広げられてきた現象と歴史を学ぶ。宇宙・惑星・地球・生命は密接に関係し進化・形成されたことを科学的に検証する。2)元素・太陽系・地球の活動・日本列島の形成・天変地異について最先端の観測・研究内容を講義する。3)諸現象の観測や素過程の解析により科学的に明らかにされた、現代の宇宙像・地球像や生命進化と絶滅について知る。4)各観測から予想される地球環境変化の中での人類の未来について考える力を持つ基盤を提供する。5)宇宙地球のダイナミクス、進化、現代の宇宙・地球像、生命の起源、人間活動と環境変化、種の絶滅と人類、持続可能な文明に関わる関連分野について学習する。前回の授業内容を復習、あらかじめ伝えられた次回講義内容の準備、課された宿題・レポートを作成すること。また、野外観察関連等の準備、図書館や公開資料、学科推薦等を利用した課題を課すこともある。宿題・レポートについては、授業時にフィードバックする。							関連科目			
								連携科目：地学実験、理科教育法 発展科目：事前・事後指導、教育実習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・必修【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 理科)【各科目に含めることが必要な事項】・・・地学							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
a,c	①	宇宙・惑星・地球・生命は密接に関係し形成・進化したことを理解し、プレートテクトニクス、元素、太陽系・地球の活動などについて説明することができる。									
a,c	②	持続可能文明の必要性、科学的判断力を身に付け、各観測から予想される地球環境変化の中での人類の未来について、レポート等を作成することができる。									
a,b,c	③	本科目における「学生の到達度目標」を自己評価することができる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	30	40	10	5	5	0	10	0	100		
教科書	授業中に指示する										
参考書	宇宙科学入門 第2版 東京大学出版 「地球科学入門」 ソフトバンククリエイティブ NHK人間講座「宇宙からみる生命と文明」 NHK出版										

予備知識	<p>地学は対象が天気、気象、岩石、鉱物、火山、地震、古生物、惑星、太陽、宇宙等と多くの分野に関連している。物理、化学、生物学的思考に加え、宇宙から素粒子レベルの大きさ、138億年から数秒にいたる時間スケールの認識が求められる。受講する学生は自分の専攻する分野の知識を学習に生かすとともに、それ以外のできるだけ広い分野にも関心を持つよう心掛けて欲しい。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>授業中に、授業内容に関連した小課題 $2 \times 5 = 10$ 点。定期試験は60%、その他レポート、小テスト、積極性・意欲、質問・回答能力等30%を総合的に評価する。出席が3/4に満たないものは期末試験の受験資格を与えない。宇宙・惑星・地球・生命は密接に関係し進化・形成されたことを知り、各観測から予想される地球環境変化の中での人類の未来について考える力を持つものに単位を与える。図書館の学科推薦図書等を利用した課題への対応も評価する。</p>

・資料(レジユメ)は配布する。板書、PPT、映像により講義をする。地学は対象が大気、気象、岩石、鉱物、火山、地震、古生物、惑星、太陽、宇宙等と多くの分野に関連している。物理、化学、生物学的思考に加え、宇宙から素粒子レベルの大きさ、138億年から数秒にいたる時間スケールの認識が求められる。受講する学生は自分の専攻する分野の知識を学習に生かすとともに、それ以外のできるだけ広い分野にも関心を持つよう心掛けて欲しい。・レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は不正行為とみなされます。・授業計画は予定で、入れ替わることがあります。詳しい予定については授業第1回で説明するので、必ず参加してください。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)		授業内容	開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	ガイダンス・安全講習 ガイダンス/地学学習・実験・野外活動に安全について。地学を学ぶにあたって/地学学習・実験・野外活動に安全について。観測とスケールリング	講義 演習	復習: 講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
2回	テーマ 内容	宇宙・素粒子 宇宙から素粒子、137億年、宇宙・地球・生命の年齢、時間。宇宙の始まりとハッブル年齢、ビッグバン宇宙論と宇宙背景放射、ダークマターとダークエネルギー	講義	予習: 前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習: 講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
3回	テーマ 内容	現在の宇宙像 現在の宇宙像。元素の合成、宇宙の構造、恒星・惑星の進化	講義	予習: 前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習: 講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
4回	テーマ 内容	始源物質と原子太陽系 始源物質と原子太陽系、物質に残された記録。恒星の内部構造・表面及び外層、太陽の活動現象、太陽のエネルギー源/HR図	講義	予習: 前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習: 講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
5回	テーマ 内容	天体観測と探査 天体観測、惑星探査と惑星の活動。惑星探査と惑星の活動、天体望遠鏡を活用した天文教育の体験	講義 演習	予習: 前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習: 講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
6回	テーマ 内容	惑星の進化と構造 惑星の起源・進化と内部構造、生命の起源。新しい太陽系像、太陽系天体の大きさと軌道、惑星の起源・進化と内部構造、生命の起源、太陽系形成論	講義	予習: 前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習: 講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
7回	テーマ 内容	星と生命 天体の衝突と種の絶滅、進化の本質。隕石衝突とクレーター、衝撃圧縮実験、天体の衝突と種の絶滅、進化の本質	講義	予習: 前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習: 講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
8回	テーマ 内容	宇宙天文分野のまとめ 中間試験 宇宙・地球史から見た地球環境の成り立ち、地球外生命(系外惑星探査)。初期地球・生命の発生と惑星環境変化、宇宙・地球史から見た地球環境の成り立ち、宇宙天文分野のまとめと到達度の評価(試験)	講義	予習: 前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習: 講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
9回	テーマ 内容	現在の地球像 現在の地球像、プレートテクトニクス、地殻・マントル・核、地震波の伝わり方、リソスフェアとアセノスフェア、プレートテクトニクス理論による地震・火山・大陸移動の説明、日本周辺のプレート	講義	予習: 前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習: 講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
10回	テーマ 内容	気象 地球の大気と海洋、地球の気候、大気の循環、海洋の大循環、海水の組成と循環、気象要素と観測、天気の変化、前線と気団	講義	予習: 前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習: 講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	九州の地球科学	講義 演習	予習: 前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習: 講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
	内容	九州の地球科学: 災害・天変地異。野外調査法、地層、化石、火成岩と堆積岩、朝夕、古流行、体積、風化、フィールドワーク			
12回	テーマ	文明と環境変化予測	講義	予習: 前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習: 講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
	内容	文明の本質・環境変化予測と文明持続へのプレグスルー。文明の本質・ミランコビッチ周期と気候、未来予測の可能性			
13回	テーマ	産業革命と文明の矛盾	講義	予習: 前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習: 講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
	内容	宇宙地球活動・諸現象の科学的理解、産業革命と文明の矛盾。宇宙地球活動・諸現象の科学的理解、産業革命と文明の矛盾についての先端研究・科学			
14回	テーマ	地球史と未来	講義	予習: 前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習: 講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。	60
	内容	地球史と未来、気候変動、観測と理論。地質時代の区分、宗準化石と宗相化石、地球史と未来、気候変動、観測と理論			
15回	テーマ	持続可能な文明	講義	予習: 前回の授業の内容を再度確認し、配られたレジュメを十分に理解しておく。復習: 講義で出てきた、数値を再度確認し、重要値や事項を覚えること。ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	180
	内容	持続可能な文明への道、(地球分野)の総括。持続可能な文明への道。			
16回	テーマ	地球分野のまとめと評価 定期試験	講義		
	内容	地球分野のまとめと到達度の評価(試験)			

科目名	☆道德教育指導論（3ナ微生美デ）				開講学年	3	講義コード	2811701	区分	選択	
英文表記	The Teaching Method of Moral Education				開講期	後期	開講形態	ブレンド授業（対面＋遠隔）	単位数	2	
担当教員	木村 勝美										
研究室	『本館3階303』						オフィス アワー 昼休みの時間（本館3階303）				
メールアドレス	kimura77@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	道德の意義－教養的知識 道德教育の歴史の変遷－教養的知識 道德教育と道德科の目標の対比－教養的知識 道德科の 四つの視点－教養的知識 道德科の多様な指導展開－論理力 質の高い多様な指導方法－論理力 道德教育と道德科の 評価の意義－教養的知識 学習指導案の作成－キャリアデザイン力 模擬授業と授業－アカデミックスキル										
授業概要	道德の本質や道德性の発達に関する諸理論や道德教育の歴史についての講義を通して専門的知識や論理的思考力を身に付けさせる。また、道德教育の改訂の趣旨や目標及び道德科の目標や内容、並びに道德教育の指導計画等の作成方法、道德科における多様な指導方法及び評価方法等についての講義や演習により、論理的思考力、計画実行能力及び創造力等を培う。さらに、道德科の学習指導案を作成させるとともに、指導過程、教材、発問、板書等の工夫をさせながら模擬授業及び授業研究を行わせることにより、企画力や課題解決力、実践的指導力及び発信力を育成する。課題レポートのフィードバックについては、次回の授業で模範解答等を示しながら解説する。							関連科目 ・基礎科目：教育原論・連携科目：教育課程論、特別活動論 ・発展科目：事前・事後指導、教育実習、教職実践演習			
								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校 必修【科目区分】・・・道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・道德の理論及び指導法							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
d	①	道德の意義や本質に関する諸理論を参考にしながら道德教育の目標や道德科の内容について理解することができる。									
hi	②	道德教育の評価の意義や評価の基本的な考え方及び評価の在り方について適切に把握することができる。									
d	③	道德科の指導の充実を図るため、多様な指導方法及び教科用図書や地域教材等の使用方法についてグループで協議し、学習指導に活かすことができる。									
f	④	指導過程、発問、板書、教材等を工夫しながら、道德科の学習指導案を作成し模擬授業を行うことができる。									
g	⑤	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	40	0	10	0	100		
教科書	道德教育指導に関する自作教材 中学校学習指導要領特別の教科 道德編 教育出版 文部科学省 978-4-316-30084-9										
参考書	考え、議論する道德の指導法と評価 教育出版 西野真由美・鈴木明雄・貝塚茂樹 978-4-316-8044-7 中学校道德あすを生きる1年・2年・3年（文部科学省検定教科書） 日本文教出版 日本文教出版 978-4-536-18174-7										

予備知識	<p>・小学校や中学校の道徳の時間等に学習した道徳教育に関する知識や技能 ・教育原論や教育課程論で学修した道徳教育に関する知識</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>・学生の到達度目標①【1-1教養的知識】40点 ⇒道徳教育の目標や道徳科の内容について調査し適切に理解できる。・学生の到達度目標②【2-3論理力】10点 ⇒道徳科と教科との評価の在り方を比較しながら論理的に理解できる。・学生の到達度目標③【3-3協働性】20点 ⇒道徳科として質の高い学習指導法の在り方についてグループで協議し実践できる。・学生の到達度目標④【2-4アカデミックスキル】:20点 ⇒自分で学習指導案を作成し模擬授業を行うことができる。・学生の到達度目標⑤【3-2自己管理能力】:10点 ⇒設定された「学生の到達度目標」により客観的に自己評価できる。</p>

1. 将来教職を目指す学生は必ず受講し積極的に授業に参加すること。2. 対面授業の場合にディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3. 授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4. 対面授業の場合は、遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5. 授業内容の予習・復習をきちんと行うこと。6. レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃（ひょうせつ）は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	道徳の意義、道徳性の発達及び道徳をめぐる今日の課題	対面授業	【復習】道徳の意義等について復習しておく。課題レポート1を作成する。	60
	内容	道徳的概念について、道徳教育に関する諸理論等を参考にしながら議論し、道徳の意義や本質について学ぶ。また、子供の成長に即した道徳性の発達及びいじめ・情報モラル等の道徳に係る今日の課題に対応した教育の在り方について学ぶ。	講義・演習		
2回	テーマ	道徳教育改訂の基本方針等及び道徳教育の歴史	遠隔授業	【予習】スライド教材3を読み込んでおく。【復習】道徳教育改訂の基本方針等について復習しておく。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	学習指導要領改訂に伴う道徳教育改訂の経緯、基本方針及び要旨(目標・内容・指導計画等)並びに我が国における道徳教育の歴史の変遷について学ぶ。	講義		
3回	テーマ	道徳教育と道徳科の目標及び各教科等における道徳教育	遠隔授業	【予習】スライド教材4を読み込んでおく。【復習】道徳教育の目標等について復習しておく。課題レポート2を作成する。	30 60
	内容	旧学習指導要領の道徳教育・道徳の時間と改訂版の道徳教育・道徳科の目標を対比しながらそれぞれの目標の趣旨について学ぶ。また、各教科等における道徳教育の在り方とともに、道徳教育が道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであることを学ぶ。	講義・演習		
4回	テーマ	道徳科の内容構成と内容項目の指導の観点	対面授業	【予習】スライド教材5を読み込んでおく。【復習】道徳科の内容構成等について復習しておく。課題レポート3を作成する。	30 60
	内容	四つの観点(A:主として自分自身に関すること等)に基づく内容構成及び内容の取り扱い方(関連性・発展性・重点的指導)並びに内容項目の概要や指導の要点等の内容項目の指導の観点について学ぶ。	講義・演習		
5回	テーマ	指導計画の作成と作成上の配慮事項	遠隔授業	【予習】スライド教材6を読み込んでおく。【復習】指導計画の作成等について復習しておく。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	道徳教育の全体計画、学級における指導計画、学年の年間指導計画及び各時間の展開の主要の作成の必要性及び具体的作成方法について学校現場の具体的事例を参考に学ぶ。	講義		
6回	テーマ	道徳科における指導の基本方針と指導の在り方	遠隔授業	【予習】スライド教材7を読み込んでおく。【復習】道徳科に指導の基本方針等について復習しておく。課題レポート4を作成する。	30 60
	内容	道徳科の特質の理解、生徒の発達や個に応じた指導方法の工夫、道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実等の指導の基本方針及び多様な教材を生かした指導、体験の生かした方を工夫した指導等の多様な指導展開の在り方について学ぶ。	講義		
7回	テーマ	質の高い多様な指導方法及び教材の開発と活用	対面授業	【予習】スライド教材8を読み込んでおく。【復習】質の高い多様な指導方法等について復習しておく。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	「考える道徳」「議論する道徳」を視점에置き、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等の道徳科における質の高い多様な指導方法について学ぶ。また、生命の尊厳、社会参画、伝統と文化、情報化への対応等を題材として多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような教材の開発・活用の必要性や在り方について学ぶ。	講義・演習		
8回	テーマ	道徳の授業観察と授業研究	遠隔授業	【予習】スライド教材9を読み込んでおく。【復習】道徳の授業観察から学んだことをまとめておく。課題レポート5を作成する。	30 60
	内容	DVD等で学校現場の実際の道徳の授業を観察し、授業の視点(指導の流れ・発問・板書・教材の工夫等)に基づき、授業観察から学んだことと発表する。	講義		
9回	テーマ	道徳教育の評価と授業に対する評価の在り方	対面授業	【予習】スライド教材10を読み込んでおく。【復習】道徳教育の評価の在り方等について復習しておく。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	道徳教育と道徳科における評価の意義及び道徳科における評価(基本的な考え方、個人評価としての見取り、評価のための具体的な工夫等)について学ぶ。また、授業に対する評価の基本的な考え方や評価の工夫について学ぶ。	講義・演習		
10回	テーマ	道徳科と教科等との関連を図った指導計画の作成方法	遠隔授業	【予習】スライド教材11を読み込んでおく。【復習】指導計画の作成方法について復習しておく。課題レポートを作成する。	30 60
	内容	県教育委員会の指導資料集を利用しながら、事前指導→道徳科の授業→事後の指導の学習過程で、道徳教育の要である道徳科と各教科・特別活動・総合的な学習の時間等における道徳教育との関連付けを図った指導計画の作成方法について学ぶ。	講義		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	道徳科の学習指導案の作成方法	対面授業	【予習】スライド教材12を読み込んでおく。【復習】学習指導案の作成方法について復習しておく。課題レポートを作成する。	60 60
	内容	学習指導案の形式「主題名・資料名・主題設定の理由・生徒の実態・指導観・各教科等との関連・指導計画・本時の学習（目標・展開）」及び学習指導案作成の主な手順（ねらいの検討・教材の吟味・学習指導過程の構想等）について学ぶ。	講義・演習		
12回	テーマ	学習指導案の作成	遠隔授業	【予習】スライド教材13を読み込んでおく。【復習】学習指導案を作成し次回提出する。	60 90
	内容	指導のねらいを明確にし、教科用図書等の教材を吟味し、生徒の実態や教材の内容などを基に指導過程を構築しながら道徳科の学習指導案を作成する。	講義		
13回	テーマ	模擬授業への取組	対面授業	【予習】模擬授業の発表準備をしておく。【復習】模擬授業の展開方法についてまとめる。	60 90
	内容	学習指導案を基に、教材の工夫、発問の仕方、板書計画、教育機器の活用等を検討しながら模擬授業の展開を考える。	講義・演習		
14回	テーマ	模擬授業と授業研究（前半）	対面授業	【予習】模擬授業の発表準備をしておく。【復習】模擬授業を反省し、改善点をレポートにまとめる。	60 90
	内容	作成した学習指導案や教材等によりグループ代表による模擬授業を行うとともに、授業後に指導過程、発問の工夫、板書計画、教材の工夫、生徒の反応等の視点に基づき授業の評価・改善を行う。	講義・演習		
15回	テーマ	模擬授業と授業研究（後半）	対面授業	【予習】スライド教材16を読み込んでおく。【復習】模擬授業を反省し、改善点をレポートにまとめる。	30 60
	内容	作成した学習指導案や教材等によりグループ代表による模擬授業を行うとともに、授業後に指導過程、発問の工夫、板書計画、教材の工夫、生徒の反応等の視点に基づき授業の評価・改善を行う。	講義・演習		
16回	テーマ	総括的評価とまとめ	対面授業	【復習】ポートフォリオ（学修到達度レポート）に入力する。	60
	内容	授業全体の総評及び学修内容のまとめ。	講義・演習		

科目名	☆教育方法論（3機ナ建宇情微生美デ）				開講学年	3	講義コード	2811801	区分	選択	
英文表記	Educational Methods and Techniques				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	原北 祥悟										
研究室	本館付属棟311						オフィス アワー 昼休み（本館付属棟311）				
メールアドレス	harakita@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	主体的・対話的で深い学び 教育評価 教材研究 個別最適な学び 情報機器活用・情報活用 能力 情報通信技術										
授業概要	教育方法論は、教育方法の基本原理や授業設計・評価等に関する知識や実践的技能等の教員として必要な資質・能力を育成する科目である。授業では、学校教育法第三十条に述べられている「確かな学力」（「基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力その他の能力及び主体的に学習に取り組む態度」）の理念の具現化を図るための学習指導や学習評価の在り方等についての講義や演習を通して、情報の理解・選択・処理能力や本質理解能力を育成する。また、確かな学力の定着・向上を目指した学習指導や教材作成に関する議論を通して、課題対応力や実践的指導力及び人間関係形成・社会形成能力を培う。なお、成果発表、レポートのフィードバックは、それぞれの実施後初回の講義にて行う。							関連科目			
								1 基礎科目：教育原論、専門科目「理科（物理・化学・生物・地学）、情報、工業、芸術（美術・デザイン）」2 連携科目：教科教育法（工業、情報、理科、美術）3 発展科目：事前・事後指導、教育実習、教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修 【科目区分】・・・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・・・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
d	①	「教える」ことの意味や学習方法・授業設計の在り方について理解し、それらの知識・技能を身付けることができる。									
d	②	「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び」の基本的な考えを理解し、授業を行う上での基本的な技術を身につけることができる。									
h,g	③	学習教材、学習形態、情報機器活用、評価方法等を考慮しながら、学習指導案を作成することができる。									
d,i	④	ICTを活用した授業や遠隔／オンライン授業の意義や方法、留意点を理解することができる。									
g	⑤	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	60	30	0	10	0	100		
教科書	ICTを活用する 新しい時代の教育方法 ミネルヴァ書房 佐藤仁・伊藤亜希子・和田美千代編著 9784623095056 中学校学習指導要領解説「理科編・美術編」 文部科学省 高等学校学習指導要領解説「工業編・情報編・数理編・芸術編」 文部科学省										
参考書	画一化する授業からの自律－スタンダード化・ICT化を超えて－ 学文社 子安潤 4762031089										

予備知識	・中学校・高等学校での学習指導・学習評価の在り方についての知識や技能 ・教科教育法で学修した知識・技能
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	1.レポート ・教育方法(ICT活用含む)に関する中間課題レポート 20点 ・最終課題レポート 30点 ・毎時のミニツツペーパー 10点 3.成果発表(口頭・板書、実技等) ・グループ等討議の報告書(学習指導案等) 10点 ・その報告の発表 20点 4.学修到達度レポート(ポートフォリオ) 10点

1.将来教職を目指す学生は必ず受講し、意欲的に授業に参加すること。2.授業中に、ディベートやグループディスカッション、グループワークを行うので主体的に参加すること。3.教科書に基づいたレポート課題を準備しています。必ず教科書を購入すること。4.授業内容に関する課題等についてのレポートは期日を厳守して提出すること。5.遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。6.特定のオフィスパワーを設定していませんので、質問等を希望する場合は、事前に希望の日時について上記記載のメールアドレスまで連絡をしてください。7.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	教育方法を考えるーICTの活用を踏まえて(オリエンテーション)	対面	【復習】教育方法の基本原理と授業の構成要素について復習しておく。	30
	内容	教育方法論に係るシラバス及び履修上の注意について説明する。「教える」ことの意味、授業の構成要素、基礎的な技術（ICTを含む）について学ぶ。	講義		
2回	テーマ	教育目標の立て方	対面	【予習】教材の指定された箇所を精読しておくこと。【復習】教育目標とその設定方法等について復習しておく。	30 30
	内容	教育目標の設定方法、目標の順次性・階層性について学ぶ。	講義		
3回	テーマ	教材づくりの考え方	対面	【予習】教材の指定された箇所を精読しておくこと。【復習】教材の重要性と教材づくりの方法について復習しておく。	30 30
	内容	教材の重要性や教材づくりの方法を理解し、「良い」教材の考え方についてペアやグループで議論する。	講義 演習		
4回	テーマ	授業の展開過程と留意点	対面	【予習】教材の指定された箇所を精読しておくこと。【復習】授業の在り方と授業の流れ（導入ー展開ーまとめ）について復習しておく。	30 30
	内容	授業の基本的な流れである導入ー展開ーまとめを踏まえ、それぞれの段階の機能について学ぶ	講義		
5回	テーマ	学習形態の工夫	対面	【予習】教材の指定された箇所を精読しておくこと。【復習】学習形態それぞれの特徴と機能を復習しておく。	30 30
	内容	一斉学習や集団学習、個別学習などの様々な形態を知り、それぞれの機能を学ぶ。	講義		
6回	テーマ	主体的・対話的で深い学びと個別最適な学びの実践	対面	【予習】教材の指定された箇所を精読しておくこと。【復習】主体的・対話的で深い学びと個別最適な学びが意味する内容を復習しておく。	30 30
	内容	主体的・対話的で深い学びやアクティブラーニング、個別最適な学びといった新しい教育方法の可能性と課題を理解し、これからの授業実践についてペアやグループで協議する。	講義 演習		
7回	テーマ	教育評価の考え方と方法	対面	【予習】教材の指定された箇所を精読しておくこと。【復習】授業1回～7回までの学修内容を復習し、課題レポートに取り組む。	30 90
	内容	育成を目指す資質能力の3つの柱に沿った評価の観点の設定及びその実現状況を把握するための多角的・多面的な評価方法について学ぶ。	講義		
8回	テーマ	学習指導案の作成の心得	対面	【予習】教材の指定された箇所を精読しておくこと。【復習】グループで検討した指導案を提出する。	30 60
	内容	生徒観、指導案、教材観等の書き方や略案の書き方を学び、関係教科の指導案をグループで検討しながら作成する。	講義 演習		
9回	テーマ	授業におけるICT活用の基本	対面	【予習】教材の指定された箇所を精読しておくこと。【復習】「教材」「教具」としてICTを活用することの重要性について復習しておく。	30 30
	内容	ICT活用の社会的・政策的背景とともに教材・教員としてのICTの意義や機能を学ぶ。	講義		
10回	テーマ	ICTを活用した授業実践	対面	【予習】教材の指定された箇所を精読しておくこと。【復習】グループで議論した内容を整理し報告書として提出する。	30 60
	内容	ICT活用事例（教育データの活用を含む）を踏まえ、そのメリットやデメリットについてグループで議論する。	講義 演習		

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	遠隔授業とオンライン授業の展開	対面	【予習】教材の指定された箇所を精読してくる。【復習】グループで議論した内容を整理し報告書として提出する。	30 60
	内容	遠隔・オンライン授業の意義や方法、留意点を理解し、教育方法を在り方をグループで議論する。	講義 演習		
12回	テーマ	情報活用能力の育成に向けた実践(1)	対面	【予習】教材の指定された箇所を精読してくる。【復習】グループで議論した内容を整理し、改善案を提出する。	30 60
	内容	総合的な学習の時間を例に、情報活用能力(情報モラルを含む)の育成事例について学ぶ。そのうえで、その課題を析出し改善案を検討する。	演習		
13回	テーマ	情報活用能力の育成に向けた実践(2)	対面	【予習】教材の指定された箇所を精読してくる。【復習】他グループの授業実践案との差異を見出し、自グループの特徴をまとめ報告書として提出する。	30 60
	内容	関係教科別にグループに分かれ、関係教科において情報活用能力を育成するための授業実践案をまとめ、発表する。	演習		
14回	テーマ	多様な子どもとICTの活用	対面	【予習】教材の指定された箇所を精読してくる。【復習】子どもの多様性を整理し、ICTの可能性と課題を復習しておく。	30 30
	内容	特別な支援を必要とする児童生徒に対するICTの活用の意義について学ぶ。	講義		
15回	テーマ	ICTを活用した教育環境整備及びまとめ	対面	【予習】定期試験の準備をする。授業1回～15回までの復習をしておく。【復習】ICT環境整備の実態とその課題について復習しておく。ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	60 30
	内容	ICT環境の整備状況を踏まえた上で、統合型校務支援システムや外部人材の活用の可能性と課題を学ぶ。その後、最終課題レポートの提示と学修内容のまとめを行う。	講義		

科目名	☆工業科教育法Ⅱ（3機建宇情）				開講学年	3	講義コード	2812001	区分	教職「選択」		
英文表記	Method of Teaching Industrial Subjects Ⅱ				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	吉塚治生											
研究室	本館付属棟 3 1 9						オフィス アワー 木曜日：5時限目					
メールアドレス	yoshi@ed.sojo-u.ac.jp											
キーワード	プロフェッショナル システム構築力 ユニバーサルデザイン AI技術 学習指導案 教養的知識 コミュニケーション能力 論理力 自己管理能力											
授業概要	中国やインドといったアジア新興国の急速な発展、韓国の工業技術のめざましい高度化、東日本大震災や円高、団塊の世代の大量退職といった様々な要因が重なり、「Made in Japan」の信頼が揺らいできている。資源不足の問題もあるが、とりわけこれから日本の将来を担う若手技術者の育成は大きな問題となっている。実際、我が国の産業現場からも、「日本の工業技術の原点はものづくり」との声が各方面から上がっている。その意味でも、ものづくり教育を掲げている高校工業教育が果たすべき役割は大きなものがある。本講座では、今一度、工業教育の原点に戻り、工業教育の理念や工業教育改革への取組、学習指導要領の目標等を踏まえた教育課程編成の在り方等を学ぶ。また、工業科教員として、或いは企業における技術者養成の指導者として必要な豊かな人間性と使命感と意欲・情熱、旺盛な好奇心と実践力、技術教育(仕事)への確かなビジョンの構築をはかるため、学校現場や企業現場の最新情報を積極的に導入する。1. 自作テキストによる授業を行うが、各自の専門科目については図書館を活用して十分に理解を深めさせる。2. 工業高校における実践例を積極的に活用した授業を行う。その一つの方法としてパワーポイントや自作の動画を活用して授業理解を深めさせる。各課題レポートのフィードバックは次の時間に行う。								関連科目			
									基礎科目：教育原論、教育制度論、教職概論、生徒指導論 連携科目：工業科教育法Ⅰ、教育方法論 発展科目：事前・事後指導、教職実践演習	建築学科のみ	建築総合	建築計画
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…必修【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 工業)【各科目に含めることが必要な事項】…各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)								学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標											
a, b	①	我が国の高度成長をもたらしてきた工業教育の意義や工業教育改革の変遷、及び個に応じた学習指導の在り方など学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程編成等を理解し、今後の工業教育の在り方について、レポートを作成するなど文章で説明することができる。										
h, d	②	工業教育の役割と目標を理解し、工業科教員に必要な教育観や品格について、自分の考えを整理して、グループ討議やレポートを作成し発表することができる。										
b	③	「ものづくり教育」をベースとした技術指導、技術指導者としての心構えの必要性・重要性を踏まえた、学習指導案を作成し、模擬授業などで発表することができる。										
	④	本科目における「学生到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。										
	⑤											
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	48	20	22	10	0	100			
教科書	自作の授業資料											
参考書	高等学校学習指導要領解説工業編 実教出版 文部科学省 978-4-407-34864-4 工業科教育法の研究 改訂版～新しい観点と実践に基づく 実教出版 中村豊久他3名 978-4-407-34771-5 技術科・工業科教育法(教職必修) 実教出版 教職課程研究会 978-4-407-34772-9 工業科教育の方法と実際 東京電機大学 石坂 政俊他3名 978-4-486-02101-8 人工知能は人間を超えるか 角川文庫 松尾 豊 978-4-04-080020-2											

予備知識	予備知識:学習指導要領の内容、工業の教授・学習論、教育評価
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>1.学習指導案、ワークシート、参考資料等を作品として評価する。22点 ・学生の到達度目標1【1-1教養的知識】7点分で評価 ・学生の到達度目標3【2-3論理力】15点分で評価 2.レポート 授業の受講前や受講後の課題として、図書館・図書室の蔵書等を学習させ、それに基づいたレポートを提出 6点×8回=48点 ・学生の到達度目標1【1-1教養的知識】32点分で評価 ・学生の到達度目標2【2-1コミュニケーション能力】16点分で評価 3.模擬授業の実技発表 20点 ・学生の到達度目標2【2-1コミュニケーション能力】5点分で評価 ・学生の到達度目標3【2-3論理力】15点分で評価 4.ポートフォリオ 10点 ・学生の到達度目標4【3-2自己管理能力】10点分で評価 「学生の到達度目標」の各項目の達成度とその理由を200～250文字で提出 5.各課題レポート等のフィードバックは次の時間に行う。</p>

1. 自作テキストを使用し講義を行うが、資料については授業中に指示する。2. 授業への参加姿勢をみるためノート提出を求める。ポートフォリオとして自己評価させるので、ポイントを押さえてノートすること。3. 対話型授業を行うため、前列の方に着座すること。4. 指導案の作成とそれによる模擬授業をさせるので、自身の専門教科については、図書館に高校生用教科書が整備されているので、学習しておくこと。5. レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃（ひょうせつ）は、不正行為とみなすので絶対にしないこと。6. 各課題レポートのフィードバックは次の時間に行うが、不明な点や質問がある場合は、直接質問するか表記のメールアドレスへ問い合わせること。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	オリエンテーション・学校運営と教育力向上への取組(1) シラバスの説明、学校運営、地域と工業高校、SGD:工業教育の必要性、課題レポート1「取り組んでみたい地域貢献活動」	講義 演習 S GD	【予習】テキストp1～p8を読んでおく。【復習】学校得運営と工業高校の発展的活動について自身の考えをノートにまとめる。課題レポート1を作成する。	15 45
2回	テーマ 内容	学校運営と教育力向上への取組(2) 学校の教育力向上:活性化を目指す取組、PTAと諸団体、SGD:教育力向上への取組について 課題レポート2「学校の教育力向上の取組について」	講義 演習 S GD	【予習】テキストp8～p11を読んでおく。【復習】学校の教育力向上:活性化を目指す取組と関係諸団体について自身の考えをノートにまとめる。課題レポート2を作成する。	15 45
3回	テーマ 内容	学校運営と教育力向上への取組(3) 教師の教育力向上を目指す、教員に必要な対応力、SGD:教師としての魅力について 課題レポート3「教師としての魅力について」	講義 演習 S GD	【予習】テキストp11～p15を読んでおく。【復習】教師として教育力向上のために必要な様々な能力について自身の考えをノートにまとめる。課題レポート3を作成する。	15 45
4回	テーマ 内容	新しい時代に対応できるこれからの工業教育(1) 工業教育を担う指導者に求められるもの、工業教育の課題、システム構築力の育成 課題レポート4「工業教育の課題及びシステム構築力の育成」	講義 演習	【予習】テキストp16～p18を読んでおく。【復習】工業教育の課題とシステム構築力について自身の考えをレポートにまとめる。課題レポート4を作成する。	15 45
5回	テーマ 内容	新しい時代に対応できるこれからの工業教育(2) ユニバーサルデザインの方向性、ものづくりにおけるデザイン力の育成、グッドデザイン賞、今後のデザインのあり方、ネットワークと社会的役割、SGD:ユニバーサルデザインの方向性 課題レポート5「ユニバーサルデザインの方向性」	講義 演習 S GD	【予習】テキストp19～p21を読んでおく。【復習】ユニバーサルデザインの方向性についてノートにまとめる。課題レポート5を作成する。	15 45
6回	テーマ 内容	新しい時代に対応できるこれからの工業教育(3) AI技術による産業社会の動向、人工知能の脅威、現在の人工知能にできること、SGD:AI技術と人工知能について 課題レポート6「AI技術による産業社会の動向」	講義 演習 S GD	【予習】テキストp21～p23を読んでおく。【復習】人工知能の脅威と可能性について自身の考えをノートにまとめる。課題レポート6を作成する。	15 45
7回	テーマ 内容	新しい時代に対応できるこれからの工業教育(4) 新技術「デザインプログラミング」、新技術による産業社会の変化、近い将来なくなる職業と残る職業、SGD:新技術による産業社会の変化 課題レポート7「近い将来なくなる職業と残る職業」	講義 演習 S GD	【予習】テキストp23～p29を読んでおく。【復習】新技術による産業社会の変化について自身の考えをノートにまとめる。課題レポート7を作成する。	15 45
8回	テーマ 内容	学習指導案作成(1) 教科指導、教材研究、学習指導上の留意点、産業教育、SGD:教科指導のあり方と学習指導案について 課題:学習指導案の作成	講義 演習 S GD	【予習】テキストp55～p63を読んでおく。【復習】教科指導と教材研究について自身の考えをノートにまとめる。課題を作成する。	15 45
9回	テーマ 内容	学習指導案作成(2) 指導計画及び学習指導案、工業科の学習指導、SGD:学習指導要領と学習指導案 課題:学習指導案の作成	講義 演習 S GD	【予習】テキストp64～p76を読んでおく。【復習】学習指導要領と学習指導案について自身の考えをノートにまとめる。課題を作成する。	15 45
10回	テーマ 内容	学習指導案作成(3)と教具・教材の活用 学習指導案の意義と作成上の留意点、アクティブラーニングの視点、教具・教材 課題:学習指導案の作成	講義 演習	【予習】別途配付資料を読んでおく。【復習】自身の専門教科の学習指導案及び教具・教材を作成する。課題を作成する。	15 75

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	模擬授業(1)	発表、実技 討論	【予習】作成した学習指導案により、教材教具を作成する。【復習】個々に与えられた課題について自身の考えをノートにまとめる。評価表をまとめる。	60 40
	内容	機械学科の模擬授業実施、評価、意見交換、授業研究、実技(模擬授業の実施)、意見発表、模擬授業に対する評価表の作成			
12回	テーマ	模擬授業(2)	発表、実技 討論	【予習】作成した学習指導案により、教材教具を作成する。【復習】個々に与えられた課題について自身の考えをノートにまとめる。評価表をまとめる。	50 50
	内容	電気電子系学科の模擬授業実施、評価、意見交換、授業研究、実技(模擬授業の実施)、意見発表、模擬授業に対する評価表の作成、評価表の作成			
13回	テーマ	模擬授業(3)	発表、実技 討論	【予習】作成した学習指導案により、教材教具を作成する。【復習】個々に与えられた課題について自身の考えをノートにまとめる。評価表をまとめる。	50 50
	内容	建築系学科の模擬授業実施、評価、意見交換、授業研究、実技(模擬授業の実施)、意見発表、模擬授業に対する評価表の作成			
14回	テーマ	模擬授業(4) 模擬授業の反省	講義、実技 討論・演習	【予習】別途配付資料を読んでおく。【復習】模擬授業を振り返っての成果と課題について自身の考えをレポートにまとめる。課題レポート8を作成する。	15 45
	内容	工業系学科の模擬授業、評価、意見交換、授業研究、実技(模擬授業の実施)、意見発表、模擬授業に対する評価表の作成、課題レポート8「模擬授業を実施しての感想」			
15回	テーマ	資質能力の定着の確認・まとめ	講義、演習	【復習】講義のまとめと反省をし、到達度レポートを入力する。	15 45
	内容	工業科教育法を通じて習得した工業教員に必要な力の確認、総評、到達度レポートフォリオの入力			

科目名	☆理科教育法Ⅱ（2ナ生物）			開講学年	2	講義コード	2812101	区分	選択		
英文表記	Teaching Method of Science Ⅱ			開講期	後期	開講形態	ブレンド授業（対面＋遠隔）	単位数	2		
担当教員	板橋 克美										
研究室	F801					オフィス アワー 随時					
メールアドレス	itahashi@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	理科教育 授業設計(理科) 模擬授業(理科) 学習指導案(理科) 実践的指導力(理科) ア カデミックスキル 論理力 課題解決力 キャリアデザイン										
授業概要	<p>理科教育法では、教科等に関する専門的知識や実践的指導力等の教員として必要な資質・能力とともに、社会人としても必要な人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力などの基礎的・汎用的能力の育成を図る。中学校および高等学校における理科教育においては、理科教育法Ⅰの学習を基礎として、学習指導要領に示された学習内容について自然科学の学問領域と関連させて理解を深め、学習指導案の作成や教材研究、板書計画などの具体的な授業を想定した授業設計について学習する。子供の実態を視野に入れた授業設計の重要性並びに学習内容についての指導上の留意点を理解し、授業における基本的指導技術を身に付ける。各自が作成した学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して、アクティブラーニングの視点に立った授業改善並びに情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し授業設計に活用する。なお、各回のレポートは次回授業時に、模擬授業の指導案等は模擬授業実施時にフィードバックするので、次のレポート課題等に生かすこと。</p>							関連科目			
								<p>基礎科目：理科教育法Ⅰ、教育原論、教育制度論、教職概論、生徒指導論 連携科目：理科教育法Ⅲ、理科教育法Ⅳ、教育方法論、教育心理学 発展科目：事前・事後指導、教職実践演習</p>			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)【各科目に含めることが必要な事項】・・・各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
d	①	授業設計の方法を理解した上で、指導案等を正しい書き方で作成することができる。									
d,f	②	子どもの実態に応じた効果的な学習方法や指導方法を理解した上で、具体的な授業を想定して指導案等を作成することができる。									
f	③	学習指導要領に示された個別の学習内容について、自ら課題を考え、指導上の留意点等を考慮しつつ、模擬授業を実践することができる。									
g	④	模擬授業の振り返りを通して授業設計の向上について考え、今後の自身の教職に対する過ごし方についてレポートで報告することができる。									
	⑤	本科目における「学生の到達度目標」を自己評価することができる。									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	40	20	30	10	0	100		
教科書	中学校学習指導要領解説 理科編 学校図書 文部科学省 97-4-7625-0613-0 中学校理科の教科書 ※出版社はどこでも可										
参考書	授業中に適宜指示する。										

予備知識	学習指導要領(理科)の内容
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>1.レポート:演習①～⑤の5回分+模擬授業の振り返り 5点×5回+15点=40点 2.成果発表:模擬授業 2.5点×4項目+10点=20点 学習指導、説明、発問、板書の4項目および、授業の内容について模擬授業チェックシートを基に評価する。なお、班員のチェックシートも評価の対象に加える。3.作品:指導案(略案)と板書計画 15点×2=30点 指導案と板書計画について、各評価規準を基に評価する。3.ポートフォリオ:学修到達度レポート 10点 【学生の到達度目標】の各項目の達成度とその理由を各200～250文字で入力する。レポートは次回授業時に、成果発表と指導案・板書計画はその場でフィードバックする。</p>

1. 中学校理科および高等学校理科の「教員免許状」の取得を希望する者を対象とする。2. レポートは期限以内に提出すること。3. 授業を受講するための準備として必要な資料作成や終了後のレポート作成に必要な情報収集には、図書館等の蔵書等を活用すること。4. 講義に関する質問・相談等は、オフィスアワーなどを積極的に活用すること。5. レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は不正行為とみなされます。6. 適宜、他大学が提供するオープンな教育リソース(デジタルコンテンツ等)を講義の教材として、使用します。7. 授業計画は予定で、入れ替わることがあります。詳しい予定については授業第1回で説明するので、必ず参加してください。8. オフィスアワーに対面での質問等を希望する場合はF801室にて対応します。teamsやメールでの質問も随時受け付けます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	イントロダクション	対面	【復習】理科教育法IIの内容を理解し、フィードバックされた指導案を再度書き直す。	30
	内容	理科教育法IIに関する内容を概説し、理科教育法Iで提出された各指導案についてフィードバックする。	講義		
2回	テーマ	板書計画	対面	【予習】板書の重要性を調べておく。【復習】授業計画を練り、演習①について考えておく。	30 3 0
	内容	理科授業における板書の重要性と板書計画の作成方法について学び、演習①(板書計画)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
3回	テーマ	発問計画	対面	【予習】発問の重要性について調べておく。【復習】授業計画を練り、演習②について考えておく。	30 3 0
	内容	理科授業における発問の重要性と発問計画の作成方法について学び、演習②(発問計画)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
4回	テーマ	板書・発問計画の作成	オンデマンド	【予習】2・3回の配布資料および板書・発問計画の作成例を読んでおく。【復習】板書・計画を作成し、期限内に提出する。	45 3 0
	内容	2回目と3回目の学習内容の振り返りと補足解説を行い、板書・発問計画を作成する。	演習		
5回	テーマ	単元指導・評価計画	対面	【予習】学習指導要領の学習内容の単元構成と観点別評価を調べておく。【復習】演習③について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	学習指導要領に示された理科の学習内容の単元構成と理科の観点別評価、および単元指導・評価計画の作成方法を学び、演習③(単元指導・評価計画)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
6回	テーマ	ICTを活用した学習方法	対面	【予習】ICT教育やICTを活用した授業について調べておく。【復習】演習④について記述し、次回の講義で提出する。	30 3 0
	内容	ICT教材やタブレット端末を活用した学習方法(AL型授業含む)について学び、演習④(ICTを活用した授業)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
7回	テーマ	個に応じた指導方法	対面	【予習】子どもの実態に応じた指導法について調べておく。【復習】演習⑤について記述し、次回の講義で提出する。	
	内容	子どもの実態に応じた効果的な指導方法、学習形態の工夫等について学び、演習⑤(子どもの実態と理科)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
8回	テーマ	学習指導案(略案)	オンデマンド	【予習】学習指導案(略案)の書き方について調べておく。【復習】学習指導案(略案)を記述し、各担当回の講義で提出する。	45 3 0
	内容	本時の学習指導の流れ及び学習活動・指導上の留意点について学び、学習指導案(略案)と板書計画を作成する。	演習		
9回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(1)	対面	【予習】模擬授業を行う際の留意点、授業改善の視点について調べておく。【復習】模擬授業の実施で気付いた点について整理して、レポートで報告する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を学ぶ。	講義 演習 GD		
10回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(2)	対面	【予習】模擬授業を行う際の留意点、授業改善の視点について調べておく。【復習】模擬授業の実施で気付いた点について整理して、レポートで報告する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を学ぶ。	講義 演習 GD		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(3)	対面	【予習】模擬授業を行う際の留意点、授業改善の視点について調べておく。【復習】模擬授業の実施で気付いた点について整理して、レポートで報告する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通じて授業改善の視点を学ぶ。	講義 演習 GD		
12回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(4)	対面	【予習】模擬授業を行う際の留意点、授業改善の視点について調べておく。【復習】模擬授業の実施で気付いた点について整理して、レポートで報告する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通じて授業改善の視点を学ぶ。	講義 演習 GD		
13回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(5)	対面	【予習】模擬授業を行う際の留意点、授業改善の視点について調べておく。【復習】模擬授業の実施で気付いた点について整理して、レポートで報告する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通じて授業改善の視点を学ぶ。	講義 演習 GD		
14回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(6)	対面	【予習】模擬授業を行う際の留意点、授業改善の視点について調べておく。【復習】模擬授業の実施で気付いた点について整理して、レポートで報告する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通じて授業改善の視点を学ぶ。	講義 演習 GD		
15回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(7)	対面	【予習】模擬授業を行う際の留意点、授業改善の視点について調べておく。【復習】模擬授業の実施で気付いた点について整理して、レポートで報告する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通じて授業改善の視点を学ぶ。	講義 演習 GD		

科目名	☆理科教育法Ⅳ（3ナ微生）			開講学年	3	講義コード	2812301	区分	選択	
英文表記	Teaching Method of Science Ⅳ			開講期	後期	開講形態	ブレンド授業（対面＋遠隔）	単位数	2	
担当教員	板橋 克美									
研究室	F801					オフィス アワー 随時				
メールアドレス	itahashi@ed.sojo-u.ac.jp									
キーワード	理科教育(中学校) 授業設計(中学校理科) 模擬授業(中学校理科) 学習指導案(中学校理科) 実践的指導力(中学校理科) 協働性 論理力 課題解決力 キャリアデザイン									
授業概要	理科教育法では、教科等に関する専門的知識や実践的指導力等の教員として必要な資質・能力とともに、社会人としても必要な人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力などの基礎的・汎用的能力の育成を図る。中学校における理科教育においては、理科教育法Ⅲの学習を基礎として、子供の実態を視野に入れた授業設計について学習を深め、中学校の理科教員として必要な基本的指導技術を身に付ける。学習指導要領に示された第1分野「エネルギー・粒子」、第2分野「生命・地球」について、具体的な授業を想定した授業設計を行い、学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して、アクティブラーニングの視点に立った授業改善並びに情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し授業設計に活用する。なお、各回のレポートは次回授業時に、模擬授業の指導案等は模擬授業実施時にフィードバックするので、次のレポート課題等に生かすこと。						関連科目			
							基礎科目：理科教育法Ⅰ、理科教育法Ⅲ、教育原論、教育制度論、教職概論、生徒指導論、連携科目：理科教育法Ⅱ、教育方法論、教育心理学 発展科目：事前・事後指導、教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校 必修【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校理科）【各科目に含めることが必要な事項】・・・各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）						建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
d,f	①	班で協働し、子どもの実態に応じた効果的な教材を作成することができる。								
d,h	②	子どもの実態に応じた効果的な学習方法や指導方法を理解した上で、具体的な授業を想定して指導案等を作成することができる。								
c,d	③	学習指導要領に示された個別の学習内容について、自ら課題を考え、指導上の留意点等を考慮しつつ、模擬授業を実践することができる。								
g	④	模擬授業の振り返りを通して授業設計の向上について考え、今後の自身の教職に対する過ごし方についてレポートで報告することができる。								
	⑤	本科目における「学生の到達度目標」を自己評価することができる。								
	⑥									
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	25	45	20	10	0	100	
教科書	中学校学習指導要領解説 理科編 学校図書 文部科学省 978-4-7625-0613-0 中学校理科の教科書 ※出版社はどこでも可									
参考書	授業中に適宜指示する。									

予備知識	学習指導要領(中学校理科)の内容
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>1.レポート:演習①と②の2回分+模擬授業の振り返り 5点×2回+15点=25点 2.成果発表 ・班での教材研究 5点×3=15点 教材研究の生徒観、指導観、発表の3項目について評価する。 ・模擬授業 5点×4項目+10点=30点 学習指導、説明、発問、板書の4項目および、授業の内容について模擬授業チェックシートを基に評価する。 なお、班員のチェックシートも評価の対象に加える。 3.作品:指導案(略案)と板書計画 10点×2=20点 指導案と板書計画について、各評価規準を基に評価する。 3.ポートフォリオ:学修到達度レポート 10点 【学生の到達度目標】の各項目の達成度とその理由を各200～250文字で入力する。レポートは次回授業時に、成果発表と指導案・板書計画はその場でフィードバックする。</p>

1. 中学校理科の「教員免許状」の取得を希望する者を対象とする。高等学校理科の「教員免許状」のみ取得を希望する者も履修することを強く薦める。2. レポートは期限以内に提出すること。3. 授業を受講するための準備として必要な資料作成や終了後のレポート作成に必要な情報収集には、図書館等の蔵書等を活用すること。4. 講義に関する質問・相談等は、オフィスアワーなどを積極的に活用すること。5. レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃（ひょうせつ）は不正行為とみなされます。6. 適宜、他大学が提供するオープンな教育リソース（デジタルコンテンツ等）を講義の教材として、使用します。7. 授業計画は予定で、入れ替わることがあります。詳しい予定については授業第1回で説明するので、必ず参加してください。8. オフィスアワーに直面での質問等を希望する場合はF801室にて対応します。teamsやメールでの質問も随時受け付けます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	イントロダクション	対面	【復習】理科教育法Ⅳの内容を理解し、フィードバックされた指導案を再度書き直す。	30
	内容	理科教育法Ⅳに関する内容を概説し、理科教育法Ⅲで提出された各指導案についてフィードバックする。	講義		
2回	テーマ	理科教育と環境教育、減災教育	対面	【予習】環境教育と減災教育について調べておく。【復習】授業計画を練り、演習①について考えておく。	30 3 0
	内容	理科における環境教育や減災教育にかかわる内容及び背景となる学問領域について学び、演習①(理科での環境教育)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
3回	テーマ	ワークシート	対面	【予習】環境教育と減災教育について調べておく。【復習】授業計画を練り、演習②について考えておく。	30 3 0
	内容	理科におけるワークシートの必要性と作成方法について学び、演習②(ワークシート)についてグループ討議を行い、レポートを作成する。	講義 演習 GD		
4回	テーマ	環境・減災教育のワークシートの作成	オンデマンド	【予習】2・3回の配布資料およびワークシートの作成例を読んでおく。【復習】演習①と②を作成し、期限内に提出する。	45 3 0
	内容	2回目と3回目の学習内容の振り返りと補足解説を行い、環境・減災教育のワークシートを作成する。	演習		
5回	テーマ	授業実践のための教材研究の準備①	対面	【予習】教材研究の重要性・方法について復習しておく。【復習】各班で教材研究を進めておく。	30 3 0
	内容	班で授業実践のための教材研究を行い、生徒観と指導観を作成する。	講義 演習 GD		
6回	テーマ	授業実践のための教材研究の準備②	対面	【予習】教材研究の重要性・方法について復習しておく。【復習】各班で教材研究を進めておく。	30 3 0
	内容	班で授業実践のための教材研究を行い、生徒観と指導観を作成する。	講義 演習 GD		
7回	テーマ	授業実践のための教材研究の発表会	対面	【予習】教材研究の発表練習をしておく。【復習】各班の教材研究を見て、自身の教材研究に生かす。	30 3 0
	内容	各班での教材研究の成果、生徒観と指導観を発表する。	講義 演習 GD		
8回	テーマ	学習指導案(略案)	オンデマンド	【予習】学習指導案(略案)の書き方について調べておく。【復習】学習指導案(略案)を記述し、各担当回の講義で提出する。	45 3 0
	内容	本時の学習指導の流れ及び学習活動・指導上の留意点について学び、学習指導案(略案)を作成する。	演習		
9回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(1)	対面	【予習】模擬授業を行う際の留意点、授業改善の視点について調べておく。【復習】模擬授業の実施で気付いた点について整理して、レポートで報告する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を学ぶ。	演習 GD		
10回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(2)	対面	【予習】模擬授業を行う際の留意点、授業改善の視点について調べておく。【復習】模擬授業の実施で気付いた点について整理して、レポートで報告する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を学ぶ。	演習 GD		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(3)	対面	【予習】模擬授業を行う際の留意点、授業改善の視点について調べておく。【復習】模擬授業の実施で気付いた点について整理して、レポートで報告する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通じて授業改善の視点を学ぶ。	演習 GD		
12回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(4)	対面	【予習】模擬授業を行う際の留意点、授業改善の視点について調べておく。【復習】模擬授業の実施で気付いた点について整理して、レポートで報告する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通じて授業改善の視点を学ぶ。	演習 GD		
13回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(5)	対面	【予習】模擬授業を行う際の留意点、授業改善の視点について調べておく。【復習】模擬授業の実施で気付いた点について整理して、レポートで報告する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通じて授業改善の視点を学ぶ。	演習 GD		
14回	テーマ	模擬授業の実施と振り返り(6)	対面	【予習】模擬授業を行う際の留意点、授業改善の視点について調べておく。【復習】模擬授業の実施で気付いた点について整理して、レポートで報告する。	30 3 0
	内容	学習指導案に基づいた模擬授業の実施とその振り返りを通じて授業改善の視点を学ぶ。	演習 GD		
15回	テーマ	理科教育法のまとめ	対面	【予習】理科教育法Ⅰ～Ⅳの講義資料を読んでおく。	45 3 0
	内容	理科教育法のまとめとして、教師の仕事と理科授業および教員採用試験についての講義を通して、教職に対する意欲を高める。	講義		

科目名	☆情報科教育法Ⅱ（3情）				開講学年	3	講義コード	2812501	区分	選択	
英文表記	Education of Information ScienceⅡ				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	元田暁輝（非常勤）										
研究室	教務課前 非常勤講師室						オフィス アワー 授業時間後の非常勤講師室				
メールアドレス	motoda2008@gmail.com										
キーワード	情報 教育 授業 学習指導案 教員 授業計画 教養的知識 コミュニケーション能力 倫理観 自己管理能力										
授業概要	この授業の目標は、学校現場で活躍できる情報科教員の育成である。そのため情報を担当する教員には情報科教育法Ⅱは不可欠である。情報科教育法1で習得した基礎的な技術をもとにさらに発展した学習を行う。模擬授業を多く実践し、高校の現場で実践的な授業スキルを身につけるための個別学習及びグループ学習を行う。教科「情報」の教育目標や内容を十分に理解し、リーダーシップやコミュニケーション能力などの基礎的汎用的な能力をさらに磨き、高度な情報の授業を実施することができる実践的な力を身に付けるための授業を行う。模擬授業のフィードバックは終了後ただちにを行い、課題レポートのフィードバックは、次の授業時に行う。							関連科目			
								連携科目：教育方法論、事前・事後指導			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・高等学校 必修【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(高等学校 情報)【各科目に含めることが必要な事項】・・・各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
b	①	教科「情報」の設置理念を踏まえ、授業の工夫、指導力を身につけることができる。									
d	②	学習指導案を作成し、それに則った授業を展開することができる。									
d	③	様々な授業形態を知り、内容に応じた効果的な授業展開をすることができる。									
d,h	④	情報モラルやセキュリティポリシーを理解し、学校現場で望ましい教育活動をすることができる。									
g	⑤	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	30	60	0	10	0	100		
教科書	情報Next 数研出版 坂村健										
参考書											

予備知識	情報科教育法1を履修し、授業を設計し実践する力を身につけておくこと。
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	1レポート 30点 2 成果発表 60点 ・主に模擬授業を行い、授業の遂行能力や授業のデザイン力、コミュニケーション力、及び、プレゼンテーション力を総合的に評価する。 3 ポートフォリオ(学修到達度評価) 10点

・正規出席は授業開始15分まで、遅刻出席は授業開始30分まで、30分を超えた場合は欠席扱いとする。・レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	情報教育の現状と課題	講義	情報化社会における教師として必要な力について	30
	内容	情報化がもたらす教育現場における様々な課題を検証し、学習指導要領ど のかかわりの中で情報社会における必要な力について学ぶ。			
2回	テーマ	教科「情報」の教員に求められるスキル	講義	情報モラル・マナーについて	30
	内容	授業のみならず、情報モラル・マナーを身につけ日常の学校生活における様 々な問題に対応できるスキルについて学ぶ。			
3回	テーマ	情報社会と問題解決①	演習	模擬授業の準備	60
	内容	問題解決するための授業の基礎知識を身につける。(模擬授業)			
4回	テーマ	情報社会と問題解決②	演習	模擬授業の準備	60
	内容	個人情報や知的財産権の基礎知識と授業展開を学ぶ(模擬授業)			
5回	テーマ	情報社会におけるセキュリティ	講義	情報モラル・情報倫理について	30
	内容	情報の価値が大きくなっている状況を踏まえ、リスクの現状とセキュリティの 大切さについて学ぶ。			
6回	テーマ	学習指導案の立案	演習	模擬授業の準備 授業の評価と反省	60
	内容	学習指導案の意義と目的、そして、具体的な指導案を立案する。			
7回	テーマ	模擬授業	演習	レポートの提出	30
	内容	模擬授業の実施とフィードバック			
8回	テーマ	模擬授業	講義	レポートの提出	30
	内容	模擬授業の実施とフィードバック			
9回	テーマ	情報デザインと問題解決	演習	模擬授業の準備 授業の評価と反省	60
	内容	効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインのあり方と問題解決 について学ぶ。			
10回	テーマ	アルゴリズムとプログラミング①	講義	プログラミング体験	60
	内容	普通教室で使用可能なプログラミング環境を構築して、簡単なプログラミン グを体験する。			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	アルゴリズムとプログラミング②		プログラミング体験	60
	内容	発展的なアルゴリズムとプログラミングを学ぶ。			
12回	テーマ	教科「情報」とプレゼンテーション		プレゼンテーションの準備	60
	内容	プレゼンテーションの意義を学び、プレゼンテーションの具体的なスキルについて学ぶ。			
13回	テーマ	模擬授業		レポートの提出	60
	内容	模擬授業の実施とフィードバック			
14回	テーマ	プレゼンテーションの実施		プレゼンテーションの実施 評価・反省 ポートフォリオ(到達度レポート)の作成	60
	内容	プレゼンテーションの実施とフィードバック			
15回	テーマ	教科「情報」を担当する教師の役割・総括		レポートの提出	30
	内容	人工知能やロボットが発展し、社会に浸透していく中で新しい社会に対応する教育のあり方を推進する教師の役割について学ぶ。			

科目名	☆工芸Ⅰ（3美デ）				開講学年	3	講義コード	2812801	区分	教職課程関連科目		
英文表記	Crafts 1				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	清島 浩徳											
研究室	L-A-216						オフィス アワー 月曜日 5時限目					
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp											
キーワード	工芸 窯芸 紙工芸 木材工芸 伝統工芸 教養的知識 美術史の知識・理解 専門分野における基礎造形力 アカデミックスキル											
授業概要	<p>教職課程関連科目である。工芸とは何かということについて理解し、材料の特性を生かし、意図に応じて自分なりの表現方法を追求して創造的に表すことができるようになる。またそれぞれの工芸品の持つ造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などととらえられるようになることを目指す。工芸を題材とした授業の展開について考え、教具や指導法を工夫し、指導案としてまとめることができるようになる。また、マイクロティーチングを通して、課題を確認し、相互に話し合い活動を持つことで内容を深化させていくようにする。</p>								関連科目			
									美術科教育法Ⅰ、美術科教育法Ⅱ、美術科教育法Ⅲ、美術科教育法Ⅳ、教育実習Ⅰ、教育実習Ⅱ			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校 必修【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】・・・工芸								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	工芸の概要を理解することができるようになる										
	②	伝統工芸についての見方や考え方を深めることができるようになる										
	③	自分の意図と使い手のことを考え、制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようになる										
	④	授業研究を通して課題を明確にすることができるようになる										
	⑤											
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	10	30	30	0	30	100			
教科書	『適宜指導する』											
参考書	『適宜指導する』											

予備知識	伝統工芸 美術科教育法
実務経験のある 教員	清島 浩徳
評価明細 基準	・工芸作品制作への姿勢 ・課題の焦点化、観察力、探究心 ・伝統工芸品への理解 ・自己管理能力

工芸品に用いられる材料の特性を理解し、使い手の心情を組みと他作品作りをするだけでなく、それらの制作について生徒が主体的に取り組むことができるような授業展開、教具の工夫、指導の工夫を考えることができるようになることが大切である。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	工芸とは何か 工芸の概要について理解し、使い手の使用について考えた作品作りに取り 組むようにする	講義		90
2回	テーマ 内容	伝統工芸品について 九州熊本伝統工芸品について学習し、それぞれの良きや特性について理 解する	講義	熊本の伝統工芸品について調べてくる	90
3回	テーマ 内容	窯芸について 窯芸の歴史と制作技法について理解する	講義	生活の中で使用するものを考えてくる	90
4回	テーマ 内容	焼き物制作1 板づくりの技法で生活の中で使用するものを作る	実習	板づくりの技法を復習してくる	90
5回	テーマ 内容	焼き物制作2 素焼きの作品に絵付けをして釉薬を施す	実習	絵付けするデザインを考えてくる	90
6回	テーマ 内容	紙材工芸について 紙工芸の歴史と制作技法について理解する	講義	張り子で制作したい日用品を考えてくる	90
7回	テーマ 内容	張り子制作1 粘土の原型を作り和紙を貼っていく	実習	張り子の技法を復習してくる	90
8回	テーマ 内容	張り子制作2 中字を抜いた後着色し、ニスで仕上げる	実習	彩色するデザインを考えてくる	90
9回	テーマ 内容	木材工芸について 木材工芸の歴史と制作技法について理解する	講義	木材を用いた工芸品の特徴をまとめてくる	90
10回	テーマ 内容	木彫レリーフ制作1 木の平板にデザインし、彫刻刀で彫っていく	実習	木彫のデザインを考えてくる	90

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	木彫レリーフ制作2	実習	彩色する道具を準備してくる	90
	内容	彫り終えたレリーフにやすりをかけ、彩色を施す			
12回	テーマ	工芸題材指導案作成について	講義		90
	内容	工芸題材の指導案作成のポイントについて学習し、導入部分の指導案を作成する			
13回	テーマ	マイクロティーチング及び授業研究1	実習	指導のポイントを押さえた指導案を作成してくる	90
	内容	グループに分かれて、作成した指導案をもとに導入部分までのマイクロティーチングを行い、授業研究をする			
14回	テーマ	マイクロティーチング及び授業研究2	実習	指導のポイントを押さえた指導案を作成してくる	90
	内容	グループに分かれて、作成した指導案をもとに導入部分までのマイクロティーチングを行い、授業研究をする			
15回	テーマ	マイクロティーチング及び授業研究3 自己評価	実習	指導のポイントを押さえた指導案を作成してくる	90
	内容	グループに分かれて、作成した指導案をもとに導入部分までのマイクロティーチングを行い、授業研究をする			

科目名	☆職業指導Ⅱ（3機建宇情）			開講学年	3	講義コード	2813001	区分	選択（教職必修）		
英文表記	Vocational Guidance Ⅱ			開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	吉塚 治生										
研究室	本館付属棟 3階 319 研究室					オフィス アワー 水曜日 5時限目					
メールアドレス	yoshi@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	キャリア教育 進路指導 勤労観 職業観 男女共同参画社会 教養的知識 キャリアデザイン 能力 論理力 自己管理能力										
授業概要	1. 教職科目であり、職業指導やキャリア教育に関する知識や意義を学び、職業選択に必要な基礎的汎用的能力を養い、教員として高校生の職業選択を支援できる指導方法を学ぶ。 2. 生徒が自ら職業を選択し、責任ある社会人として自立するための職業指導の在り方について考え、実践力を養う。 3. 高等学校の職業指導・進路指導・キャリア教育の事例を参考にして、職業指導の指導法を習得する。 4. 各レポートについては実施日の次の授業中に学生へフィードバックする。							関連科目		・連携科目：職業指導Ⅰ	
								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…必修【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(高等学校 工業)【各科目に含めることが必要な事項】…職業指導							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
g,h	①	計画的、組織的な職業指導が人間形成に重要な役割を果たすことを理解し、文章で説明することができる。									
g,h	②	生徒の自己実現が図られる職業指導、キャリア教育の在り方を理解し、文章で説明することができる。									
g,h	③	生徒の進路相談等での教師の役割や基本的姿勢について理解し、文章で説明することができ、さらにグループ討議等で自分の考えを発表できる。									
g,h	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	65	0	25	10	0	100		
教科書	自作テキスト										
参考書	キャリア教育基礎論 実業之日本社 藤田晃之 ISBN9784408416694、 進路指導・キャリア教育論 中川書店 坂本 昭 ISBN978-4-931363-53-3										

予備知識	1.就職や雇用に関する情報に関心を持ち、日頃から新聞やテレビ等のニュースを見るよう心掛ける。2.毎回、講義内容を講義用ノートに記入する。(8回目、15回目に提出する。)
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.講義用ノート「作品」 25点 ・学生の到達度目標1[1-1教養的知識]25点 2.レポート 5点×13回 65点 ・学生の到達度目標2[2-6キャリアデザイン能力]39点分で評価 ・学生の到達度目標3[2-3論理力]26点分で評価 3.ポートフォオ 「到達度ポートフォリオ」 10点 到達目標の達成度を自己評価し、到達度とその理由を評価表に記入して提出する。 ・学生の到達度目標4[3-2自己管理能力]10点分で評価

1.レポートは、必ず期限内に提出すること。2.レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽竊は、不正行為とみなすので、絶対にしないこと。3.毎回講義用ノートに記入し、15回目の講義で提出する。4.ワークシートや配布資料はバインダーに綴じておくこと。5.講義は対面授業で行う。6.不明な点や質問がある場合は、Webclass内のメールを利用して担当教員の指示をうけること。（別に指示する場合はその方法により質問をすること。）7.受講学生はWebclassから講義の流れを開き該当時間の講義の流れを確認する。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	キャリア教育の必要性	講義 演習 S GD	【復習】キャリア教育の必要性や意義について理解しておく。課題①のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	キャリア教育で生徒に何ができるか。キャリア教育の意義について学習する。SGD:「キャリア教育の意義」課題①(キャリア教育の必要性)についてレポートを作成する。			
2回	テーマ	学校教育に求められる課題	講義 演習 S GD	【予習】若者の職業観・勤労観について調べておく。【復習】課題②のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	児童生徒の職業観・勤労観の育成等について学習する。SGD:「職業観・勤労観」課題②(学校から職業への移行の課題)についてレポートを作成する。			
3回	テーマ	キャリア教育で育成する能力	講義 SGD	【予習】企業が求める人材像について調べておく。【復習】ワークシートを繰り返し読んでおくこと。課題③-2のレポートを作成し、提出する。	20 20
	内容	キャリア教育で育成する基礎的・汎用的能力について学習する。SGD:「基礎的・汎用的能力」課題③-1(企業と人材)についてレポートを作成する。			
4回	テーマ	職業観・勤労観の育成	講義 演習 S GD	【予習】企業が求める人材像について調べておく。【復習】課題③-2のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	職業観・勤労観の育成が求められる理由、企業が求める人材像について学習する。SGD:「企業が求める人材」課題③-2(企業が求める人材像)についてレポートを作成する。			
5回	テーマ	子どもたちの進路・発達をめぐる環境の変化	講義 演習 S GD	【予習】最近の高校生の進路状況について調べておく。【復習】課題④のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	高校生の進路指導状況の変化、職業観・勤労観の環境について学習する。SGD:「高校生の求める進路先」課題④(職業とは何か、職業人の生きがい)についてレポート作成する。			
6回	テーマ	高等学校の進路指導	講義 演習 S GD	【予習】進路指導の諸活動について調べておく。【復習】課題⑤のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	高等学校の進路指導の変遷、教育課程上の位置づけについて学習する。SGD:「進路指導上の課題」課題⑤(進路指導の諸活動)についてレポートを作成する。			
7回	テーマ	高等学校におけるキャリア教育	講義 演習 S GD	【予習】高校段階のキャリア発達の特徴を調べておく。【復習】課題⑥のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	高校段階におけるキャリア発達の特徴、高校期における目標等について学習する。SGD:「高校生の生活状況」課題⑥(高校段階におけるキャリア発達の特徴)についてレポートを作成する。			
8回	テーマ	前半のまとめ	講義 演習	【予習】前半の配布資料をよく読んで見直しておく。【復習】前半の講義内容の不確実な点を見直しておく。	30 30
	内容	前半の講義内容についてのもまとめと中間試験を行う。講義用ノートを提出する。			
9回	テーマ	高等学校の進路指導(1)	講義 演習 S GD	【予習】進路指導における教師の役割について調べておく。【復習】課題⑦のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	進路指導部の主な活動内容、教師の役割等について学習する。SGD:「教委の果たすべき役割」課題⑦(教師の役割)についてレポートを作成する。			
10回	テーマ	高等学校の進路指導(2)	講義 演習 S GD	【予習】職業人の生きがいについて調べておく。【復習】課題⑧のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	職業人の生きがい、働く意義について学習する。SGD:「労働者の生きがい」課題⑧(働く意義)についてレポートを作成する。			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	高等学校の進路指導(3)	講義 演習 S GD	【予習】公正な採用選考とは何かについて調べておく。【復習】課題⑨のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	公正な採用選考とは何か、不適正な採用選考等について学習する。SGD:「採用選考における不正」課題⑨(公正な採用選考)についてレポートを作成する。			
12回	テーマ	職業選択に必要なもの	講義 演習	【予習】自分の長所、適性を考えておく。【復習】課題⑩のレポートを作成し、提出する。	30 30
	内容	自己理解、自分の適性理解について学習する。課題⑩(自分の長所、適性)についてレポートを作成する。			
13回	テーマ	職場環境の変化	講義 演習 S GD	【予習】男女共同参画社会について調べておく。【復習】ワークシート、配布資料をよく読み返す。課題⑪のレポートを作成し、提出する。	20 20
	内容	男女共同参画社会、賃金格差等について学習する。SGD:「男女平等」課題⑪(賃金格差)についてレポートを作成する。			
14回	テーマ	新しい職業指導の形態	講義 演習	【予習】科目「産業社会と人間」について調べておく。【復習】ワークシート、配布資料をよく読み返す。課題⑫のレポートを作成し、提出する。	20 20
	内容	科目「産業社会と人間」の目標、内容について学習する。課題⑫(「産業社会と人間」の目標)についてレポートを作成する。			
15回	テーマ	後半のまとめ 最終確認	講義 演習	【予習】後半の講義資料をよく読んでおくこと。【復習】後半の講義内容で解らなかった点について確認しておく。ポートフォリオ(到達度レポート)の作成。	40
	内容	後半の講義内容についてのまとめと中間試験を行う。講義用ノート提出する。総評、出席確認、「到達度ポートフォリオ」の作成。			

科目名	☆事前・事後指導（3機建宇情美デ）				開講学年	3	講義コード	2813101	区分	選択	
英文表記	Pre-Post Guidance				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	1	
担当教員	原北 祥悟										
研究室	本館付属棟311						オフィス アワー 昼休みの時間（本館付属棟311）				
メールアドレス	harakita@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	教育実習の意義 教育実習上の課題 教育実習の心構え										
授業概要	事前・事後指導は、将来教員を目指す学生に対し、教育実習に必要な教科指導や生徒指導等の既習内容のまとめを行い、円滑に教育実習が行える資質・能力を育成する科目である。教育実習は、大学での教職科目や専門教科等で学んだ知識・技能を学校現場で検証する機会であり、また、授業、学級(HR)活動等を通して、先輩教師、生徒達から多くのものを学び、教職の魅力を実感し、その後の大学生活を改善し、理想の教師へ向けて必死に努力する学生が増えるなど、教職を目指す学生に大きな影響を与えるものである。このような教育実習の意義を考慮し、事前指導においては、充実した教育実習を行えるよう教科指導・生徒指導等のあり方についての講義・演習等を通して実践的指導力、人間関係形成・社会形成能力等を育成する。また、事後指導においては、実習で経験した課題解決に向けて計画的に取り組んでいける自己管理能力や課題対応力等を培う。課題レポートのフィードバックについては、提出期日後の初回の授業で行う。							関連科目			
								1 基礎科目:教職に関する1年～2年までに履修した全科目、教科に関する科目(工業・情報・理科・芸術) 2 連携科目:教科教育法(工業・情報・理科・美術)、道徳教育指導論 3 発展科目:教育実習、教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教育実践に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・教育実習							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
h,g	①	教育実習の意義を理解するとともに、教育実習に係る自己課題を明確にし課題解決へ向けて取り組むことができる。									
d	②	指導過程・教材・発問・板書等を工夫し、教科・科目に係る模擬授業を適切に行うことができる。									
h	③	授業内容に関する課題に対して調査研究し、適切な文章で報告(レポート)することができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	40	0	10	0	100		
教科書	事前・事後指導に関する自作教材										
参考書	中学校学習指導要領解説理科編・美術編 文部科学省 高等学校学習指導要領解説工業編・情報編・理数編・美術編 文部科学省										

予備知識	1～3年まで学修した教職科目(教職概論、教育制度論、教育課程・特別活動論、教科教育法、道徳教育指導論、生徒指導論等)及び専門科目に係る知識・技能
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.レポート 授業内容及び自己課題に関する課題レポート 50点 2.成果発表(口頭・板書・実技等) ①学級経営案作成 10点 ②学習指導案作成 10点 ③模擬授業 20点 3 ポートフォリオ 10点

1.将来、教職を目指す学生は必ず受講し、意欲的に授業に参加すること。2.対面授業においては、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3.授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4.対面授業においては、遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5.授業内容の予習・復習きちんと行うこと。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	オリエンテーション・教育実習の意義 事前・事後指導に係るシラバス及び履修上の注意について説明する。教育実習の意義や目的、教育実習の内容（講話・観察・実習）について学ぶ。	講義	【予習】スライド教材を読み込んでおく。【復習】教育実習の意義について復習しておく。課題レポート作成	30 60
2回	テーマ 内容	教育実習校からの指摘事項や先輩の教育実習後の感想等から教育実習上のこれまでの課題を把握し課題への対応を検討する。	講義	【予習】スライド教材を読み込んでおく。【復習】教育実習上の課題と対応について復習しておく。課題レポート作成	30 60
3回	テーマ 内容	教育実習において心がける事柄、服務、学習指導、生徒指導、学級経営等の在り方について学ぶ。	講義	【予習】スライド教材を読み込んでおく。【復習】教育実習に係る自己の課題解決策をまとめ提出する。	30 60
4回	テーマ 内容	教育実習上の留意事項 服装・礼儀・言葉遣い等の礼儀作法や報告・連絡・相談等の社会人としての基本的姿勢について学ぶ。	講義	【予習】スライド教材を読み込んでおく。【復習】教育実習上の心構えについて復習しておく。課題レポート作成	30 60
5回	テーマ 内容	学級指導の在り方 SHR(朝の会・帰りの会)での学級指導の在り方(連絡・健康観察・出欠確認・諸連絡・教室管理・講話等)について学ぶ。	講義	【予習】スライド教材読み込んでおく。【復習】教育実習における留意点についてまとめ提出する。	30 60
6回	テーマ 内容	生徒指導の意義と在り方 生徒指導の意義及び生徒指導を充実させるための指導方法等について学ぶ。	講義	【予習】スライド教材を読み込んでおく。【復習】生徒指導の在り方について復習しておく。課題レポート作成	30 60
7回	テーマ 内容	体罰等 体罰の法的禁止とともに体罰に係る3つの法的責任について学ぶ。また懲戒と体罰の違いや適切な生徒指導の在り方について検討する。	講義	【予習】スライド教材を読み込んでおく。【復習】体罰等について復習しておく。課題レポート作成	30 60
8回	テーマ 内容	進路指導の意義と在り方 進路指導の意義と進路指導を充実させるための指導方法等について学ぶ。	講義	【予習】スライド教材(問題行動事例)を読み込んでおく。【復習】進路指導の意義と在り方について復習する。課題レポート作成	30 60
9回	テーマ 内容	学校図書館教育 学校図書館の目的や読書センター、学習センター、情報センターとしての役割、さらに読書活動の意義や活動内容について学ぶ。	講義	【予習】スライド教材を読み込んでおく。【復習】学校図書館教育について調査し、レポートを提出する。	30 60
10回	テーマ 内容	学級経営と学級経営案の作成 学級経営の在り方や学級経営案との関係、学級経営案の作成方法等について学ぶ。	講義 演習	【予習】既習の学習指導案作成方法について復習しておく。【復習】学級経営案を作成し提出する。	20 10 0

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学習指導案の作成	講義 演習	【予習】模擬授業のための教材作成の準備をする。【復習】学習指導案を作成し提出する。	20 10 0
	内容	教科教育法等で習得した知識・技能を活かし教科・科目の学習指導案及び教材の作成に取り組む。			
12回	テーマ	模擬授業と授業研究①	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をする。【復習】模擬授業用の教材を完成する。	30 10 0
	内容	作成した学習指導案と教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
13回	テーマ	模擬授業と授業研究②	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をする。【復習】模擬授業の反省をまとめ提出する。	30 90
	内容	作成した学習指導案と教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
14回	テーマ	教育実習の反省1	講義 演習	【予習】教育実習の反省をまとめておく。【復習】教育実習の反省に基づく改善策をまとめ提出する。ポートフォリオ評価(到達度レポート)をまとめる。	30 60
	内容	教育実習における授業(教材研究、学習指導案作成、研究授業等)の課題を検討し、改善を図る。			
15回	テーマ	教育実習の反省2	講義 演習	【復習】教育実習の反省に基づく改善策をまとめる。ポートフォリオ(到達度レポート)の入力	60
	内容	教育実習における生徒指導(生徒の関わり、掃除・給食・安全面の指導、学級経営等)やサービス(出欠状況、挨拶、言葉遣い、服装等)の課題を検討し、改善を図る。			

科目名	☆事前・事後指導（3ナ微生）				開講学年	3	講義コード	2813102	区分	選択	
英文表記	Pre-Post Guidance				開講期	後期	開講形態	ブレンド授業（対面＋遠隔）	単位数	1	
担当教員	木村 勝美										
研究室	『本館3階303』						オフィス アワー 昼休みの時間（本館3階303）				
メールアドレス	kimura77@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	教育実習の意義－教養的知識 教育実習上の課題－課題解決力 教育実習上の基本的姿勢－教養的知識 生徒指導の意義と在り方－論理力 体罰の法的禁止－教養的知識 進路指導の意義と在り方－論理力 学校図書館の目的－教養的知識 学級経営の在り方－自己管理能力 学級指導の在り方－自己管理能力										
授業概要	事前・事後指導は、将来教員を目指す学生に対し、教育実習に必要な教科指導や生徒指導等の既習内容のまとめを行い、円滑に教育実習が行える資質・能力を育成する科目である。教育実習は、大学での教職科目や専門教科等で学んだ知識・技能を学校現場で検証する機会であり、また、授業、学級(HR)活動等を通して、先輩教師、生徒達から多くのものを学び、教職の魅力を実感し、その後の大学生活を改善し、理想の教師へ向けて必死に努力する学生が増えるなど、教職を目指す学生に大きな影響を与えるものである。このような教育実習の意義を考慮し、事前指導においては、充実した教育実習を行えるよう教科指導・生徒指導等のあり方についての講義・演習等を通して実践的指導力、人間関係形成・社会形成能力等を育成する。また、事後指導においては、実習で経験した課題解決に向けて計画的に取り組んでいける自己管理能力や課題対応力等を培う。課題レポートのフィードバックについては、次回の授業で模範解答等を示しながら解説する。							関連科目			
								1 基礎科目:教職に関する1年～2年までに履修した全科目、教科に関する科目(工業・情報・理科・芸術) 2 連携科目:教科教育法(工業・情報・理科・美術)、道徳教育指導論 3 発展科目:教育実習、教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教育実践に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・教育実習							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
h,g	①	教育実習の意義を理解するとともに、教育実習に係る自己課題を明確にし課題解決へ向けて取り組むことができる。									
d	②	指導過程・教材・発問・板書等を工夫し、教科・科目として最も適切と考えられる学習指導案をグループで作成し発表することができる。									
h	③	授業内容に関する課題に対して調査研究し、適切な文章で報告(レポート)することができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	40	0	10	0	100		
教科書	事前・事後指導に関する自作教材										
参考書	中学校学習指導要領解説総則編 東山書房 文部科学省 978-4-8278-1559-7 高等学校学習指導要領解説総則編 東洋館出版社 文部科学省 978-4-491-03639-7										

予備知識	1～3年まで学修した教職科目(教職概論、教育制度論、教育課程・特別活動論、教科教育法、道徳教育指導論、生徒指導論等)及び専門科目に係る知識・技能
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>・学生の到達度目標①【3-2自己管理能力】:20点 ⇒ 自己の教育実習に係る課題の解決へ取り組むことができる。・学生の到達度目標②【2-4アカデミックスキル】:20点 ⇒ 自己の専門科目に係る模擬授業を適切に実施できる。・学生の到達度目標③【1-1教養的知識】50点 ⇒ 各活動・学校行事に関する学習内容を調査し文章で報告できる。・学生の到達度目標④【自己管理能力】:10点 ⇒ 設定された「学生の到達度目標」を達成できたか客観的に評価できる。</p>

1.将来、教職を目指す学生は必ず受講し、意欲的に授業に参加すること。2.対面授業においては、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3.授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4.対面授業においては、遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5.授業内容の予習・復習きちんと行うこと。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション・教育実習の意義	遠隔授業	【予習】スライド教材2を読み込んでおく。【復習】教育実習の意義について復習しておく。課題レポート作成	30 60
	内容	事前・事後指導に係るシラバス及び履修上の注意について説明する。教育実習の意義や目的、教育実習の内容（講話・観察・実習）について学ぶ。	講義		
2回	テーマ	教育実習上の課題と対応	対面授業	【予習】スライド教材3を読み込んでおく。【復習】教育実習上の課題と対応について復習しておく。課題レポート作成	30 60
	内容	教育実習校からの指摘事項や先輩の教育実習後の感想等から教育実習上のこれまでの課題を把握し課題への対応を検討する。	講義		
3回	テーマ	教育実習上の心構え	遠隔授業	【予習】スライド教材4を読み込んでおく。【復習】教育実習に係る自己の課題解決策をまとめ提出する。	30 60
	内容	教育実習において心がける事柄、服務、学習指導、生徒指導、学級経営等の在り方について学ぶ。	講義		
4回	テーマ	教育実習上の留意事項	遠隔授業	【予習】スライド教材5を読み込んでおく。【復習】教育実習上の心構えについて復習しておく。課題レポート作成	30 60
	内容	服装・礼儀・言葉遣い等の礼儀作法や報告・連絡・相談等の社会人としての基本的姿勢について学ぶ。	講義		
5回	テーマ	学級指導の在り方	対面授業	【予習】スライド教材6読み込んでおく。【復習】教育実習における留意点についてまとめ提出する。	30 60
	内容	SHR(朝の会・帰りの会)での学級指導の在り方(連絡・健康観察・出欠確認・諸連絡・教室管理・講話等)について学ぶ。	講義・演習		
6回	テーマ	生徒指導の意義と在り方	対面授業	【予習】スライド教材7を読み込んでおく。【復習】生徒指導の在り方について復習しておく。課題レポート作成	30 60
	内容	生徒指導の意義及び生徒指導を充実させるための指導方法等について学ぶ。	講義・演習		
7回	テーマ	体罰等	遠隔授業	【予習】スライド教材8を読み込んでおく。【復習】体罰等について復習しておく。課題レポート作成	30 60
	内容	体罰の法的禁止とともに体罰に係る3つの法的責任について学ぶ。また懲戒と体罰の違いや適切な生徒指導の在り方について検討する。	講義		
8回	テーマ	進路指導の意義と在り方	対面授業	【予習】スライド教材9(問題行動事例)を読み込んでおく。【復習】進路指導の意義と在り方について復習する。課題レポート作成	30 60
	内容	進路指導の意義と進路指導を充実させるための指導方法等について学ぶ。	講義		
9回	テーマ	学校図書館教育	遠隔授業	【予習】スライド教材10を読み込んでおく。【復習】学校図書館教育について調査し、レポートを提出する。	30 60
	内容	学校図書館の目的や読書センター、学習センター、情報センターとしての役割、さらに読書活動の意義や活動内容について学ぶ。	講義		
10回	テーマ	学級経営と学級経営案の作成	対面授業	【予習】既習の学習指導案作成方法について復習しておく。【復習】学級経営案を作成し提出する。	20 10 0
	内容	学級経営の在り方や学級経営案との関係、学級経営案の作成方法等について学ぶ。	講義・演習		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学習指導案の作成①	遠隔授業 講義・演習	【予習】模擬授業のための教材作成の準備をする。【復習】学習指導案を作成し提出する。	20 10 0
	内容	教科教育法等で習得した知識・技能を活かし教科・科目の学習指導案及び教材の作成に取り組む。			
12回	テーマ	学習指導案の作成②	対面授業 講義・演習	【予習】模擬授業の準備をする。【復習】模擬授業用の教材を完成する。	30 10 0
	内容	教科教育法等で習得した知識・技能を活かし教科・科目の学習指導案及び教材の作成に取り組む。			
13回	テーマ	グループ内での学習指導案の分析・発表	遠隔授業 講義・演習	【予習】模擬授業の準備をする。【復習】模擬授業の反省をまとめ提出する。	30 90
	内容	各学生が作成した学習指導案をグループ内で討議・分析し発表する。			
14回	テーマ	教育実習の反省1	対面授業 講義・演習	【予習】教育実習の反省をまとめておく。【復習】教育実習の反省に基づく改善策をまとめ提出する。ポートフォリオ評価(到達度レポート)をまとめる。	30 60
	内容	教育実習における授業(教材研究、学習指導案作成、研究授業等)の課題を検討し、改善を図る。			
15回	テーマ	教育実習の反省2	対面授業 講義・演習	【復習】教育実習の反省に基づく改善策をまとめる。ポートフォリオ(到達度レポート)の入力	60
	内容	教育実習における生徒指導(生徒の関わり、掃除・給食・安全面の指導、学級経営等)やサービス(出欠状況、挨拶、言葉遣い、服装等)の課題を検討し、改善を図る。			

科目名	☆事前・事後指導（4機建宇情美デ）				開講学年	3	講義コード	2813103	区分	選択	
英文表記	Pre-Post Guidance				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	1	
担当教員	原北 祥悟										
研究室	本館付属棟311						オフィス アワー 昼休みの時間（本館付属棟311）				
メールアドレス	harakita@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	教育実習の意義 教育実習上の課題 教育実習の心構え										
授業概要	事前・事後指導は、将来教員を目指す学生に対し、教育実習に必要な教科指導や生徒指導等の既習内容のまとめを行い、円滑に教育実習が行える資質・能力を育成する科目である。教育実習は、大学での教職科目や専門教科等で学んだ知識・技能を学校現場で検証する機会であり、また、授業、学級(HR)活動等を通して、先輩教師、生徒達から多くのものを学び、教職の魅力を実感し、その後の大学生活を改善し、理想の教師へ向けて必死に努力する学生が増えるなど、教職を目指す学生に大きな影響を与えるものである。このような教育実習の意義を考慮し、事前指導においては、充実した教育実習を行えるよう教科指導・生徒指導等のあり方についての講義・演習等を通して実践的指導力、人間関係形成・社会形成能力等を育成する。また、事後指導においては、実習で経験した課題解決に向けて計画的に取り組んでいける自己管理能力や課題対応力等を培う。課題レポートのフィードバックについては、提出期日後の初回の授業で行う。							関連科目			
								1 基礎科目:教職に関する1年～2年までに履修した全科目、教科に関する科目(工業・情報・理科・芸術) 2 連携科目:教科教育法(工業・情報・理科・美術)、道徳教育指導論 3 発展科目:教育実習、教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教育実践に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・教育実習							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
h,g	①	教育実習の意義を理解するとともに、教育実習に係る自己課題を明確にし課題解決へ向けて取り組むことができる。									
d	②	指導過程・教材・発問・板書等を工夫し、教科・科目に係る模擬授業を適切に行うことができる。									
h	③	授業内容に関する課題に対して調査研究し、適切な文章で報告(レポート)することができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	40	0	10	0	100		
教科書	事前・事後指導に関する自作教材										
参考書	中学校学習指導要領解説理科編・美術編 文部科学省 高等学校学習指導要領解説工業編・情報編・理数編・美術編 文部科学省										

予備知識	1～3年まで学修した教職科目(教職概論、教育制度論、教育課程・特別活動論、教科教育法、道徳教育指導論、生徒指導論等)及び専門科目に係る知識・技能
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.レポート 授業内容及び自己課題に関する課題レポート 50点 2.成果発表(口頭・板書・実技等) ①学級経営案作成 10点 ②学習指導案作成 10点 ③模擬授業 20点 3 ポートフォリオ 10点

1.将来、教職を目指す学生は必ず受講し、意欲的に授業に参加すること。2.対面授業においては、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3.授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4.対面授業においては、遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5.授業内容の予習・復習きちんと行うこと。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃（ひょうせつ）は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	オリエンテーション・教育実習の意義 事前・事後指導に係るシラバス及び履修上の注意について説明する。教育実習の意義や目的、教育実習の内容（講話・観察・実習）について学ぶ。	講義	【予習】スライド教材を読み込んでおく。【復習】教育実習の意義について復習しておく。課題レポート作成	30 60
2回	テーマ 内容	教育実習校からの指摘事項や先輩の教育実習後の感想等から教育実習上のこれまでの課題を把握し課題への対応を検討する。	講義	【予習】スライド教材を読み込んでおく。【復習】教育実習上の課題と対応について復習しておく。課題レポート作成	30 60
3回	テーマ 内容	教育実習において心がける事柄、服務、学習指導、生徒指導、学級経営等の在り方について学ぶ。	講義	【予習】スライド教材を読み込んでおく。【復習】教育実習に係る自己の課題解決策をまとめ提出する。	30 60
4回	テーマ 内容	教育実習上の留意事項 服装・礼儀・言葉遣い等の礼儀作法や報告・連絡・相談等の社会人としての基本的姿勢について学ぶ。	講義	【予習】スライド教材を読み込んでおく。【復習】教育実習上の心構えについて復習しておく。課題レポート作成	30 60
5回	テーマ 内容	学級指導の在り方 SHR(朝の会・帰りの会)での学級指導の在り方(連絡・健康観察・出欠確認・諸連絡・教室管理・講話等)について学ぶ。	講義	【予習】スライド教材読み込んでおく。【復習】教育実習における留意点についてまとめ提出する。	30 60
6回	テーマ 内容	生徒指導の意義と在り方 生徒指導の意義及び生徒指導を充実させるための指導方法等について学ぶ。	講義	【予習】スライド教材を読み込んでおく。【復習】生徒指導の在り方について復習しておく。課題レポート作成	30 60
7回	テーマ 内容	体罰等 体罰の法的禁止とともに体罰に係る3つの法的責任について学ぶ。また懲戒と体罰の違いや適切な生徒指導の在り方について検討する。	講義	【予習】スライド教材を読み込んでおく。【復習】体罰等について復習しておく。課題レポート作成	30 60
8回	テーマ 内容	進路指導の意義と在り方 進路指導の意義と進路指導を充実させるための指導方法等について学ぶ。	講義	【予習】スライド教材(問題行動事例)を読み込んでおく。【復習】進路指導の意義と在り方について復習する。課題レポート作成	30 60
9回	テーマ 内容	学校図書館教育 学校図書館の目的や読書センター、学習センター、情報センターとしての役割、さらに読書活動の意義や活動内容について学ぶ。	講義	【予習】スライド教材を読み込んでおく。【復習】学校図書館教育について調査し、レポートを提出する。	30 60
10回	テーマ 内容	学級経営と学級経営案の作成 学級経営の在り方や学級経営案との関係、学級経営案の作成方法等について学ぶ。	講義 演習	【予習】既習の学習指導案作成方法について復習しておく。【復習】学級経営案を作成し提出する。	20 10 0

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学習指導案の作成	講義 演習	【予習】模擬授業のための教材作成の準備をする。【復習】学習指導案を作成し提出する。	20 10 0
	内容	教科教育法等で習得した知識・技能を活かし教科・科目の学習指導案及び教材の作成に取り組む。			
12回	テーマ	模擬授業と授業研究①	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をする。【復習】模擬授業用の教材を完成する。	30 10 0
	内容	作成した学習指導案と教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
13回	テーマ	模擬授業と授業研究②	講義 演習	【予習】模擬授業の準備をする。【復習】模擬授業の反省をまとめ提出する。	30 90
	内容	作成した学習指導案と教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
14回	テーマ	教育実習の反省1	講義 演習	【予習】教育実習の反省をまとめておく。【復習】教育実習の反省に基づく改善策をまとめ提出する。ポートフォリオ評価(到達度レポート)をまとめる。	30 60
	内容	教育実習における授業(教材研究、学習指導案作成、研究授業等)の課題を検討し、改善を図る。			
15回	テーマ	教育実習の反省2	講義 演習	【復習】教育実習の反省に基づく改善策をまとめる。ポートフォリオ(到達度レポート)の入力	60
	内容	教育実習における生徒指導(生徒の関わり、掃除・給食・安全面の指導、学級経営等)や服務(出欠状況、挨拶、言葉遣い、服装等)の課題を検討し、改善を図る。			

科目名	☆事前・事後指導（4ナ微生）				開講学年	3	講義コード	2813104	区分	選択	
英文表記	Pre-Post Guidance				開講期	後期	開講形態	ブレンド授業（対面＋遠隔）	単位数	1	
担当教員	木村 勝美										
研究室	『本館3階303』						オフィス アワー 昼休みの時間（本館3階303）				
メールアドレス	kimura77@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	教育実習の意義－教養的知識 教育実習上の課題－課題解決力 教育実習上の基本的姿勢－教養的知識 生徒指導の意義と在り方－論理力 体罰の法的禁止－教養的知識 進路指導の意義と在り方－論理力 学校図書館の目的－教養的知識 学級経営の在り方－自己管理能力 学級指導の在り方－自己管理能力										
授業概要	事前・事後指導は、将来教員を目指す学生に対し、教育実習に必要な教科指導や生徒指導等の既習内容のまとめを行い、円滑に教育実習が行える資質・能力を育成する科目である。教育実習は、大学での教職科目や専門教科等で学んだ知識・技能を学校現場で検証する機会であり、また、授業、学級(HR)活動等を通して、先輩教師、生徒達から多くのものを学び、教職の魅力を実感し、その後の大学生活を改善し、理想の教師へ向けて必死に努力する学生が増えるなど、教職を目指す学生に大きな影響を与えるものである。このような教育実習の意義を考慮し、事前指導においては、充実した教育実習を行えるよう教科指導・生徒指導等のあり方についての講義・演習等を通して実践的指導力、人間関係形成・社会形成能力等を育成する。また、事後指導においては、実習で経験した課題解決に向けて計画的に取り組んでいける自己管理能力や課題対応力等を培う。課題レポートのフィードバックについては、次回の授業で模範解答等を示しながら解説する。							関連科目			
								1 基礎科目:教職に関する1年～2年までに履修した全科目、教科に関する科目(工業・情報・理科・芸術) 2 連携科目:教科教育法(工業・情報・理科・美術)、道徳教育指導論 3 発展科目:教育実習、教職実践演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教育実践に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・教育実習							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
h,g	①	教育実習の意義を理解するとともに、教育実習に係る自己課題を明確にし課題解決へ向けて取り組むことができる。									
d	②	指導過程・教材・発問・板書等を工夫し、教科・科目として最も適切と考えられる学習指導案をグループで作成し発表することができる。									
h	③	授業内容に関する課題に対して調査研究し、適切な文章で報告(レポート)することができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	40	0	10	0	100		
教科書	事前・事後指導に関する自作教材										
参考書	中学校学習指導要領解説総則編 東山書房 文部科学省 978-4-8278-1559-7 高等学校学習指導要領解説総則編 東洋館出版社 文部科学省 978-4-491-03639-7										

予備知識	1～3年まで学修した教職科目(教職概論、教育制度論、教育課程・特別活動論、教科教育法、道徳教育指導論、生徒指導論等)及び専門科目に係る知識・技能
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>・学生の到達度目標①【3-2自己管理能力】:20点 ⇒ 自己の教育実習に係る課題の解決へ取り組むことができる。・学生の到達度目標②【2-4アカデミックスキル】:20点 ⇒ 自己の専門科目に係る模擬授業を適切に実施できる。・学生の到達度目標③【1-1教養的知識】50点 ⇒ 各活動・学校行事に関する学習内容を調査し文章で報告できる。・学生の到達度目標④【自己管理能力】:10点 ⇒ 設定された「学生の到達度目標」を達成できたか客観的に評価できる。</p>

1.将来、教職を目指す学生は必ず受講し、意欲的に授業に参加すること。2.対面授業においては、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3.授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4.対面授業においては、遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5.授業内容の予習・復習きちんと行うこと。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃（ひょうせつ）は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション・教育実習の意義	遠隔授業	【予習】スライド教材2を読み込んでおく。【復習】教育実習の意義について復習しておく。課題レポート作成	30 60
	内容	事前・事後指導に係るシラバス及び履修上の注意について説明する。教育実習の意義や目的、教育実習の内容（講話・観察・実習）について学ぶ。	講義		
2回	テーマ	教育実習上の課題と対応	対面授業	【予習】スライド教材3を読み込んでおく。【復習】教育実習上の課題と対応について復習しておく。課題レポート作成	30 60
	内容	教育実習校からの指摘事項や先輩の教育実習後の感想等から教育実習上のこれまでの課題を把握し課題への対応を検討する。	講義		
3回	テーマ	教育実習上の心構え	遠隔授業	【予習】スライド教材4を読み込んでおく。【復習】教育実習に係る自己の課題解決策をまとめ提出する。	30 60
	内容	教育実習において心がける事柄、服務、学習指導、生徒指導、学級経営等の在り方について学ぶ。	講義		
4回	テーマ	教育実習上の留意事項	遠隔授業	【予習】スライド教材5を読み込んでおく。【復習】教育実習上の心構えについて復習しておく。課題レポート作成	30 60
	内容	服装・礼儀・言葉遣い等の礼儀作法や報告・連絡・相談等の社会人としての基本的姿勢について学ぶ。	講義		
5回	テーマ	学級指導の在り方	対面授業	【予習】スライド教材6読み込んでおく。【復習】教育実習における留意点についてまとめ提出する。	30 60
	内容	SHR(朝の会・帰りの会)での学級指導の在り方(連絡・健康観察・出欠確認・諸連絡・教室管理・講話等)について学ぶ。	講義・演習		
6回	テーマ	生徒指導の意義と在り方	対面授業	【予習】スライド教材7を読み込んでおく。【復習】生徒指導の在り方について復習しておく。課題レポート作成	30 60
	内容	生徒指導の意義及び生徒指導を充実させるための指導方法等について学ぶ。	講義・演習		
7回	テーマ	体罰等	遠隔授業	【予習】スライド教材8を読み込んでおく。【復習】体罰等について復習しておく。課題レポート作成	30 60
	内容	体罰の法的禁止とともに体罰に係る3つの法的責任について学ぶ。また懲戒と体罰の違いや適切な生徒指導の在り方について検討する。	講義		
8回	テーマ	進路指導の意義と在り方	対面授業	【予習】スライド教材9(問題行動事例)を読み込んでおく。【復習】進路指導の意義と在り方について復習する。課題レポート作成	30 60
	内容	進路指導の意義と進路指導を充実させるための指導方法等について学ぶ。	講義		
9回	テーマ	学校図書館教育	遠隔授業	【予習】スライド教材10を読み込んでおく。【復習】学校図書館教育について調査し、レポートを提出する。	30 60
	内容	学校図書館の目的や読書センター、学習センター、情報センターとしての役割、さらに読書活動の意義や活動内容について学ぶ。	講義		
10回	テーマ	学級経営と学級経営案の作成	対面授業	【予習】既習の学習指導案作成方法について復習しておく。【復習】学級経営案を作成し提出する。	20 10 0
	内容	学級経営の在り方や学級経営案との関係、学級経営案の作成方法等について学ぶ。	講義・演習		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学習指導案の作成①	遠隔授業 ----- 講義・演習	【予習】模擬授業のための教材作成の準備をする。【復習】学習指導案を作成し提出する。	20 10 0
	内容	教科教育法等で習得した知識・技能を活かし教科・科目の学習指導案及び教材の作成に取り組む。			
12回	テーマ	学習指導案の作成②	対面授業 ----- 講義・演習	【予習】模擬授業の準備をする。【復習】模擬授業用の教材を完成する。	30 10 0
	内容	教科教育法等で習得した知識・技能を活かし教科・科目の学習指導案及び教材の作成に取り組む。			
13回	テーマ	グループ内での学習指導案の分析・発表	遠隔授業 ----- 講義・演習	【予習】模擬授業の準備をする。【復習】模擬授業の反省をまとめ提出する。	30 90
	内容	各学生が作成した学習指導案をグループ内で討議・分析し発表する。			
14回	テーマ	教育実習の反省1	対面授業 ----- 講義・演習	【予習】教育実習の反省をまとめておく。【復習】教育実習の反省に基づく改善策をまとめ提出する。ポートフォリオ評価(到達度レポート)をまとめる。	30 60
	内容	教育実習における授業(教材研究、学習指導案作成、研究授業等)の課題を検討し、改善を図る。			
15回	テーマ	教育実習の反省2	対面授業 ----- 講義・演習	【復習】教育実習の反省に基づく改善策をまとめる。ポートフォリオ(到達度レポート)の入力	60
	内容	教育実習における生徒指導(生徒の関わり、掃除・給食・安全面の指導、学級経営等)やサービス(出欠状況、挨拶、言葉遣い、服装等)の課題を検討し、改善を図る。			

科目名	☆教職実践演習A（4ナ情生）				開講学年	4	講義コード	2813401	区分	選択	
英文表記	Practical Training for Teaching Profession				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	山本 康詞（非常勤） 吉塚 治生 原北 祥悟 岩本 晃代 中尾 千智 木村 勝美 西澤 頼孝 板橋 克美 藤本 元啓										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 昼休み（本館附属棟3階319）				
メールアドレス	y a m a -s g y @e d .s o j o -u .a c .j p										
キーワード	教育課題への対応 教職員としての基本的資質 学級経営の実践 子どもや保護者との信頼関係 キャリア教育 論理力 アカデミックスキル コミュニケーション能力 自己管理能力										
授業概要	教職実践演習は、大学4年間で学んだ教職に関する知識と教育実習等で得た教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の再確認を行い、不足している知識や技能等を補い、教員としてその職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質・能力の定着を図る科目である。授業では、教員になる上での自己の課題を認識させ、その解決に取り組む中で研究や修養の必要性を自覚させ、自己理解・自己管理能力を育成する。主な授業の形態として、講義、討論、ロールプレイング、事例研究、発表活動等を組み合わせ、教育現場を想定した実践的活動を行うとともに、学校訪問、現職教員による講話を取り入れ、課題対応能力、人間関係・社会形成能力、キャリアプランニング能力等を培う。各課題レポート等のフィードバックについては担当教員より指示をする。							関連科目			
								基礎科目：教職に関する科目、教科に関する科目、文部科学省令で定める科目、教育実習等			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教育実践に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・教職実践演習							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
g	①	自己の教育課題を授業や自主的学修を通して解決することができる。									
d	②	学習指導の基本的事項（専門的知識・技能、指導方法、教材作成等）を確実に身に付け、適切な模擬授業を行うことができる。									
f,j	③	ディベートやグループディスカッション等に主体的に参加し、意欲的に意見交換・発表をすることができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	65	25	0	10	0	100		
教科書	教職実践演習に関する自作教材 外部講師作成資料										
参考書	教職実践演習 大阪教育出版 梨木昭平 978-4-86429-217-7C3037										

・大学の講義内容(教科教育法や事前・事後指導等)及び教育実習等で身に付けた学習指導力や生徒指導力等

予備知識	
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>1.レポート 授業内容に関するレポート及び図書館の教育関連図書に関する課題のレポート (1)全体学習 5点×5=25点 (2)オムニバス 8点×5=40点 ・学生の到達度目標1【2-3論理力】65点分で評価 2.成果発表(口頭・板書・実技等) (1)模擬授業 20点 ・学生の到達度目標2【2-4アカデミックスキル】20点分で評価 (2)確認とまとめ 5点 ・学生の到達度目標3【2-1コミュニケーション能力】5点分で評価 3.ポートフォリオ 10点 ・到達目標を達成できたかを評価する。 ・学生の到達度目標4【3-2自己管理力】10点分で評価</p>

1. 将来、教職を目指す学生は必ず受講し、意欲的に授業に参加すること。2. 授業中に、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3. 授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4. 遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5. 授業内容の予習・復習きちんと行うこと。6. レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)		授業内容	開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	教職実践演習ガイドス(全体学習)	対面授業	【予習】教職の意義や職務内容について確認しておく。【復習】〈課題と目標シート〉に自己課題・達成目標・方策等を書き提出する。	20 50
	内容	教職実践演習の趣旨・内容・到達目標及び履修上の注意について説明する。自己の教育課題を認識し、課題解決のための方策や計画を立案する。	講義 演習		
2回	テーマ	教職の意義や職務内容等(全体学習)	対面授業	【予習】教育実習時におけるいじめ問題についてまとめておく。【復習】外部講師の講義・演習から学んだことをまとめて提出する。	20 50
	内容	現職教員や教育委員会関係者から、講義や演習を通じて教師の使命感や責任感、職務内容等について学ぶ。	講義 演習		
3回	テーマ	いじめ問題等の今日的な教育課題への対応(オムニバス)	対面授業	【予習】既習内容から教員の基本的資質を確認しておく。【復習】〈いじめ問題への対応〉をまとめて提出する。	20 50
	内容	学校現場の喫緊の教育課題である「いじめ問題」への対応の仕方についての知識や実践的指導力を事例研究等を通して学ぶ。	講義 演習		
4回	テーマ	教職員としての基本的資質(オムニバス)	対面授業	【予習】学校現場訪問の視点を考えておく。【復習】〈教職員の基本的資質〉をまとめて提出する。	20 50
	内容	事例研究やワーキングジョブを通して社会性や人間関係能力を培う。	講義 演習		
5回	テーマ	学校現場訪問事前学習(全体学習)	対面授業	【予習】学校見学の視点を確認しておく。【復習】〈課外授業・部活動見学の視点〉をまとめて提出する。	30 30
	内容	教科指導法や生徒指導の在り方、部活指導の在り方等の学校現場訪問の視点をグループで話し合う。	講義 演習		
6回	テーマ	学校現場訪問・調査(全体学習)	対面授業	【予習】既習内容から学級経営の在り方を確認しておく。【復習】〈課外授業・部活動見学〉の内容をまとめて提出する。	20 50
	内容	学校現場を見学・調査して、班で設定した視点に基づき見学内容をまとめる。	講義 演習		
7回	テーマ	学級経営の実践演習(オムニバス)	対面授業	【予習】特別支援教育についてまとめておく。【復習】〈学級活動年間指導計画〉を整理し提出する。	20 50
	内容	学級活動(LHR)年間指導計画を作成し、相互評価する。	講義 演習		
8回	テーマ	特別支援教育の現状と対応(全体学習)	対面授業	【予習】既習内容から子どもと保護者の信頼関係の構築方法を確認しておく。【復習】特別支援教育の現状と対応をまとめて提出する。	30 50
	内容	特別支援教育専門家による発達障害等についての講演及び事例研究により特別支援教育について学ぶ。	講義 演習		
9回	テーマ	子どもや保護者との信頼関係の構築及び交流(オムニバス)	対面授業	【予習】既習内容からキャリア教育について確認しておく。【復習】〈受容的傾聴の在り方〉等についてまとめて提出する。	20 50
	内容	子ども・保護者の気持ちの理解、子ども・保護者の話の受容的傾聴の在り方、子ども・保護者の気持ちに即した助言の在り方等について学ぶ。	講義 演習		
10回	テーマ	学校教育の諸課題(オムニバス)	対面授業	【予習】教育実習で作成した学習指導案を準備しておく。【復習】〈キャリア教育の取組の方向性〉をまとめて提出する。	20 50
	内容	キャリア教育の視点に立った学校教育の在り方の実態を参考に討議し、具体的取組の方向性を学ぶ。	講義 演習		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学習指導案の作成(オムニバス)	対面授業 ----- 講義 演習	【予習】教育実習で作成した学習教材を準備しておく。【復習】模擬授業に関する学習指導案を完成する。	20 70
	内容	関係教科・科目の学習指導案の教材作成、発問の仕方、板書の工夫、教育機器の活用等を班別に検討し、協働して作成する。			
12回	テーマ	興味・関心や思考力等を高める教材の作成(オムニバス)	対面授業 ----- 講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業に関する学習教材を完成する。	20 70
	内容	学習指導案に沿って生徒の興味・関心を深め、思考力・判断力・表現力等を育成するための教材を班別に作成する。			
13回	テーマ	模擬授業と授業研究(オムニバス)	対面授業 ----- 講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業を反省し次回の模擬授業の準備をする。	20 70
	内容	作成した学習指導案、教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
14回	テーマ	模擬授業と授業研究(オムニバス)	対面授業 ----- 講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業の反省をまとめレポートを提出する。	20 50
	内容	作成した学習指導案、教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
15回	テーマ	資質・能力定着の確認及びまとめ	対面授業 ----- 講義 演習	【復習】課題と目標シートをまとめ提出する。到達度レポート(ポートフォリオ)の作成・提出	80
	内容	教職実践演習を通じて習得した教員に必要な専門性と基本的資質の定着状況を確認しまとめる。			

科目名	☆教職実践演習B(4美)				開講学年	4	講義コード	2813402	区分	選択	
英文表記	Practical Training for Teaching Profession				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	吉塚 治生 山本 康詞(非常勤) 原北 祥悟 岩本 晃代 中尾 千智 木村 勝美 西澤 頼孝 板橋 克美 藤本 元啓										
研究室	本館附属棟3階319						オフィス アワー 昼休み(本館附属棟3階319)				
メールアドレス	yoshi@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	教育課題への対応 教職員としての基本的資質 学級経営の実践 子どもや保護者との信頼関係 キャリア教育 論理力 アカデミックスキル コミュニケーション能力 自己管理能力										
授業概要	教職実践演習は、大学4年間で学んだ教職に関する知識と教育実習等で得た教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の再確認を行い、不足している知識や技能等を補い、教員としてその職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質・能力の定着を図る科目である。授業では、教員になる上での自己の課題を認識させ、その解決に取り組む中で研究や修養の必要性を自覚させ、自己理解・自己管理能力を育成する。主な授業の形態として、講義、討論、ロールプレイング、事例研究、発表活動等を組み合わせ、教育現場を想定した実践的活動を行うとともに、学校訪問、現職教員による講話を取り入れ、課題対応能力、人間関係・社会形成能力、キャリアプランニング能力等を培う。各課題レポート等のフィードバックについては担当教員より指示をする。							関連科目			
								基礎科目:教職に関する科目、教科に関する科目、文部科学省令で定める科目、教育実習等			
教職関連区分	[教員免許状取得のための必修・選択]・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教育実践に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・教職実践演習							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
g	①	自己の教育課題を授業や自主的学修を通して解決することができる。									
d	②	学習指導の基本的事項(専門的知識・技能、指導方法、教材作成等)を確実に身に付け、適切な模擬授業を行うことができる。									
f,j	③	ディベートやグループディスカッション等に主体的に参加し、意欲的に意見交換・発表をすることができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	65	25	0	10	0	100		
教科書	教職実践演習に関する自作教材 外部講師作成資料										
参考書	教職実践演習 大阪教育出版 梨木昭平 978-4-86429-217-7C3037										

・大学の講義内容(教科教育法や事前・事後指導等)及び教育実習等で身に付けた学習指導力や生徒指導力等

予備知識

実務経験
のある
教員

評価明細
基準

1.レポート 授業内容に関するレポート及び図書館の教育関連図書に関する課題のレポート (1)全体学習 5点×5=25点 (2)オムニバス 8点×5=40点 ・学生の到達度目標1【2-3論理力】65点分で評価 2.成果発表(口頭・板書・実技等) (1)模擬授業 20点 ・学生の到達度目標2【2-4アカデミックスキル】20点分で評価 (2)確認とまとめ 5点 ・学生の到達度目標3【2-1コミュニケーション能力】5点分で評価 3.ポートフォリオ 10点 ・到達目標を達成できたかを評価する。 ・学生の到達度目標4【3-2自己管理力】10点分で評価

1.将来、教職を目指す学生は必ず受講し、意欲的に授業に参加すること。2.授業中に、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3.授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4.遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5.授業内容の予習・復習きちんと行うこと。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	教職実践演習ガイドス(全体学習)	対面授業	【予習】教職の意義や職務内容について確認しておく。【復習】<課題と目標シート>に自己課題・達成目標・方策等を書き提出する。	20 50
	内容	教職実践演習の趣旨・内容・到達目標及び履修上の注意について説明する。自己の教育課題を認識し、課題解決のための方策や計画を立案する。	講義 演習		
2回	テーマ	教職の意義や職務内容等(全体学習)	対面授業	【予習】教育実習時におけるいじめ問題についてまとめておく。【復習】外部講師の講義・演習から学んだことをまとめて提出する。	20 50
	内容	現職教員や教育委員会関係者から、講義や演習を通じて教師の使命感や責任感、職務内容等について学ぶ。	講義 演習		
3回	テーマ	いじめ問題等の今日的な教育課題への対応(オムニバス)	対面授業	【予習】既習内容から教員の基本的資質を確認しておく。【復習】<いじめ問題への対応>をまとめて提出する。	20 50
	内容	学校現場の喫緊の教育課題である「いじめ問題」への対応の仕方についての知識や実践的指導力を事例研究等を通して学ぶ。	講義 演習		
4回	テーマ	教職員としての基本的資質(オムニバス)	対面授業	【予習】学校現場訪問の視点を考えておく。【復習】<教職員の基本的資質>をまとめて提出する。	20 50
	内容	事例研究やワーキングジョブを通して社会性や人間関係能力を培う。	講義 演習		
5回	テーマ	学校現場訪問事前学習(全体学習)	対面授業	【予習】学校見学の視点を確認しておく。【復習】<課外授業・部活動見学の視点>をまとめて提出する。	30 30
	内容	教科指導法や生徒指導の在り方、部活指導の在り方等の学校現場訪問の視点をグループで話し合う。	講義 演習		
6回	テーマ	学校現場訪問・調査(全体学習)	対面授業	【予習】既習内容から学級経営の在り方を確認しておく。【復習】<課外授業・部活動見学>の内容をまとめて提出する。	20 50
	内容	学校現場を見学・調査して、班で設定した視点に基づき見学内容をまとめる。	講義 演習		
7回	テーマ	学級経営の実践演習(オムニバス)	対面授業	【予習】特別支援教育についてまとめておく。【復習】<学級活動年間指導計画>を整理し提出する。	20 50
	内容	学級活動(LHR)年間指導計画を作成し、相互評価する。	講義 演習		
8回	テーマ	特別支援教育の現状と対応(全体学習)	対面授業	【予習】既習内容から子どもと保護者の信頼関係の構築方法を確認しておく。【復習】特別支援教育の現状と対応をまとめて提出する。	30 50
	内容	特別支援教育専門家による発達障害等についての講演及び事例研究により特別支援教育について学ぶ。	講義 演習		
9回	テーマ	子どもや保護者との信頼関係の構築及び交流(オムニバス)	対面授業	【予習】既習内容からキャリア教育について確認しておく。【復習】<受容的傾聴の在り方>等についてまとめて提出する。	20 50
	内容	子ども・保護者の気持ちの理解、子ども・保護者の話の受容的傾聴の在り方、子ども・保護者の気持ちに即した助言の在り方等について学ぶ。	講義 演習		
10回	テーマ	学校教育の諸課題(オムニバス)	対面授業	【予習】教育実習で作成した学習指導案を準備しておく。【復習】<キャリア教育の取組の方向性>をまとめて提出する。	20 50
	内容	キャリア教育の視点に立った学校教育の在り方の実態を参考に討議し、具体的取組の方向性を学ぶ。	講義 演習		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	学習指導案の作成(オムニバス)	対面授業 ----- 講義 演習	【予習】教育実習で作成した学習教材を準備しておく。【復習】模擬授業に関する学習指導案を完成する。	20 70
	内容	関係教科・科目の学習指導案の教材作成、発問の仕方、板書の工夫、教育機器の活用等を班別に検討し、協働して作成する。			
12回	テーマ	興味・関心や思考力等を高める教材の作成(オムニバス)	対面授業 ----- 講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業に関する学習教材を完成する。	20 70
	内容	学習指導案に沿って生徒の興味・関心を深め、思考力・判断力・表現力等を育成するための教材を班別に作成する。			
13回	テーマ	模擬授業と授業研究(オムニバス)	対面授業 ----- 講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業を反省し次回の模擬授業の準備をする。	20 70
	内容	作成した学習指導案、教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
14回	テーマ	模擬授業と授業研究(オムニバス)	対面授業 ----- 講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業の反省をまとめレポートを提出する。	20 50
	内容	作成した学習指導案、教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
15回	テーマ	資質・能力定着の確認及びまとめ	対面授業 ----- 講義 演習	【復習】課題と目標シートをまとめ提出する。到達度レポート(ポートフォリオ)の作成・提出	80
	内容	教職実践演習を通じて習得した教員に必要な専門性と基本的資質の定着状況を確認しまとめる。			

科目名	☆教職実践演習C (4 微)				開講学年	4	講義コード	2813403	区分	選択	
英文表記	Practical Training for Teaching Profession				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	原北 祥悟 山本 康詞 (非常勤) 吉塚 治生 岩本 晃代 中尾 千智 木村 勝美 西澤 頼孝 板橋 克美 藤本 元啓										
研究室	本館附属棟 3 階 3 1 1						オフィス アワー 昼休み (本館附属棟 3 階 3 1 1)				
メールアドレス	harakita@ed.sojo-u.ac.jp										
キーワード	教育課題への対応 教職員としての基本的資質 学級経営の実践 子どもや保護者との信頼関係 キャリア教育 論理力 アカデミックスキル コミュニケーション能力 自己管理能力										
授業概要	教職実践演習は、大学4年間で学んだ教職に関する知識と教育実習等で得た教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の再確認を行い、不足している知識や技能等を補い、教員としてその職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質・能力の定着を図る科目である。授業では、教員になる上での自己の課題を認識させ、その解決に取り組む中で研究や修養の必要性を自覚させ、自己理解・自己管理能力を育成する。主な授業の形態として、講義、討論、ロールプレイング、事例研究、発表活動等を組み合わせ、教育現場を想定した実践的活動を行うとともに、学校訪問、現職教員による講話を取り入れ、課題対応能力、人間関係・社会形成能力、キャリアプランニング能力等を培う。各課題レポート等のフィードバックについては担当教員より指示をする。							関連科目			
								基礎科目:教職に関する科目、教科に関する科目、文部科学省令で定める科目、教育実習等			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・中学校及び高等学校 必修【科目区分】・・・教育実践に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・・・教職実践演習							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
g	①	自己の教育課題を授業や自主的学修を通して解決することができる。									
d	②	学習指導の基本的事項(専門的知識・技能、指導方法、教材作成等)を確実に身に付け、適切な模擬授業を行うことができる。									
f,i	③	ディベートやグループディスカッション等に主体的に参加し、意欲的に意見交換・発表をすることができる。									
g	④	本科目における「学生の到達度目標」をポートフォリオで自己評価することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	65	25	0	10	0	100		
教科書	教職実践演習に関する自作教材 外部講師作成資料										
参考書	教職実践演習 大阪教育出版 梨木昭平 978-4-86429-217-7C3037										

・大学の講義内容(教科教育法や事前・事後指導等)及び教育実習等で身に付けた学習指導力や生徒指導力等

予備知識

実務経験
のある
教員

評価明細
基準

1.レポート 授業内容に関するレポート及び図書館の教育関連図書に関する課題のレポート (1)全体学習 5点×5=25点 (2)オムニバス 8点×5=40点 ・学生の到達度目標1【2-3論理力】65点分で評価 2.成果発表(口頭・板書・実技等) (1)模擬授業 20点 ・学生の到達度目標2【2-4アカデミックスキル】20点分で評価 (2)確認とまとめ 5点 ・学生の到達度目標3【2-1コミュニケーション能力】5点分で評価 3.ポートフォリオ 10点 ・到達目標を達成できたかを評価する。 ・学生の到達度目標4【3-2自己管理力】10点分で評価

1.将来、教職を目指す学生は必ず受講し、意欲的に授業に参加すること。2.授業中に、ディベートやグループディスカッション、グループワーク、模擬授業を行うので主体的に参加すること。3.授業中に指示した課題や図書館の教育関連図書を活用した課題を調査研究し、レポートを期日を厳守して提出すること。4.遅刻出席は授業開始後20分まで。20分を超えた場合は欠席とする。5.授業内容の予習・復習きちんと行うこと。6.レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃(ひょうせつ)は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ 内容	教職実践演習ガイドス(全体学習) 教職実践演習の趣旨・内容・到達目標及び履修上の注意について説明する。自己の教育課題を認識し、課題解決のための方策や計画を立案する。	対面授業 講義 演習	【予習】教職の意義や職務内容について確認しておく。【復習】〈課題と目標シート〉に自己課題・達成目標・方策等を書き提出する。	20 50
2回	テーマ 内容	教職の意義や職務内容等(全体学習) 現職教員や教育委員会関係者から、講義や演習を通じて教師の使命感や責任感、職務内容等について学ぶ。	対面授業 講義 演習	【予習】教育実習時におけるいじめ問題についてまとめておく。【復習】外部講師の講義・演習から学んだことをまとめて提出する。	20 50
3回	テーマ 内容	いじめ問題等の今日的な教育課題への対応(オムニバス) 学校現場の喫緊の教育課題である「いじめ問題」への対応の仕方についての知識や実践的指導力を事例研究等を通して学ぶ。	対面授業 講義 演習	【予習】既習内容から教員の基本的資質を確認しておく。【復習】〈いじめ問題への対応〉をまとめて提出する。	20 50
4回	テーマ 内容	教職員としての基本的資質(オムニバス) 事例研究やワーキングジョブを通して社会性や人間関係能力を培う。	対面授業 講義 演習	【予習】学校現場訪問の視点を考えておく。【復習】〈教職員の基本的資質〉をまとめて提出する。	20 50
5回	テーマ 内容	学校現場訪問事前学習(全体学習) 教科指導法や生徒指導の在り方、部活指導の在り方等の学校現場訪問の視点をグループで話し合う。	対面授業 講義 演習	【予習】学校見学の視点を確認しておく。【復習】〈課外授業・部活動見学の視点〉をまとめて提出する。	30 30
6回	テーマ 内容	学校現場訪問・調査(全体学習) 学校現場を見学・調査して、班で設定した視点に基づき見学内容をまとめる。	対面授業 講義 演習	【予習】既習内容から学級経営の在り方を確認しておく。【復習】〈課外授業・部活動見学〉の内容をまとめて提出する。	20 50
7回	テーマ 内容	学級経営の実践演習(オムニバス) 学級活動(LHR)年間指導計画を作成し、相互評価する。	対面授業 講義 演習	【予習】特別支援教育についてまとめておく。【復習】〈学級活動年間指導計画〉を整理し提出する。	20 50
8回	テーマ 内容	特別支援教育の現状と対応(全体学習) 特別支援教育専門家による発達障害等についての講演及び事例研究により特別支援教育について学ぶ。	対面授業 講義 演習	【予習】既習内容から子どもと保護者の信頼関係の構築方法を確認しておく。【復習】〈特別支援教育の現状と対応〉をまとめて提出する。	30 50
9回	テーマ 内容	子どもや保護者との信頼関係の構築及び交流(オムニバス) 子ども・保護者の気持ちの理解、子ども・保護者の話の受容的傾聴の在り方、子ども・保護者の気持ちに即した助言の在り方等について学ぶ。	対面授業 講義 演習	【予習】既習内容からキャリア教育について確認しておく。【復習】〈受容的傾聴の在り方〉等についてまとめて提出する。	20 50
10回	テーマ 内容	学校教育の諸課題(オムニバス) キャリア教育の視点に立った学校教育の在り方の実態を参考に討議し、具体的取組の方向性を学ぶ。	対面授業 講義 演習	【予習】教育実習で作成した学習指導案を準備しておく。【復習】〈キャリア教育の取組の方向性〉をまとめて提出する。	20 50

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	学習指導案の作成(オムニバス)	対面授業 ----- 講義 演習	【予習】教育実習で作成した学習教材を準備しておく。【復習】模擬授業に関する学習指導案を完成する。	20 70
	内容	関係教科・科目の学習指導案の教材作成、発問の仕方、板書の工夫、教育機器の活用等を班別に検討し、協働して作成する。			
12回	テーマ	興味・関心や思考力等を高める教材の作成(オムニバス)	対面授業 ----- 講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業に関する学習教材を完成する。	20 70
	内容	学習指導案に沿って生徒の興味・関心を深め、思考力・判断力・表現力等を育成するための教材を班別に作成する。			
13回	テーマ	模擬授業と授業研究(オムニバス)	対面授業 ----- 講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業を反省し次回の模擬授業の準備をする。	20 70
	内容	作成した学習指導案、教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
14回	テーマ	模擬授業と授業研究(オムニバス)	対面授業 ----- 講義 演習	【予習】模擬授業の準備をしておく。【復習】模擬授業の反省をまとめレポートを提出する。	20 50
	内容	作成した学習指導案、教材等による模擬授業を行い、授業後に授業研究を行う。			
15回	テーマ	資質・能力定着の確認及びまとめ	対面授業 ----- 講義 演習	【復習】課題と目標シートをまとめ提出する。到達度レポート(ポートフォリオ)の作成・提出	80
	内容	教職実践演習を通じて習得した教員に必要な専門性と基本的資質の定着状況を確認しまとめる。			